

第2章

救急活動統計

第1節 救急出場件数

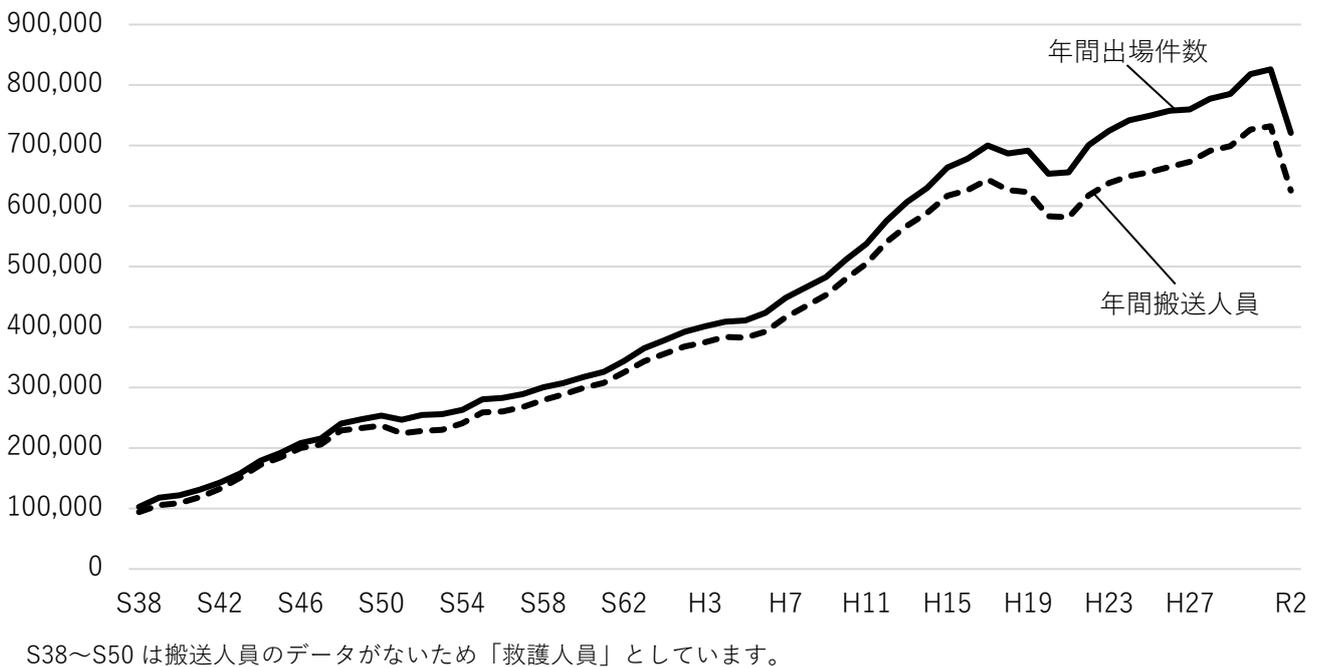
1 救急業務法制化以降の推移

(1) 出場件数・搬送人員・救急隊数の推移

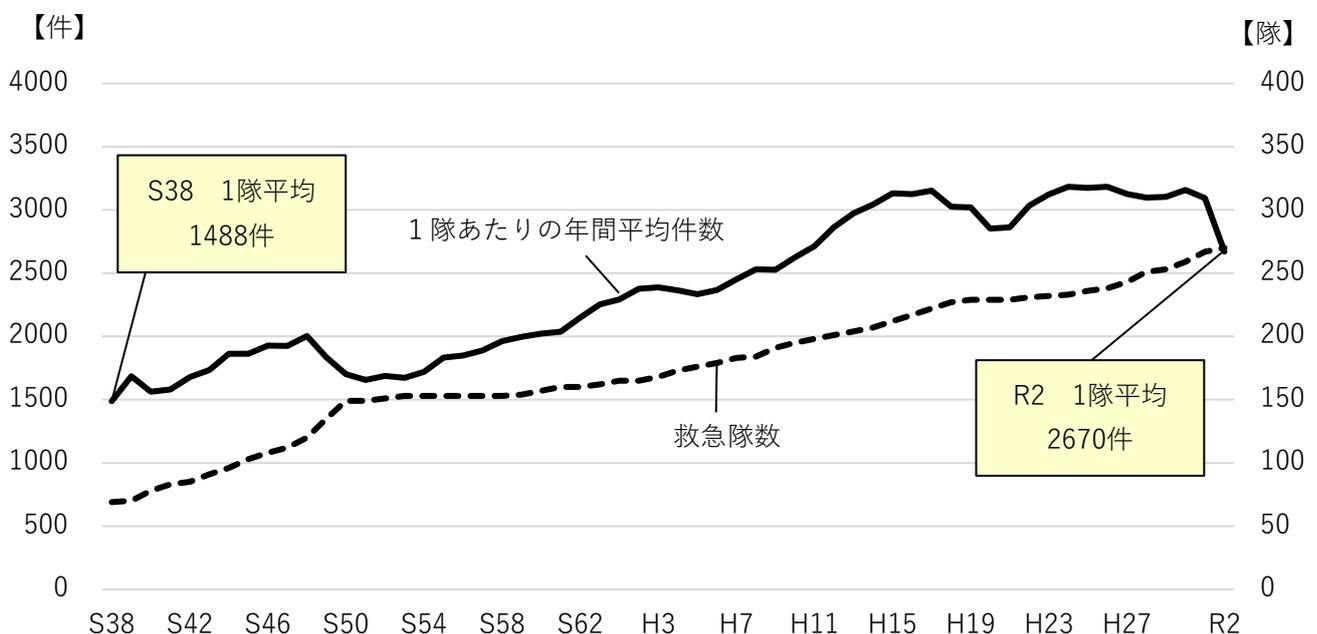
救急出場件数は、救急業務が法制化された昭和38年(1963年)の102,660件から令和2年(2020年)には720,965件となり、57年間で約7.0倍の増加となっています。

同じく救急隊数の推移は、69隊から270隊と約3.9倍の増加で、1隊あたりの年間平均出場件数は1,488件から2,670件と約1.8倍の増加となっています。

図表 2-1-1 救急業務法制化以降の救急出場件数・搬送人員の推移



図表 2-1-2 救急隊数及び1隊あたり年間平均出場件数の推移



図表 2-1-3 救急出場件数等の推移（年次別）

年次	出場件数	搬送人員	隊数	年次	出場件数	搬送人員	隊数
昭和 11 年	1,022	837	6	昭和 54 年	263,141	240,936	153
昭和 12 年	1,736	1,307	6	昭和 55 年	280,395	258,860	153
昭和 13 年	1,937	1,528	6	昭和 56 年	282,886	260,399	153
昭和 14 年	2,206	1,922	6	昭和 57 年	289,090	267,804	153
昭和 15 年	2,161	1,834	6	昭和 58 年	300,299	279,163	153
昭和 16 年	2,208	1,787	6	昭和 59 年	307,420	288,735	154
昭和 17 年	1,330	1,298	7	昭和 60 年	317,375	299,590	157
昭和 18 年	1,220	1,185	7	昭和 61 年	325,931	307,560	160
昭和 19 年	962	881	7	昭和 62 年	343,951	324,981	160
昭和 20 年	245	239	3	昭和 63 年	364,902	343,312	162
昭和 21 年	1,231	1,199	18	平成元年	378,205	355,654	165
昭和 22 年	2,897	2,660	19	平成 2 年	392,200	367,848	165
昭和 23 年	3,089	2,722	17	平成 3 年	401,104	374,616	168
昭和 24 年	3,967	3,608	17	平成 4 年	408,864	383,550	173
昭和 25 年	7,846	7,534	19	平成 5 年	410,828	382,410	176
昭和 26 年	10,108	9,267	23	平成 6 年	423,584	392,423	179
昭和 27 年	10,747	9,684	23	平成 7 年	448,450	416,173	183
昭和 28 年	12,475	10,985	25	平成 8 年	465,548	434,206	184
昭和 29 年	15,665	13,465	25	平成 9 年	482,612	453,004	191
昭和 30 年	19,159	16,075	25	平成 10 年	511,892	480,139	195
昭和 31 年	25,320	21,350	25	平成 11 年	537,416	504,675	198
昭和 32 年	33,478	28,691	30	平成 12 年	575,690	540,660	201
昭和 33 年	44,120	37,882	39	平成 13 年	606,695	567,451	204
昭和 34 年	54,968	47,459	49	平成 14 年	629,883	588,502	207
昭和 35 年	70,206	62,905	57	平成 15 年	663,765	616,996	212
昭和 36 年	80,468	73,088	62	平成 16 年	678,178	626,231	217
昭和 37 年	87,432	80,568	66	平成 17 年	699,971	643,849	222
昭和 38 年	102,660	94,095	69	平成 18 年	686,801	626,543	227
昭和 39 年	117,948	105,439	70	平成 19 年	691,549	623,012	229
昭和 40 年	121,865	108,974	78	平成 20 年	653,260	583,082	229
昭和 41 年	131,160	118,774	83	平成 21 年	655,631	581,358	229
昭和 42 年	142,710	132,368	85	平成 22 年	700,981	617,819	231
昭和 43 年	157,832	150,972	91	平成 23 年	724,436	638,093	232
昭和 44 年	178,828	171,937	96	平成 24 年	741,702	649,429	233
昭和 45 年	191,890	184,420	103	平成 25 年	749,032	655,925	236
昭和 46 年	208,155	199,965	108	平成 26 年	757,554	664,629	238
昭和 47 年	215,621	205,896	112	平成 27 年	759,802	673,145	243
昭和 48 年	240,419	229,059	120	平成 28 年	777,382	691,423	251
昭和 49 年	247,559	232,993	135	平成 29 年	785,184	698,928	253
昭和 50 年	253,476	236,859	149	平成 30 年	818,062	726,428	259
昭和 51 年	246,682	224,291	149	令和元年	825,929	731,900	267
昭和 52 年	254,709	228,289	151	令和 2 年	720,965	625,639	270
昭和 53 年	255,853	230,109	153	総数	26,404,115	24,083,480	—

昭和 11 年～昭和 50 年は搬送人員のデータがないため救護人員としています。
隊数は各年 12 月 31 日現在の数を示しています。

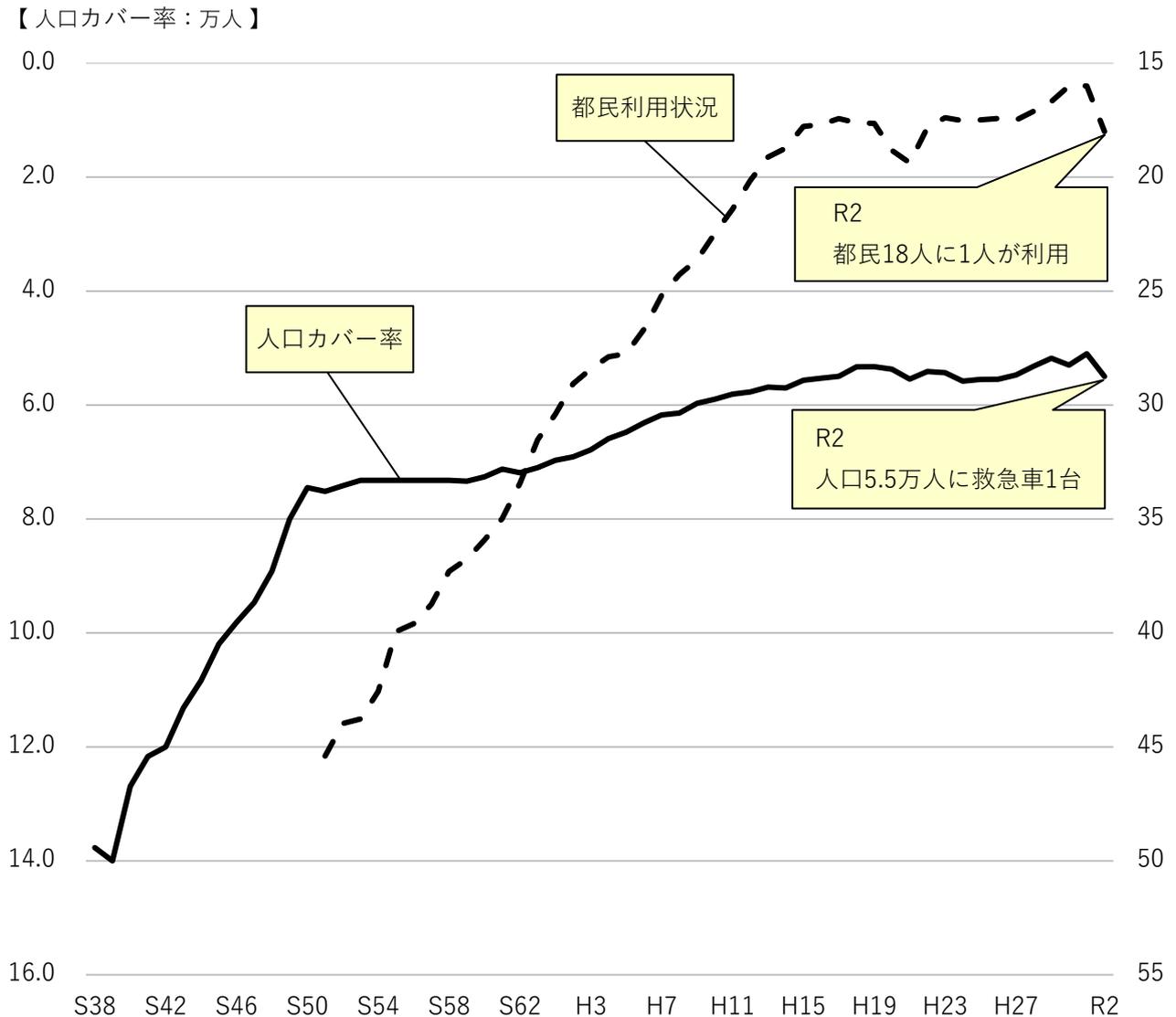
(2) 救急隊1隊あたりの人口カバー率と救急車利用状況の推移

救急隊1隊がカバーする人口割合（人口カバー率）は、昭和52年当時は人口約7.5万人に1隊でしたが、令和2年には約5.5万人に1隊となりました。

一方、同年での比較における都民の救急車の利用状況は、都民45人に1人の利用であったものが、18人に1人の利用となっています。

これは、都民の救急車利用頻度の上昇が救急隊の人口カバー率の上昇を上回っていることを示しています。

図表 2-1-4 救急隊1隊あたりの人口カバー率と都民の救急車利用状況の推移



都民の救急車利用状況のデータについては、昭和51年以降のデータを表示しています。

2 過去5年間の推移

平成28年から令和2年までの、過去5年の東京消防庁の救急出場件数の推移及び令和元年中における全国の出場件数は次のとおりです（令和2年4月1日現在、全国救急隊数5,270隊、救急車台数（非常用含む）6,443台）。

図表 2-1-5 過去5年間の救急出場件数等の推移

区分	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	全国※
出場件数	777,382	785,184	818,062	825,929	720,965	6,639,767
対前年増加数（件）	17,580	7,802	32,878	7,867	-104,964	34,554
対前年増加率（％）	2.3%	1.0%	4.2%	1.0%	-12.7%	0.5%
1日平均件数	2,124	2,151	2,241	2,263	1,970	18,191
1隊あたり平均件数	3,110	3,103	3,159	3,093	2,670	-
1隊1日平均件数	8.5	8.5	8.7	8.5	7.3	-
都民（国民）の利用状況 （何人に1人の割合）	17人	17人	16人	16人	18人	21人
出場頻度 （何秒に1回の割合）	41秒	40秒	39秒	38秒	44秒	4.7秒
人口1万人あたりの件数	580	581	600	602	547	529

全国の数値は令和元年中のものであります。

3 日別最多出場件数

令和2年中日別救急出場件数で最も多かったのは1月6日の2,841件でした。過去を含めた日別出場件数は以下のとおりです。

図表 2-1-6 日別出場件数上位10日

順位	年月日	件数
1	平成30年7月23日	3,382
2	平成30年7月22日	3,124
3	平成30年7月21日	3,092
4	令和元年8月3日	3,058
5	平成30年8月3日	3,048
6	平成30年7月18日	3,036
7	令和元年8月1日	3,003
8	平成30年7月20日	2,990
9	平成30年7月19日	2,979
10	令和元年8月2日	2,978

4 救急隊別出場件数の推移

令和2年中、1隊あたりの最多出場件数は、大久保救急隊の3,650件でした。

また、出場件数3,000件を超えた救急隊は、全隊数の19.3%にあたる52隊でした。

図表 2-1-7 救急隊別出場件数上位10隊の推移

順位	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	1	大久保	4,304	大久保	4,278	大久保	4,364	大久保	4,438	大久保
2	深川	3,891	豊島	3,801	芝	4,118	芝	4,116	八王子第1	3,599
3	高円寺	3,856	大島	3,770	豊島	4,006	池袋	3,906	大島	3,595
4	杉並	3,809	池袋	3,769	王子	3,941	大島	3,882	江戸川第1	3,496
5	日本橋	3,791	芝	3,751	池袋	3,900	練馬	3,881	八王子第2	3,423
6	池袋	3,788	板橋	3,735	麻布	3,886	三田	3,878	江戸川第2	3,354
7	板橋	3,771	蓮根	3,732	志村坂上	3,876	赤羽台	3,877	淵江	3,343
8	豊島	3,757	高島平	3,726	本郷	3,872	江戸川第1	3,854	板橋	3,303
9	常盤台	3,748	日本橋	3,713	日本橋	3,850	八王子第1	3,827	練馬	3,296
10	蓮根	3,743	赤羽台	3,712	練馬	3,826	志村坂上	3,819	立花	3,270
3,000件以上の隊	189隊		177隊		191隊		184隊		52隊	
全隊数※	251隊		253隊		259隊		267隊		270隊	
割合	75.3%		70.0%		73.7%		68.9%		19.3%	

※各年12月31日現在

図表 2-1-8 救急隊別出場件数

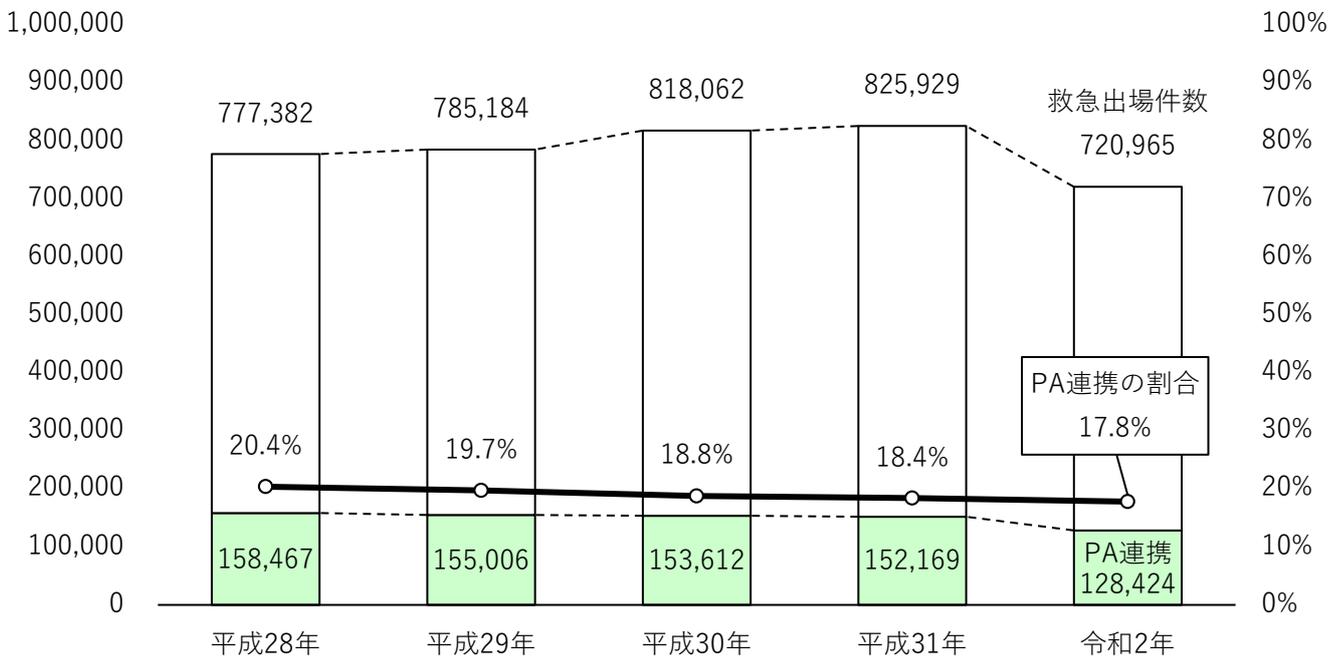
隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数	隊名	件数
本庁計	8,021	玉川	2,880	西が丘	3,237	深川	3,024	緑町	2,436
本部機動第1	2,019	奥沢	2,645	赤羽台	3,166	有明	2,104	小平	2,775
本部機動第2	2,282	用賀	2,993	滝野川	2,682	枝川	2,619	小川	2,765
本部機動第3	1,742	玉川新町	2,693	三軒家	2,892	豊洲	2,445	花小金井	2,988
本部機動第4	1,703	成城	2,712	田端	3,145	森下	2,685	東村山	2,485
航空機動	275	千歳第1	2,866	10方面計	57,242	城東第1	3,090	秋津	2,301
1方面計	36,833	千歳第2	2,685	板橋	3,303	城東第2	550	本町	2,953
丸の内	2,321	烏山	2,429	常盤台	3,194	東砂	3,003	国分寺	2,822
永田町	2,321	渋谷第1	2,744	小茂根	2,904	大島	3,595	戸倉	2,546
神田	2,887	渋谷第2	2,565	志村	2,925	砂町	2,635	狛江	2,508
三崎町	2,224	恵比寿	2,820	蓮根	3,012	本田第1	2,991	猪方	2,006
京橋	2,633	松濤	2,705	赤塚	3,036	本田第2	2,820	北多摩西部	2,562
銀座	2,644	代々木	2,469	志村坂上	3,210	南綾瀬	2,772	三ツ木	2,150
日本橋	2,987	富ヶ谷	2,254	高島平第1	3,008	青戸	2,900	東大和	2,502
浜町	508	原宿	1,912	高島平第2	2,850	奥戸	2,685	清瀬	1,837
月島	2,541	4方面計	75,743	練馬	3,296	金町	2,660	竹丘	2,530
芝	2,882	四谷	2,793	平和台	3,038	亀有	3,035	東久留米	2,497
三田	2,910	新宿御苑第1	2,639	貫井	2,991	柴又	2,577	新川	1,897
麻布	2,955	新宿御苑第2	2,472	光が丘	3,202	水元	2,630	西東京	2,809
赤坂	2,374	牛込	2,856	北町	3,136	江戸川第1	3,496	田無	2,799
高輪	2,636	新宿第1	2,657	石神井	2,890	江戸川第2	3,354	西原	2,970
港南	2,010	新宿第2	2,467	関町	2,716	小松川	3,020	保谷	2,193
2方面計	55,994	落合	2,971	大泉	2,841	瑞江	2,735	9方面計	78,529
2本部機動	37	戸塚	2,977	大泉学園	2,776	葛西第1	3,265	9本部機動	1,142
品川	2,872	大久保	3,650	石神井公園	2,914	葛西第2	3,096	八王子第1	3,599
大崎	2,706	西新宿第1	2,700	6方面計	67,812	船堀	3,104	八王子第2	3,423
五反田	2,997	西新宿第2	2,503	6本部機動	158	南葛西	2,509	元八王子	2,661
大井	2,562	中野	3,077	上野	2,919	小岩	2,744	小宮	2,800
滝王子	2,603	宮園	2,675	下谷	2,816	篠崎	2,287	浅川	2,782
八潮	1,908	東中野	3,083	谷中	2,106	南小岩	2,975	浅川特殊(小型)	38
荏原	2,931	野方第1	3,024	浅草	2,584	北小岩	2,596	北野	2,696
旗の台	2,762	野方第2	2,867	浅草橋	2,681	8方面	116,176	由木	2,470
大森	2,813	鷺宮	2,618	日本堤	2,965	8本部機動	8	みなみ野	2,170
馬込	2,586	杉並	3,037	今戸	2,473	立川	2,405	檜原	2,562
市野倉	2,879	永福	2,695	荒川	2,918	錦町第1	3,050	青梅	2,457
山谷	2,819	堀ノ内	2,816	南千住	2,664	錦町第2	2,861	日向和田	1,332
森ヶ崎	2,167	阿佐ヶ谷	3,056	尾久	2,912	国立	2,849	長淵	1,778
田園調布	2,686	高円寺	3,242	尾竹橋	2,620	砂川	2,437	町田第1	2,842
久が原	2,520	高井戸	2,656	千住第1	2,607	武蔵野	2,532	町田第2	2,666
蒲田	3,182	荻窪	2,915	千住第2	2,437	武蔵境	2,565	忠生	2,410
羽田	2,628	西荻	2,431	足立第1	3,262	吉祥寺	2,383	南	2,464
空港	485	久我山	2,304	足立第2	3,053	三鷹	2,708	鶴川	2,404
矢口	2,542	下井草	2,562	綾瀬	3,228	下連雀	2,740	西町田	1,899
下丸子	2,301	5方面計	54,263	淵江	3,343	大沢	2,452	成瀬	2,966
西蒲田	2,984	小石川	2,332	大谷田	3,083	府中	2,790	日野	2,847
西六郷	2,024	大塚	2,861	神明	2,909	分梅	2,700	豊田	2,535
3方面計	66,041	本郷	2,894	西新井	2,968	是政	2,494	高幡	2,836
3本部特殊	5	根津	2,671	大師前	2,980	栄町	2,664	福生	2,200
目黒第1	2,725	豊島	3,138	上沼田	2,959	朝日	2,227	羽村	2,473
目黒第2	2,569	巣鴨	3,077	本木	2,737	朝日特殊	8	瑞穂	1,780
碑文谷	2,833	目白	2,609	舎人	2,430	昭島	2,316	熊川	2,082
大岡山	2,404	池袋	3,167	7方面	103,944	昭和	2,409	多摩	2,689
世田谷	3,131	池袋デイトム	930	本所	3,137	大神	2,497	多摩センター第1	2,687
宮の坂	2,623	長崎	2,984	緑	3,022	調布第1	3,012	多摩センター第2	2,534
松原第1	2,588	高松	3,156	東駒形	2,712	調布第2	506	秋川	1,628
松原第2	2,395	王子	3,224	向島	3,253	つつじヶ丘	2,758	秋留台	1,809
三宿	2,923	十条	3,127	墨田	2,549	国領	2,726	檜原	486
上北沢	2,473	赤羽	2,971	立花	3,270	小金井	2,748	奥多摩	382

5 PA連携と救急出場件数

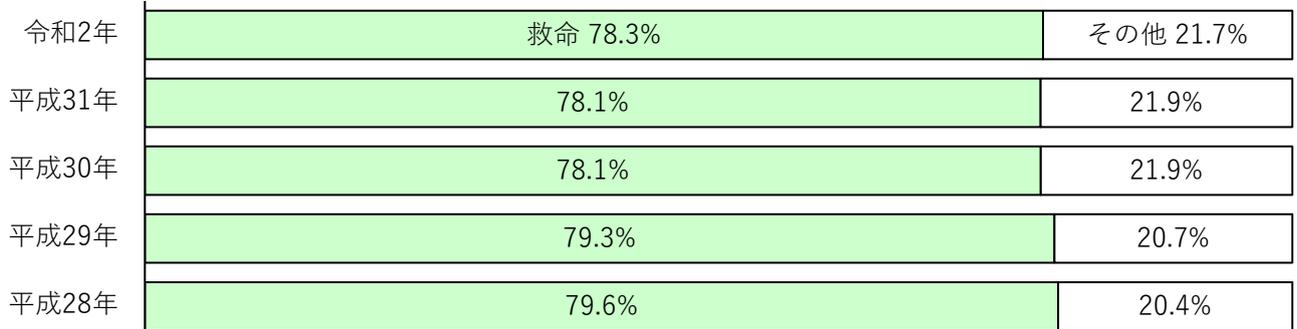
過去5年の推移をみると、救急出場件数に占めるPA連携件数の割合は、ほぼ横ばいです。

運用区分別では「救命」が78.3%を占め、次いで「搬送困難」の割合が多くなっています。

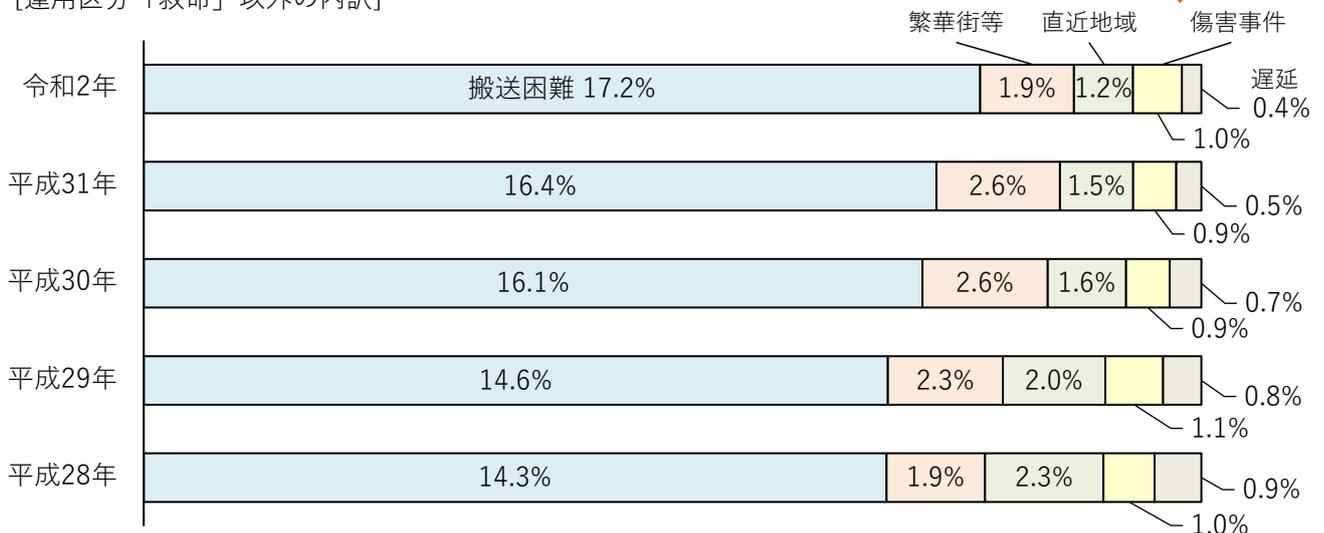
図表 2-1-9 PA連携活動の件数及び救急出場件数に占める割合の推移



図表 2-1-10 PA連携活動運用区分別構成比率の推移



[運用区分「救命」以外の内訳]



図表 2-1-11 所属別 PA 連携活動件数

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA 連携 の割合
丸の内	303	51	2	-	5	1	362	2,321	15.6%
麹町	326	156	5	-	33	-	520	2,321	22.4%
神田	544	171	14	7	26	-	762	5,111	14.9%
京橋	493	156	10	3	4	-	666	5,277	12.6%
日本橋	454	145	2	-	13	1	615	3,495	17.6%
臨港	391	39	7	-	9	2	448	2,541	17.6%
芝	834	141	8	-	5	1	989	5,792	17.1%
麻布	588	178	19	191	55	5	1,036	2,955	35.1%
赤坂	413	267	8	1	66	-	755	2,374	31.8%
高輪	612	160	14	8	22	-	816	4,646	17.6%
品川	1,058	185	15	-	5	1	1,264	8,575	14.7%
大井	770	96	10	-	6	2	884	7,073	12.5%
荏原	942	208	3	-	10	-	1,163	5,693	20.4%
大森	1,576	288	20	33	15	3	1,935	13,264	14.6%
田園調布	1,070	272	8	-	14	3	1,367	5,206	26.3%
蒲田	1,415	255	22	-	26	8	1,726	6,295	27.4%
矢口	972	231	15	-	6	3	1,227	9,851	12.5%
目黒	1,491	332	14	-	18	3	1,858	10,531	17.6%
世田谷	2,438	669	33	178	17	6	3,341	16,133	20.7%
玉川	1,265	495	12	-	11	6	1,789	11,211	16.0%
成城	1,626	380	13	-	5	12	2,036	10,692	19.0%
渋谷	2,031	497	38	271	11	2	2,850	17,469	16.3%
四谷	478	124	14	38	87	-	741	7,904	9.4%
牛込	739	229	11	1	5	1	986	2,856	34.5%
新宿	2,577	351	108	1,049	17	1	4,103	19,925	20.6%
中野	1,111	423	12	3	22	1	1,572	8,835	17.8%
野方	1,232	247	10	-	8	3	1,500	8,509	17.6%
杉並	2,151	474	15	-	10	6	2,656	17,502	15.2%
荻窪	1,410	376	23	22	108	8	1,947	10,212	19.1%
小石川	658	152	7	-	3	-	820	5,193	15.8%
本郷	568	180	4	63	48	2	865	5,565	15.5%
豊島	1,215	266	23	-	6	2	1,512	8,824	17.1%
池袋	1,127	212	13	-	8	3	1,363	10,237	13.3%
王子	863	163	9	-	11	2	1,048	6,351	16.5%
赤羽	1,262	232	12	12	10	4	1,532	9,374	16.3%
滝野川	665	150	2	-	7	-	824	8,719	9.5%
板橋	1,528	303	23	-	11	3	1,868	9,401	19.9%
志村	2,664	566	23	-	19	25	3,297	18,041	18.3%
練馬	1,686	232	6	-	14	4	1,942	9,325	20.8%
光が丘	1,147	222	6	-	37	7	1,419	6,338	22.4%
石神井	2,226	389	20	-	22	22	2,679	14,137	19.0%

所属	救命	搬送困難	傷害事件等	繁華街等	直近地域	遅延	合計	管内救急 出場件数	PA 連携 の割合
上野	851	315	17	229	47	-	1,459	7,841	18.6%
浅草	390	117	4	-	11	1	523	5,265	9.9%
日本堤	707	247	19	4	28	1	1,006	5,438	18.5%
荒川	946	298	11	-	11	-	1,266	5,582	22.7%
尾久	608	263	8	-	36	1	916	5,532	16.6%
千住	818	185	4	22	122	-	1,151	5,044	22.8%
足立	3,008	490	31	1	23	21	3,574	18,878	18.9%
西新井	1,799	380	16	-	15	18	2,228	14,074	15.8%
本所	998	302	29	16	45	3	1,393	8,871	15.7%
向島	1,048	412	9	-	18	1	1,488	9,072	16.4%
深川	1,799	303	16	-	32	3	2,153	12,877	16.7%
城東	1,813	504	32	-	24	6	2,379	12,873	18.5%
本田	2,123	390	29	-	11	10	2,563	14,168	18.1%
金町	1,395	271	18	-	15	25	1,724	10,902	15.8%
江戸川	1,772	332	23	-	15	11	2,153	12,605	17.1%
葛西	1,670	94	17	-	9	9	1,799	11,974	15.0%
小岩	1,586	240	29	127	37	14	2,033	10,602	19.2%
立川	2,109	414	11	1	8	1	2,544	13,602	18.7%
武蔵野	1,064	241	23	-	3	1	1,332	7,480	17.8%
三鷹	1,133	248	23	1	9	2	1,416	7,900	17.9%
府中	1,781	332	19	-	15	1	2,148	12,883	16.7%
昭島	807	96	7	-	2	-	912	7,222	12.6%
調布	1,595	245	10	-	8	6	1,864	9,002	20.7%
小金井	682	170	5	-	11	1	869	5,184	16.8%
小平	1,323	351	7	-	3	1	1,685	8,528	19.8%
東村山	1,206	402	21	-	9	7	1,645	7,739	21.3%
国分寺	804	189	2	-	10	-	1,005	5,368	18.7%
狛江	562	120	4	-	3	2	691	4,514	15.3%
北多摩西部	1,184	249	10	-	3	4	1,450	7,214	20.1%
清瀬	631	130	13	-	4	5	783	4,367	17.9%
東久留米	860	201	9	-	4	3	1,077	4,394	24.5%
西東京	1,367	288	9	3	8	4	1,679	10,771	15.6%
八王子	4,237	920	57	161	23	30	5,428	25,201	21.5%
青梅	972	120	10	-	9	14	1,125	5,567	20.2%
町田	3,730	693	60	5	33	134	4,655	17,651	26.4%
日野	1,156	366	13	-	25	4	1,564	8,218	19.0%
福生	1,099	146	15	26	7	7	1,300	8,535	15.2%
多摩	1,058	154	10	1	16	10	1,249	7,910	15.8%
秋川	833	147	3	-	10	1	994	3,923	25.3%
奥多摩	83	33	1	-	-	1	118	382	30.9%
計	100,526	22,061	1,287	2,477	1,557	516	128,424	711,227	18.1%

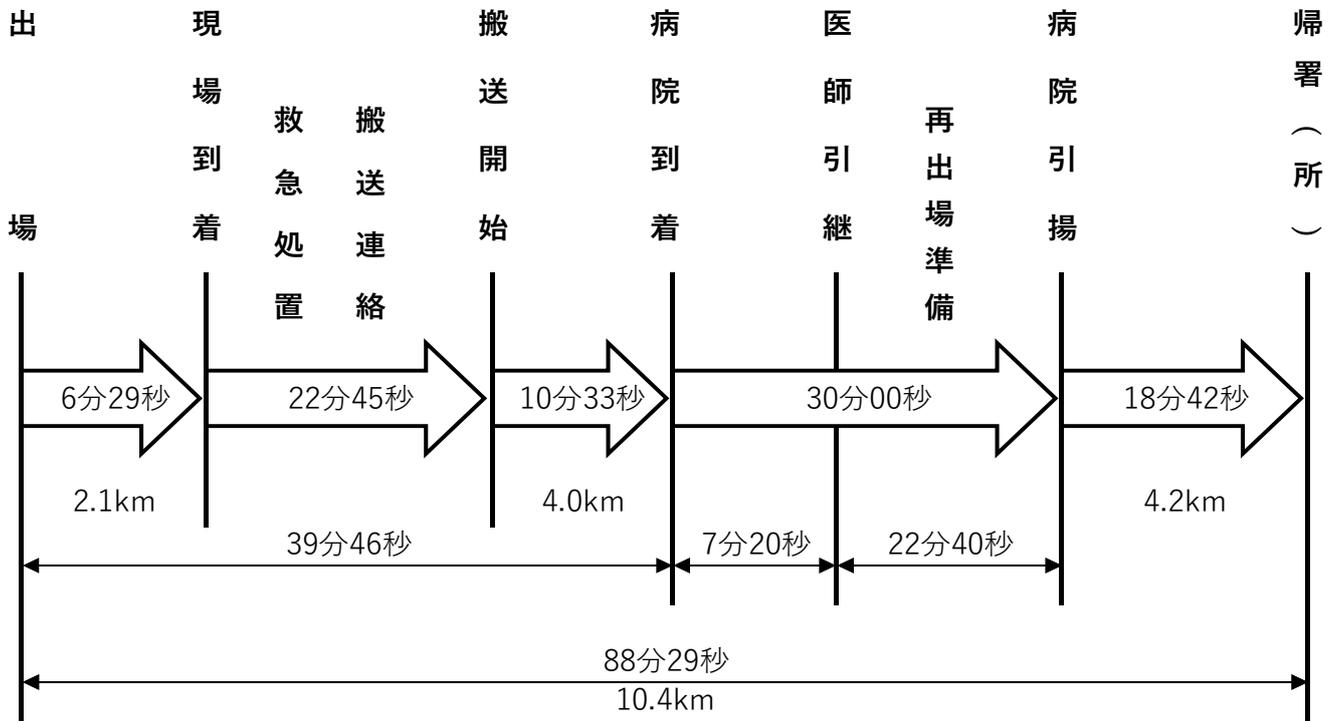
※本表において、PA 連携活動及び救急出場の件数に東京消防庁管外への出場は含まれません。

※PA 連携の割合 = PA 連携活動件数 / 管内救急出場件数

6 活動時間・距離

令和2年中の救急隊が出場してから帰署（所）するまでの救急活動平均所要時間は88分29秒で、平均走行距離は10.4kmです。

図表 2-1-12 救急活動時間と走行距離



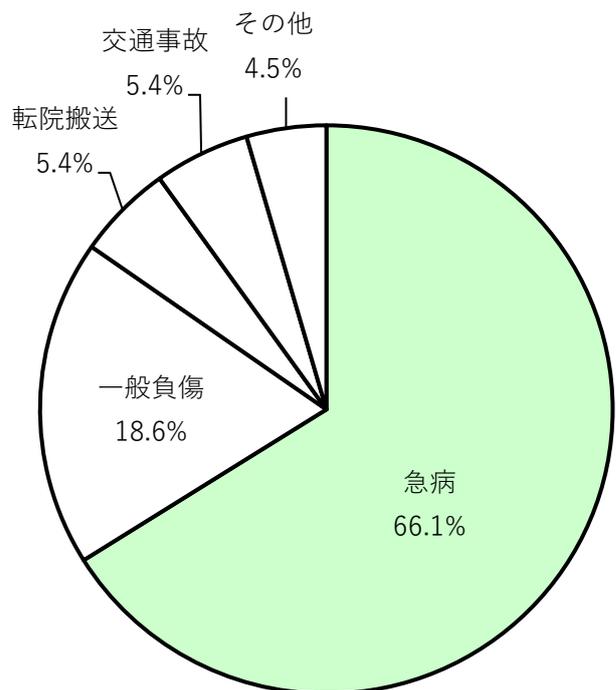
それぞれの数値は計算により四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

7 事故種別ごとの出場件数

全出場件数のうち、事故種別が「急病」の事案が最も多く、66.1%を占めています。

図表 2-1-13 事故種別ごとの出場件数

事故種別	件数	割合
合計	720,965	100.0%
急病	476,455	66.1%
一般負傷	133,902	18.6%
転院搬送	38,980	5.4%
交通事故	38,829	5.4%
その他	32,799	4.5%
自損行為	5,700	0.8%
加害	5,223	0.7%
労働災害事故	4,535	0.6%
火災事故	3,209	0.4%
運動競技事故	2,933	0.4%
水難事故	730	0.1%
資器材等輸送	503	0.1%
医師搬送	160	0.0%
自然災害事故	7	0.0%
その他（上記以外）	9,799	1.4%



8 不搬送件数

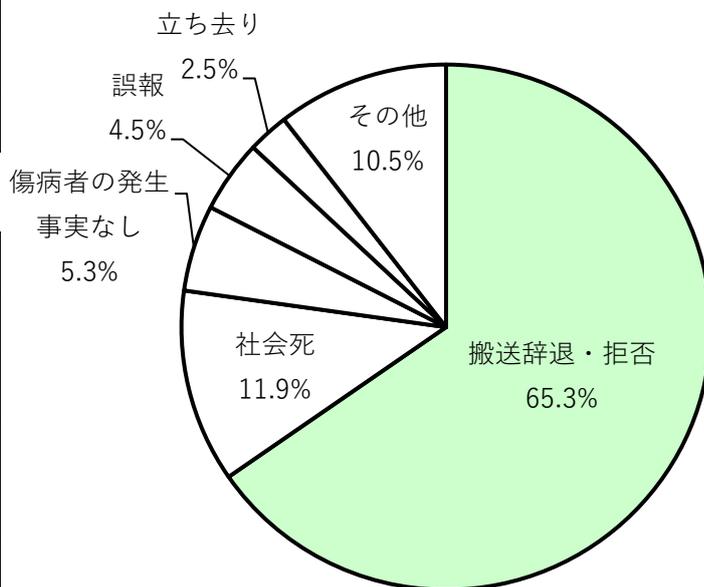
出場件数のうち 13.6%が不搬送であり、その内「搬送辞退・拒否」が 65.3%を占めています。

図表 2-1-14 不搬送件数の内訳

合計	720,965	100.0%
搬送件数	623,172	86.4%
不搬送件数	97,793	13.6%

(不搬送の内訳)

搬送辞退・拒否	63,906	65.3%
社会死	11,622	11.9%
傷病者の発生事実なし	5,193	5.3%
誤報	4,359	4.5%
立ち去り	2,455	2.5%
その他	10,258	10.5%



9 月別・曜日別出場件数

月別の1日平均では1月が、曜日別の1日平均では月曜日が高い割合を占めています。

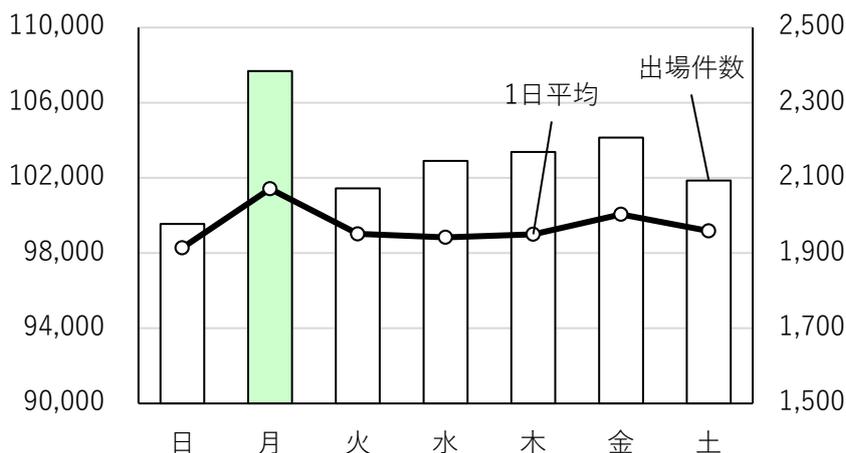
図表 2-1-15 月別出場件数

月	出場件数	1日平均
1月	72,384	2,335
2月	61,975	2,137
3月	59,320	1,914
4月	49,363	1,645
5月	50,659	1,634
6月	54,783	1,826
7月	58,961	1,902
8月	69,817	2,252
9月	60,124	2,004
10月	61,112	1,971
11月	59,198	1,973
12月	63,269	2,041
合計	720,965	1,970



図表 2-1-16 曜日別出場件数

曜日	出場件数	1日平均
日	99,548	1,914
月	107,685	2,071
火	101,447	1,951
水	102,905	1,942
木	103,376	1,950
金	104,148	2,003
土	101,856	1,959
合計	720,965	1,970

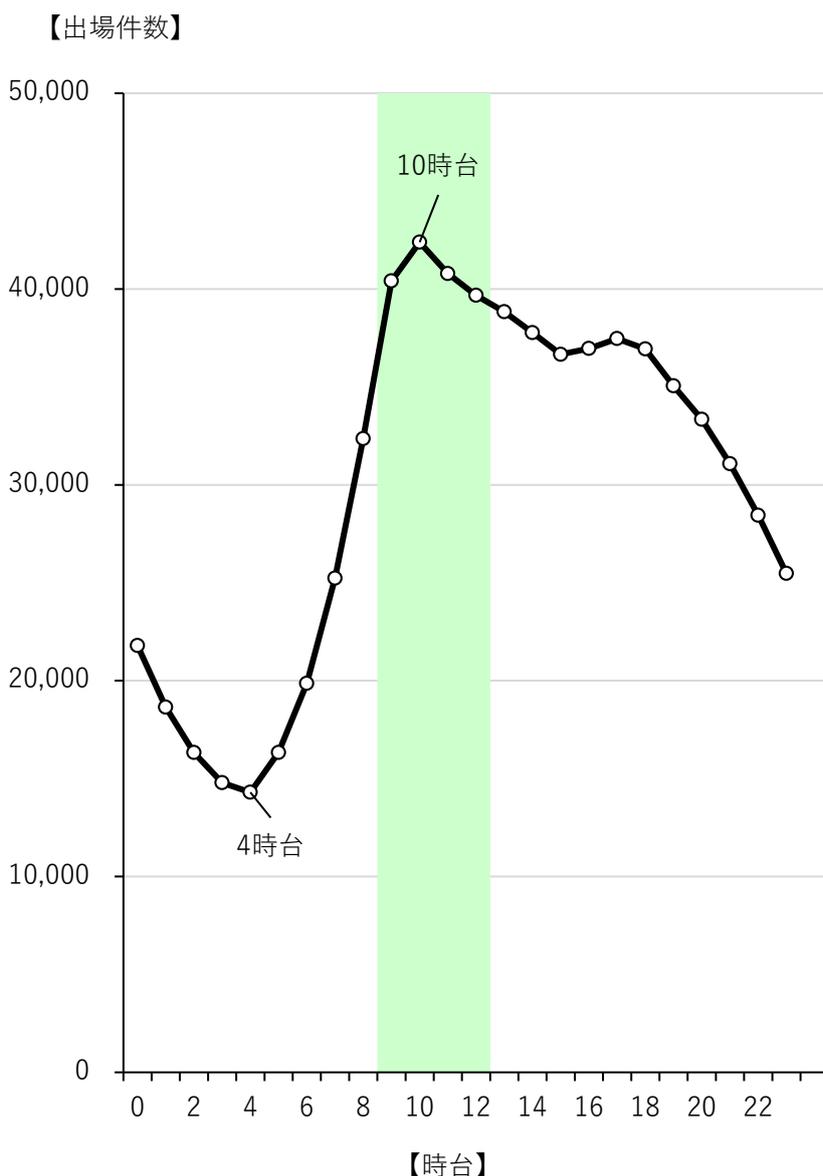


10 時間帯別出場件数

時間帯別では、10時台が最も多く、9時から12時台が高い割合を占めています。

図表 2-1-17 時間帯別出場件数

時間帯	出場件数	構成比
0時台	21,790	3.0%
1時台	18,646	2.6%
2時台	16,330	2.3%
3時台	14,788	2.1%
4時台	14,299	2.0%
5時台	16,331	2.3%
6時台	19,864	2.8%
7時台	25,237	3.5%
8時台	32,357	4.5%
9時台	40,411	5.6%
10時台	42,392	5.9%
11時台	40,792	5.7%
12時台	39,676	5.5%
13時台	38,842	5.4%
14時台	37,773	5.2%
15時台	36,664	5.1%
16時台	36,961	5.1%
17時台	37,470	5.2%
18時台	36,942	5.1%
19時台	35,054	4.9%
20時台	33,347	4.6%
21時台	31,076	4.3%
22時台	28,447	4.0%
23時台	25,476	3.5%
合計	720,965	100.0%



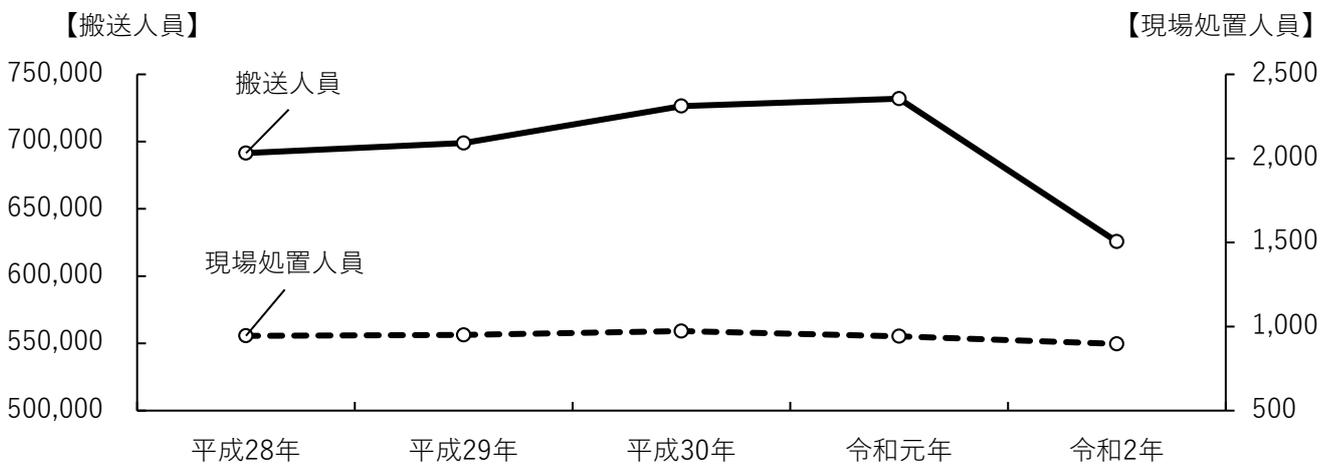
第2節 救護人員

1 救護人員

令和2年中の救護人員は626,536人、搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は625,639人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は897人となっています。

図表 2-2-1 救護人員の推移

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
搬送人員	691,423	698,928	726,428	731,900	625,639
現場処置人員	945	950	973	942	897
救護人員	692,368	699,878	727,401	732,842	626,536



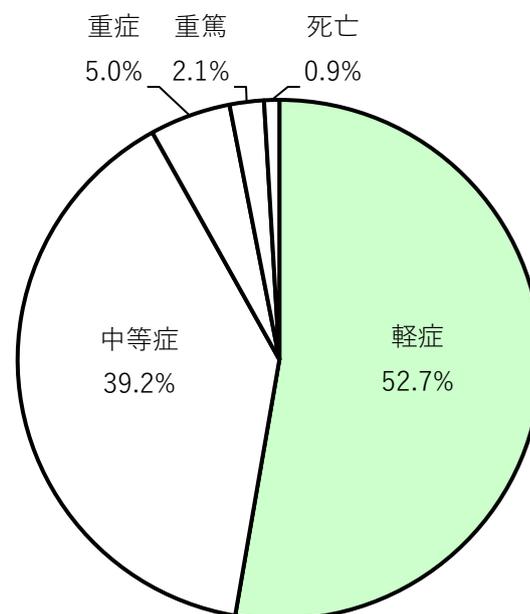
2 搬送人員

(1) 初診時程度

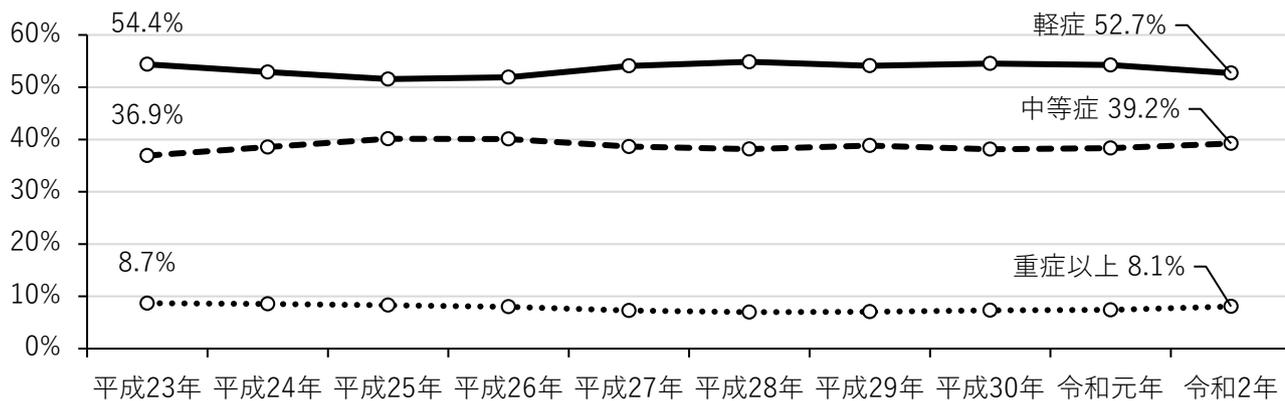
搬送人員のうち「軽症」が最も多く、52.7%を占めています。

図表 2-2-2 初診時程度別搬送人員

程度	搬送人員	割合
軽症	329,737	52.7%
中等症	245,439	39.2%
重症	31,345	5.0%
重篤	13,248	2.1%
死亡	5,870	0.9%
合計	625,639	100.0%



図表 2-2-3 過去 10 年間の初診時程度別割合の推移

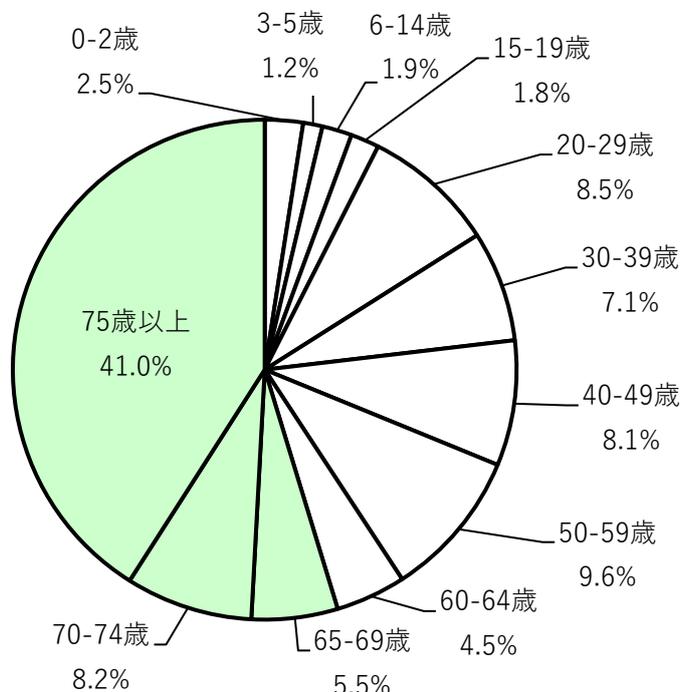


(2) 年齢層

令和 2 年の搬送人員を年齢層別で見ると、75 歳以上の割合が最多となっています。

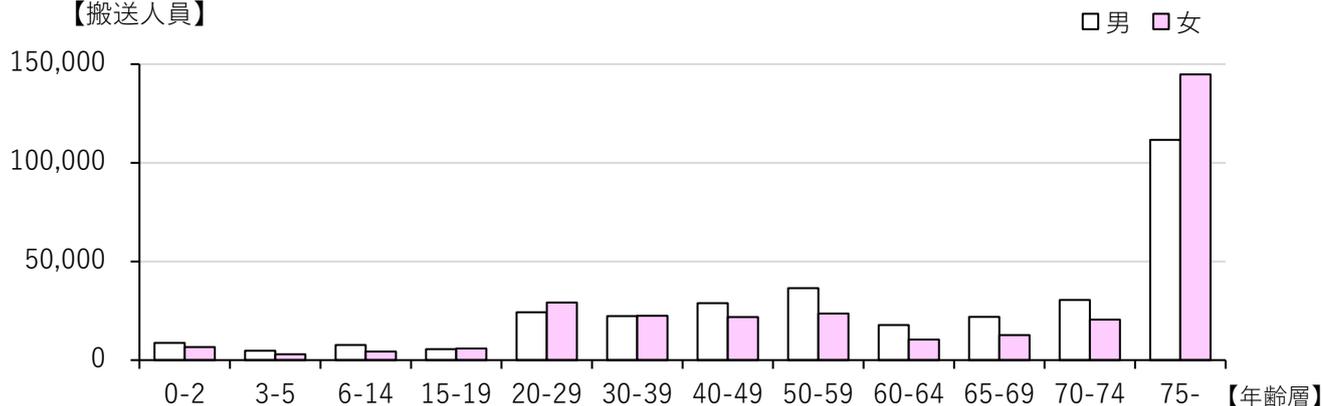
図表 2-2-4 年齢層別・性別搬送人員

年齢層	搬送人員	構成比
0-2 歳	15,338	2.5%
3-5 歳	7,749	1.2%
6-14 歳	11,961	1.9%
15-19 歳	11,457	1.8%
20-29 歳	53,401	8.5%
30-39 歳	44,730	7.1%
40-49 歳	50,688	8.1%
50-59 歳	60,039	9.6%
60-64 歳	28,191	4.5%
65-69 歳	34,587	5.5%
70-74 歳	51,047	8.2%
75 歳以上	256,451	41.0%
高齢者計	342,085	54.7%
合計	625,639	100.0%



年齢	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-
男	8,740	4,743	7,649	5,580	24,222	22,295	28,895	36,465	17,801	21,883	30,491	111,636
女	6,598	3,006	4,312	5,877	29,179	22,435	21,793	23,574	10,390	12,704	20,556	144,815
合計	15,338	7,749	11,961	11,457	53,401	44,730	50,688	60,039	28,191	34,587	51,047	256,451

【搬送人員】



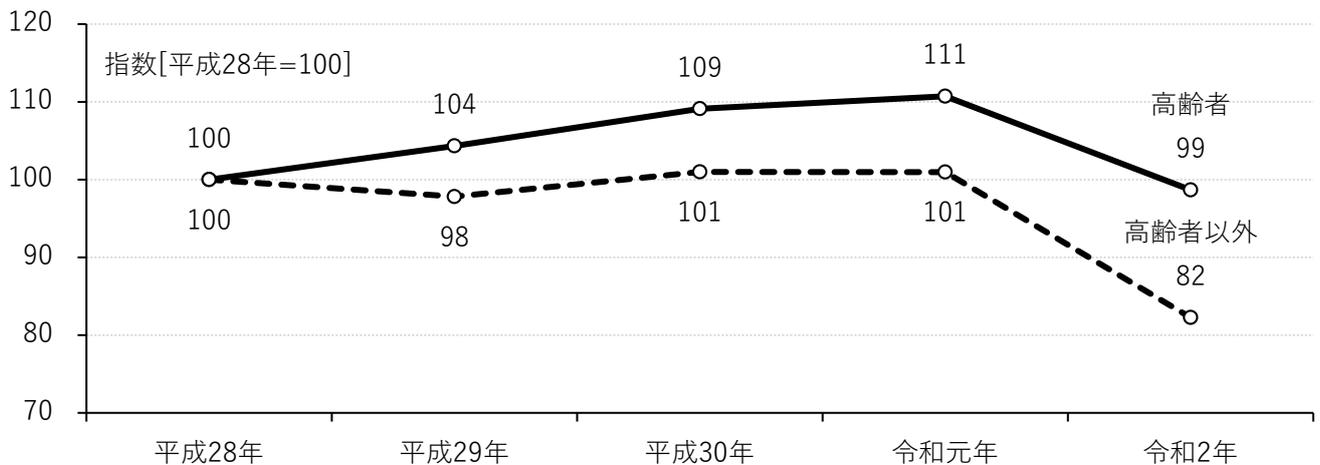
3 高齢者搬送人員

(1) 搬送人員の推移

65歳以上の高齢者の搬送人員は342,085人で、全搬送人員の54.7%を占めています。また、平成28年を100とした指数で見ると、高齢者搬送人員の増加率は99で高齢者以外を上回っています。

図表 2-2-5 高齢者搬送人員の推移

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全搬送人員	691,423	698,928	726,428	731,900	625,639
高齢者	346,703	361,734	378,314	383,856	342,085
高齢者以外	344,720	337,194	348,114	348,044	283,554
高齢者の割合	50.1%	51.8%	52.1%	52.4%	54.7%

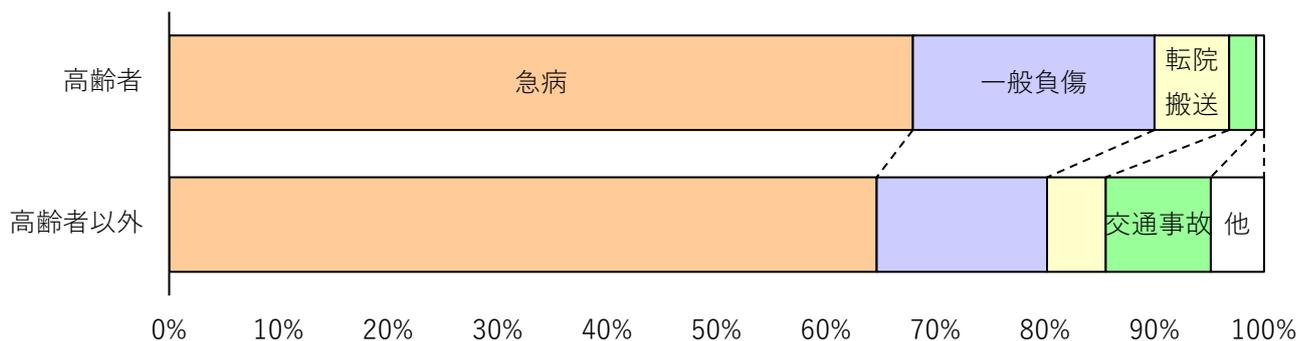


(2) 事故種別

高齢者を事故種別で見ると、高齢者以外と比べ急病、一般負傷及び転院搬送の占める割合が高く、交通事故の占める割合が低くなっています。

図表 2-2-6 事故種別高齢者搬送人員

事故種別	高齢者		高齢者以外	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
急病	232,368	67.9%	183,228	64.6%
一般負傷	75,493	22.1%	44,152	15.6%
転院搬送	23,307	6.8%	15,192	5.4%
交通事故	8,471	2.5%	27,182	9.6%
その他	2,446	0.7%	13,800	4.9%
合計	342,085	100.0%	283,554	100.0%



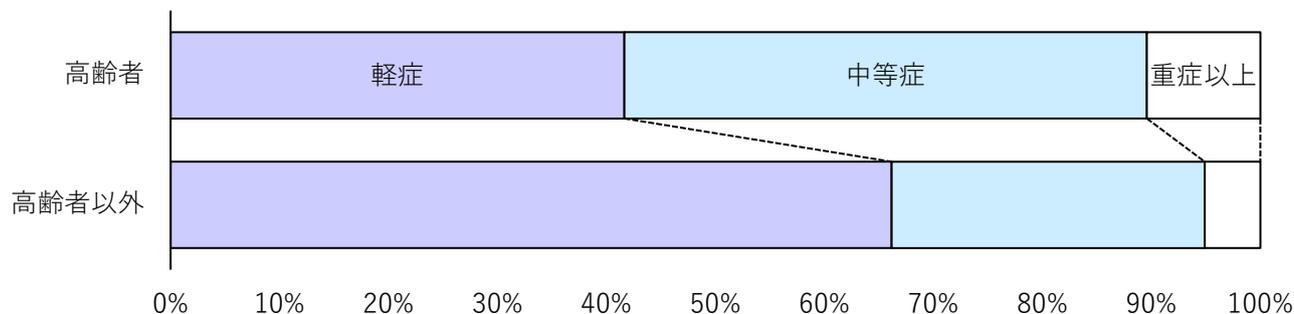
(3) 初診時程度

高齢者を初診時程度で見ると、高齢者以外と比べ中等症以上の占める割合が高くなっています。

また、主な事故種別における高齢者の搬送割合をみると、急病及び転院搬送に占める中等症以上の割合が高くなっています。

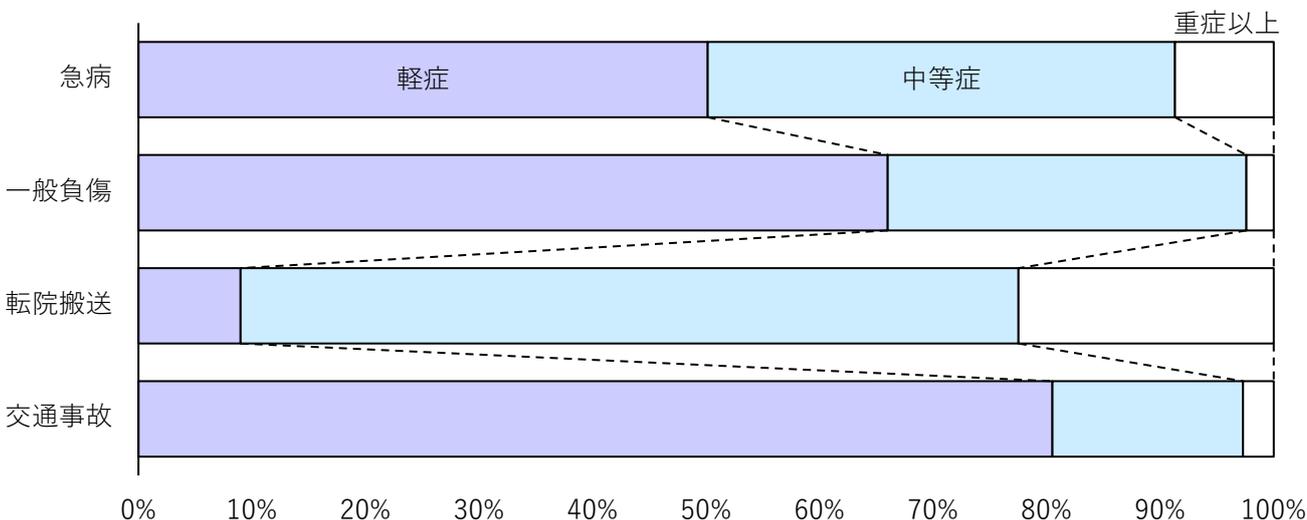
図表 2-2-7 初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	高齢者		高齢者以外	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	142,376	41.6%	187,361	66.1%
中等症	163,920	47.9%	81,519	28.7%
重症	21,590	6.3%	9,755	3.4%
重篤	9,240	2.7%	4,008	1.4%
死亡	4,959	1.4%	911	0.3%
合計	342,085	100.0%	283,554	100.0%



図表 2-2-8 事故種別・初診時程度別高齢者搬送人員

初診時程度	急病		一般負傷		転院搬送		交通事故	
	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合
軽症	88,439	38.1%	44,646	59.1%	1,819	7.8%	6,232	73.6%
中等症	116,161	50.0%	29,091	38.5%	16,088	69.0%	2,003	23.6%
重症	16,095	6.9%	842	1.1%	4,350	18.7%	150	1.8%
重篤	7,326	3.2%	596	0.8%	1,029	4.4%	70	0.8%
死亡	4,347	1.9%	318	0.4%	21	0.1%	16	0.2%
合計	232,368	100.0%	75,493	100.0%	23,307	100.0%	8,471	100.0%



4 収容医療機関・医療施設

傷病者を収容した医療機関数及び搬送人員を開設主体別にみると、私的医療機関が大部分を占めています。

東京消防庁管内の医療機関に収容した人員は614,304人（98.2%）で、このうち、救急告示医療機関に607,363人（97.1%）を収容しています。

図表 2-2-9 開設主体別収容医療機関数、搬送人員

区分	収容医療機関数		搬送人員							
			告示		非告示		管轄外		合計	割合
	実数	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合	搬送人員	割合		
国立	19	2.9%	44,544	7.3%	560	8.1%	1,528	13.5%	46,632	7.5%
公立	31	4.8%	64,197	10.6%	196	2.8%	1,847	16.3%	66,240	10.6%
公的	10	1.5%	36,859	6.1%	140	2.0%	0	0.0%	36,999	5.9%
私立病院	490	75.4%	459,202	75.6%	4,398	63.4%	7,882	69.5%	471,482	75.4%
私立診療所	100	15.4%	2,561	0.4%	1,647	23.7%	78	0.7%	4,286	0.7%
合計	650	100.0%	607,363	100.0%	6,941	100.0%	11,335	100.0%	625,639	100.0%

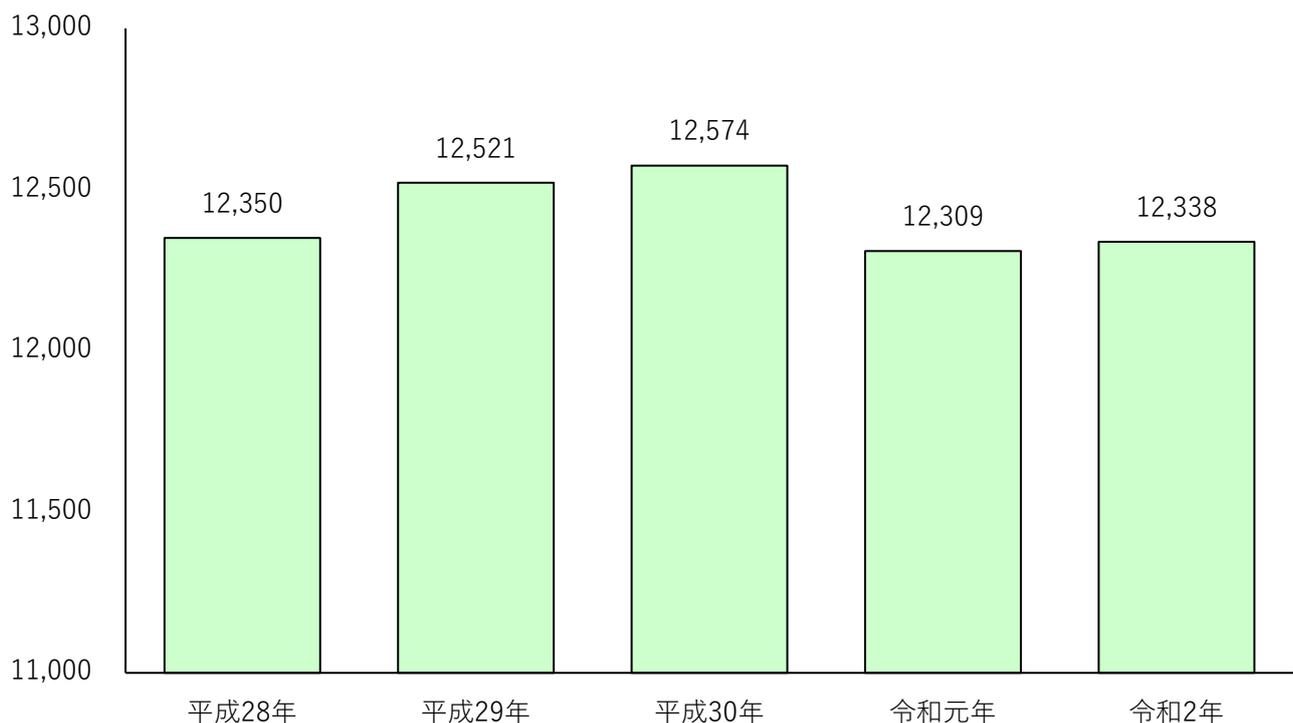
5 心臓機能停止傷病者搬送人員（ウツタイン様式による統計）

(1) 搬送人員の推移

「ウツタイン様式」とは、心臓機能停止傷病者に関する国際的に統一された統計基準の様式であり、平成18年から同様式で統計処理を開始しました。

令和2中に、発症時点から医療機関に収容するまでの間に心臓機能が停止した傷病者（以下「心停止傷病者」という。）の搬送人員は、12,338人です。

図表 2-2-10 心臓機能停止傷病者搬送人員の推移

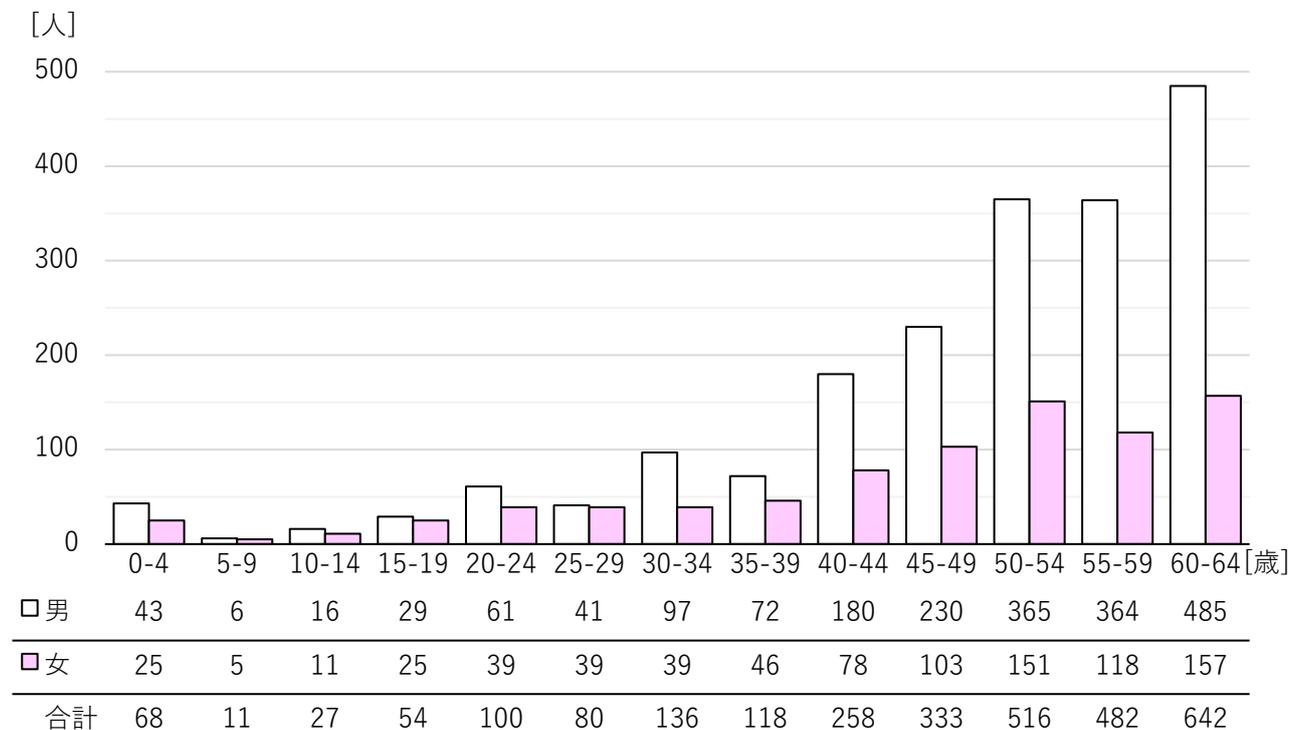


(2) 性別・年齢層別搬送人員（高齢者群・非高齢者群）

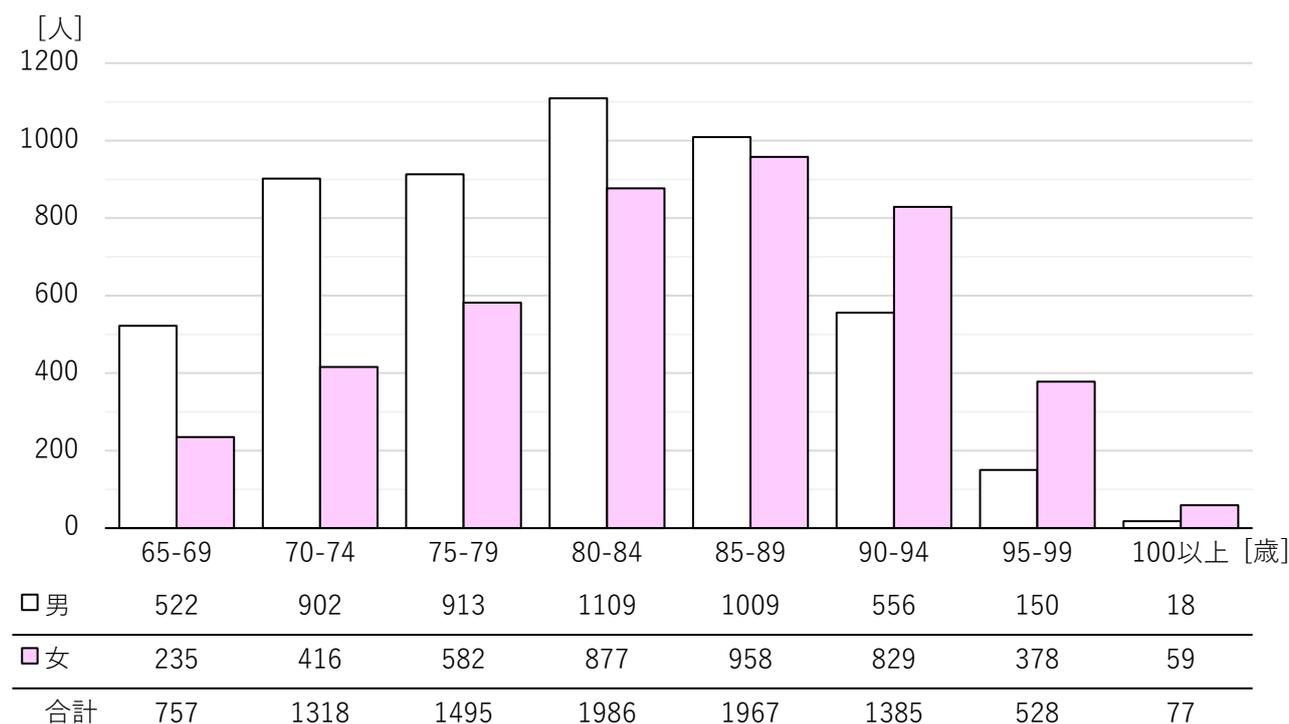
搬送人員の実数は、90歳以上の年齢層では女性が男性を上回りますが、それ以外の年齢層において男性が女性を上回っています。これは、心停止傷病者は基本的には男性の搬送が多い傾向があるものの、女性の平均寿命が男性より長いことによるものと考えられます。

特徴的なのは40歳から74歳までの年齢層で、各年齢層において男性が女性の約2倍以上の搬送人員となっています。

図表 2-2-11 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



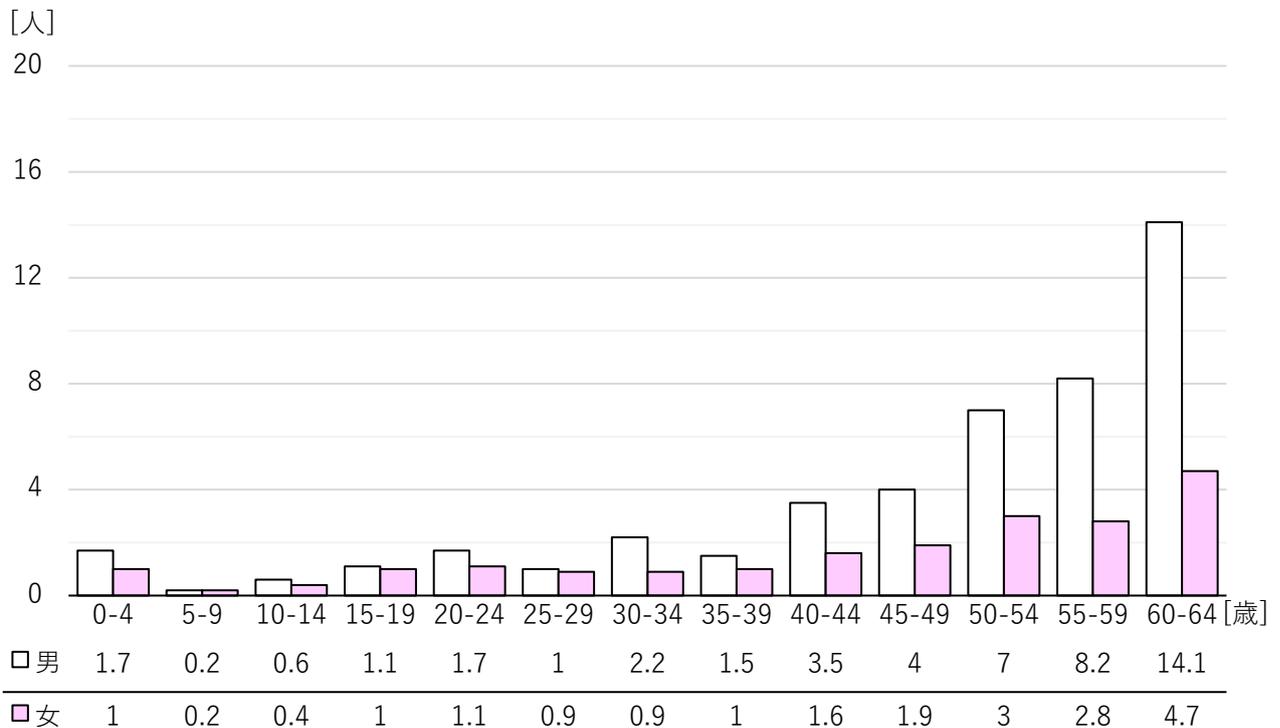
図表 2-2-12 性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）



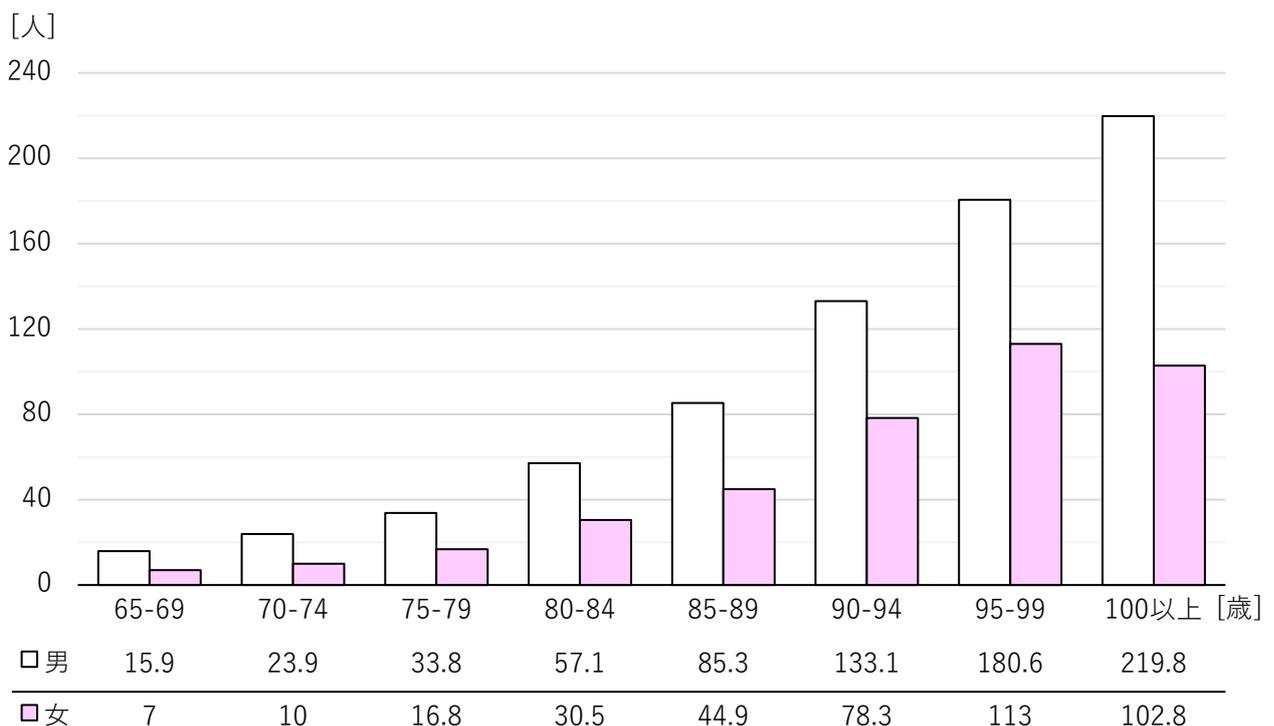
一方、人口に対する搬送人員の発生頻度を比較する目安として、人口（令和2年1月1日現在の東京都住民基本台帳から算出した東京都人口）1万人に対する搬送人員（以下「対人口搬送人員」という。）を各性別・年齢層別に算出した結果は、次のとおりです。

対人口搬送人員は、5-9歳を除く全ての年齢層で、男性の比率が高い結果となっています。このことから、女性より男性の方が突然の心臓機能の停止をきたし、救急搬送の対象となる頻度が高いと推測されます。

図表 2-2-13 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（非高齢者群）



図表 2-2-14 人口1万人あたりの性別・年齢層別心停止傷病者搬送人員（高齢者群）

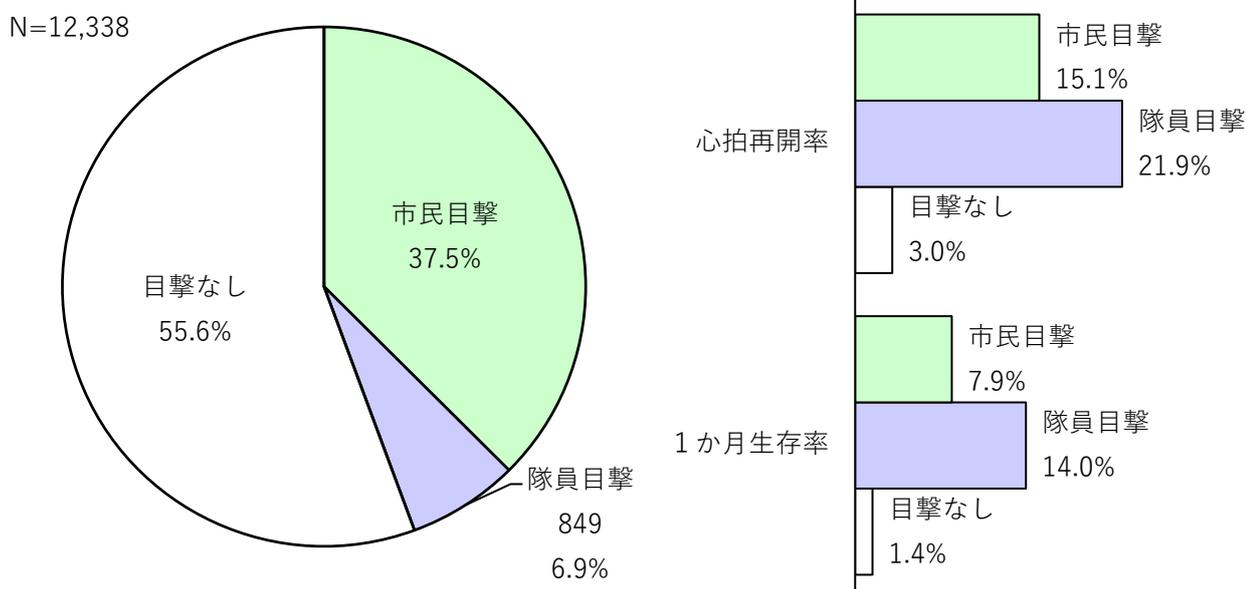


(3) 心停止の目撃

心停止の目撃があった傷病者は、市民目撃及び隊員目撃を併せて全体の44.4%です。目撃があった場合の1か月生存率は、目撃がなかった場合と比較して約6倍となっています。

図表 2-2-15 心停止の目撃有無別搬送人員

目撃情報	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
目撃あり	5,476	44.4%	885	16.2%	486	8.9%
市民目撃	4,627	37.5%	699	15.1%	367	7.9%
隊員目撃	849	6.9%	186	21.9%	119	14.0%
目撃なし	6,862	55.6%	209	3.0%	98	1.4%
合計	12,338	100.0%	1,094	8.9%	584	4.7%



「心停止の目撃」とは、傷病者が心停止に陥った時の事故の状況、又は行為等（倒れた、意識を失った、車にはねられた等）を、目撃又は音を聞いた人（以下「目撃者」という。）がいた場合で、かつその時刻を目撃者が確定又は推定できる場合を言います。

「市民目撃」とは、救急現場に居合わせた人（以下「バイスタンダー」という。）が目撃した場合を指します。

「隊員目撃」とは、救急隊員・消防隊員等（以下「救急隊員等」という。）が、現場到着後に傷病者が心停止になったところを確認した場合を指します。

「収容前心拍再開」とは、救急隊が医療機関の医師に引継ぐ前に傷病者が心拍再開したものを指します。継続性は問わず、一時的に再開し、再び心停止状態になったものも含まれます。

「1か月生存」とは、傷病者が医療機関に収容された日から1か月後の日の傷病者の生存の有無を表します。なお、1か生存の状況が追跡できず不明だった傷病者については、統計処理上、生存していないものに計上しています。

(4) バイスタンダーによる応急手当

隊員目撃を除いた搬送人員 11,489 人について、バイスタンダー（心停止目撃の有無を問わない。）による応急手当（心停止傷病者に対して有効な手当＝人工呼吸・胸骨圧迫・AED 等による除細動処置等に限定）の実施状況は次のとおりです。

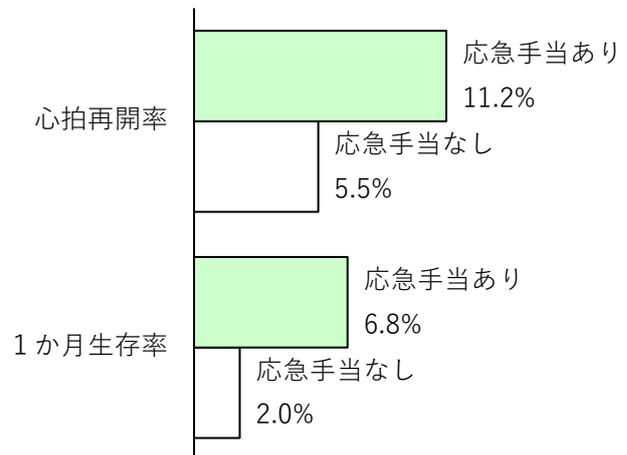
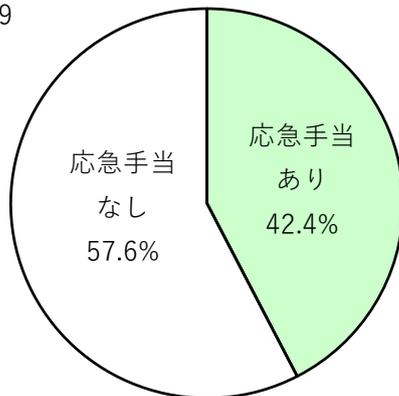
バイスタンダーによる応急手当の実施率は、市民目撃があった場合が 46.7%となっており、市民目撃がなかった場合の 39.5%と比較すると、7.2 ポイント高くなっています。

また、市民目撃があった場合は、応急手当実施の有無により、1 か月生存率に約 3.7 倍の差が生じています。

図表 2-2-16 バイスタンダーによる応急手当実施状況（隊員目撃を除く）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1 か月生存数	1 か月生存率
応急手当あり	4,871	42.4%	544	11.2%	331	6.8%
応急手当なし	6,618	57.6%	364	5.5%	134	2.0%
合計	11,489	100.0%	908	7.9%	465	4.0%

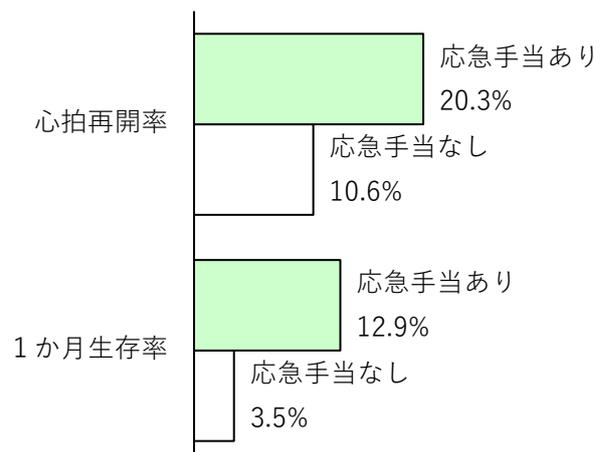
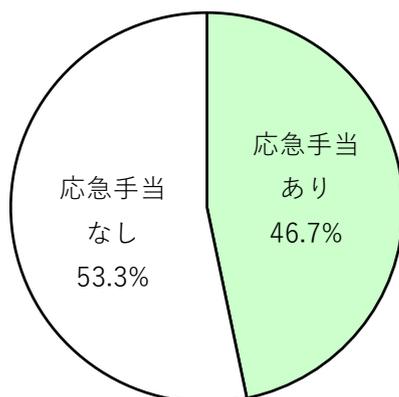
N=11,489



図表 2-2-17 バイスタンダーによる応急手当実施状況（市民目撃あり）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1 か月生存数	1 か月生存率
応急手当あり	2,163	46.7%	439	20.3%	280	12.9%
応急手当なし	2,464	53.3%	260	10.6%	87	3.5%
合計	4,627	100.0%	699	15.1%	367	7.9%

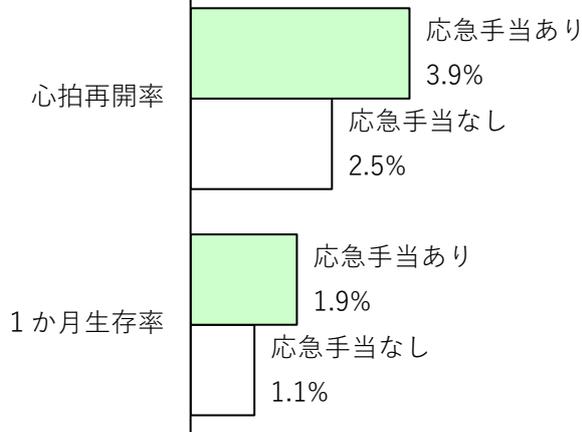
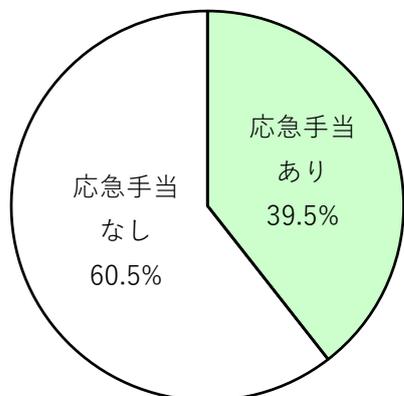
N=4,627



図表 2-2-18 バイスタンダーによる応急手当実施状況（目撃なし）

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か月生存数	1か月生存率
応急手当あり	2,708	39.5%	105	3.9%	51	1.9%
応急手当なし	4,154	60.5%	104	2.5%	47	1.1%
合計	6,862	100.0%	209	3.0%	98	1.4%

N=6,862



(5) バイスタンダーによる応急手当の開始時期

市民目撃があり、かつバイスタンダーにより応急手当が実施された傷病者（以下「目撃あり・手当あり群」と言います。）2,163人について、市民目撃から応急手当の開始までの所要時間の状況は、次のとおりです。

平均所要時間は3分39秒で、1か生存率は、市民目撃から応急手当の開始までの時間が短時間であるほど高い結果となっており、収容前心拍再開率は、3分以内が一番高く、次いで4分から6分、7分から10分、11分以上の順になっています。

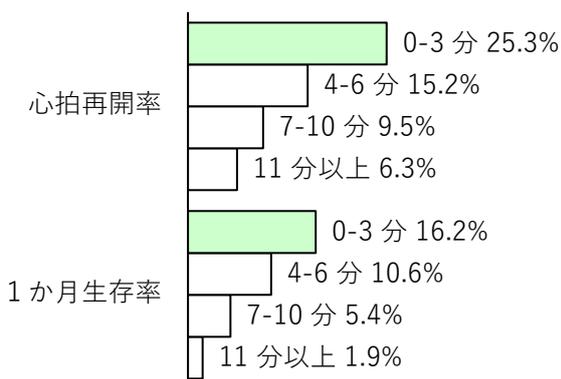
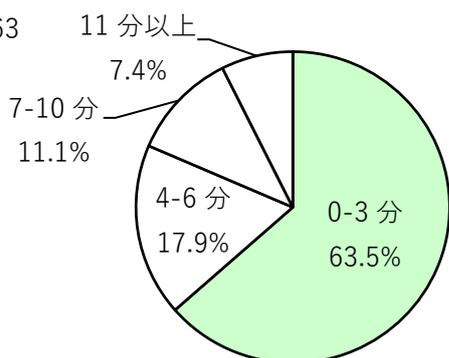
全体の63.5%は、3分以内に応急手当が開始され、心拍再開率が25.3%、1か月生存率が16.2%となっていますが、市民目撃から10分を超えてから応急手当が開始された群は、心拍再開率が6.3%、1か月生存率が1.9%となっています。このことから、早期の応急手当の開始が重要であることがわかります。

図表 2-2-19 市民目撃から応急手当開始までの所要時間

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か生存率	1か生存率
0-3分	1,374	63.5%	347	25.3%	223	16.2%
4-6分	388	17.9%	59	15.2%	41	10.6%
7-10分	241	11.1%	23	9.5%	13	5.4%
11分以上	160	7.4%	10	6.3%	3	1.9%
合計	2,163	100.0%	439	20.3%	280	12.9%

平均3分39秒

N=2,163



(6) 救急隊員等の救急処置の開始時期

市民目撃があったものの、バイスタンダーによる有効な応急手当が実施されなかった傷病者（以下「目撃あり・手当なし群」と言う。）2,463人について、市民目撃から救急隊員等による救命処置が開始されるまでの所要時間の状況は、次のとおりです。

目撃あり・手当あり群の63.5%が3分以内に応急手当が開始されているのに対して、目撃あり・手当なし群は、救急隊等が傷病者に接触するまでの時間（市民目撃～通報、通報～救急隊等の現場到着及び現場到着～傷病者の所在場所に至るまでの所要時間）がかかるため、7分以上の群が全体の72.7%を占め、平均所要時間は12分00秒となっています。

なお市民目撃には、通報後に心停止となった事案が含まれていることから、市民目撃が通報前の事案に限定した場合は、さらに所要時間が延伸する結果になると考えられます。

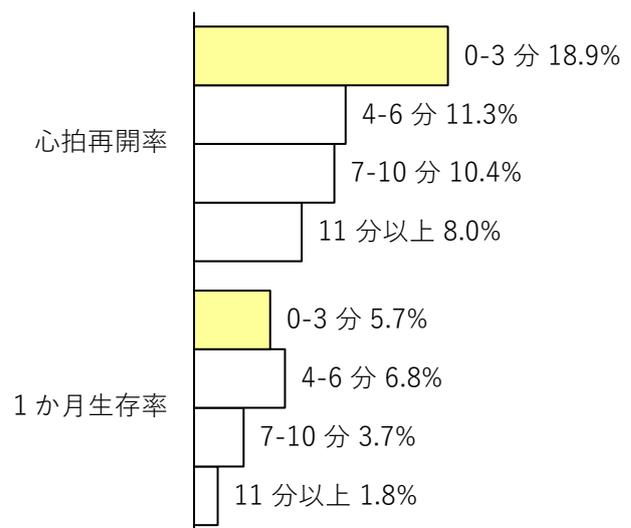
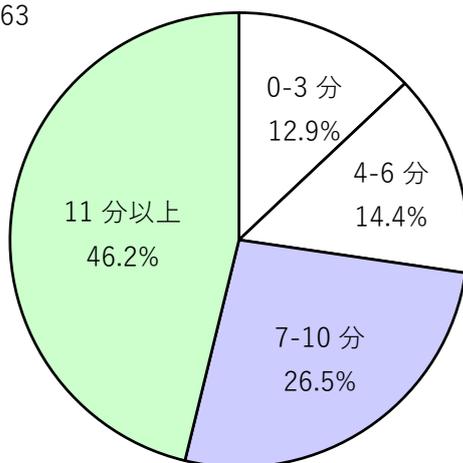
また、7分から10分の心拍再開率群、11分以上の心拍再開率群を除いて、目撃あり・手当なし群の方が、目撃あり・手当あり群より、収容前心拍再開、1か月生存状況ともに低い結果となっています。これは、バイスタンダーが応急手当を実施しようとしても、物理的に困難な事案（2次の災害や感染危険がある場合、又は傷病者への接触自体が困難である場合等）や、救命が極めて困難な事案が、目撃あり・手当なし群に多く含まれているためと考えられます。

図表 2-2-20 市民目撃から隊員等処置開始までの所要時間

	搬送人員	割合	心拍再開数	心拍再開率	1か生存率	1か生存率
0-3分	318	12.9%	60	18.9%	18	5.7%
4-6分	355	14.4%	40	11.3%	24	6.8%
7-10分	652	26.5%	68	10.4%	24	3.7%
11分以上	1,138	46.2%	91	8.0%	20	1.8%
合計	2,463	100.0%	259	10.5%	86	3.5%

平均12分00秒

N=2,463



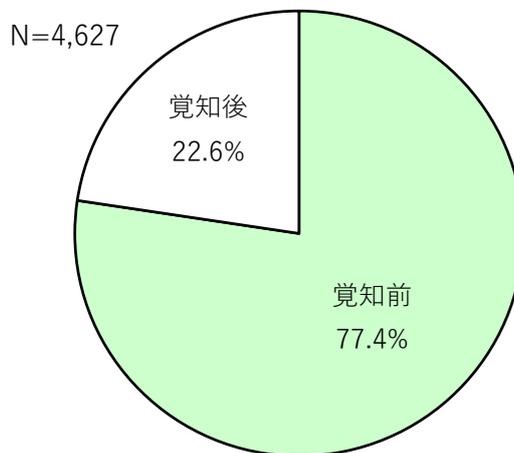
(7) 市民目撃から覚知までの所要時間

市民目撃があった傷病者 4,627 人のうち、覚知前に目撃された（心停止後に通報された）傷病者と覚知後に目撃された（通報後に心停止となった）傷病者の状況は、次のとおりです。

覚知（時刻）とは、東京消防庁総合指令室が通報を確認した時刻を指し、通報の時刻とは近似した時刻となりますが、必ずしも一致するとは限りません。

図表 2-2-21 市民目撃の時期

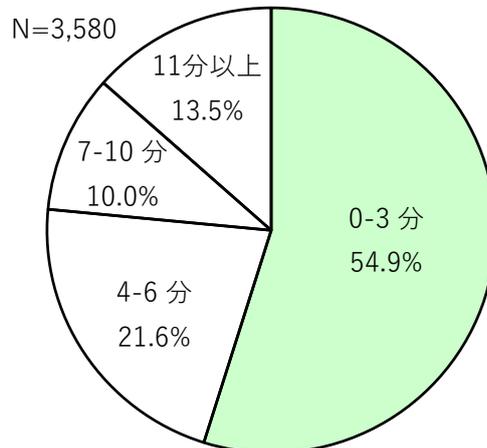
市民目撃の時期	搬送人員	割合
覚知前	3,580	77.4%
覚知後	1,047	22.6%
合計	4,627	100.0%



覚知前に心停止となった傷病者 3,580 人について、市民目撃から覚知までの平均所要時間は 5 分 47 秒で、全体の 54.9%は市民目撃から 3 分以内に覚知されていますが、45.1%は 4 分以降、うち半数以上は 7 分以降となっています。

図表 2-2-22 市民目撃から覚知までの所要時間

市民目撃の時期	搬送人員	割合
0-3 分	1,964	54.9%
4-6 分	775	21.6%
7-10 分	359	10.0%
11 分以上	482	13.5%
合計	3,580	100.0%



平均 5 分 47 秒

(8) 除細動処置の効果（バイスタンダーによる AED 使用の効果）

心停止傷病者のうち、心室細動等の心電図波形を呈する傷病者に対しては、除細動処置の救命効果が高いとされています。除細動処置は、AED（自動体外式除細動器）を使用することにより非医療従事者にも行うことが認められており、効果的に使用されることにより、救命効果の向上が期待されます。

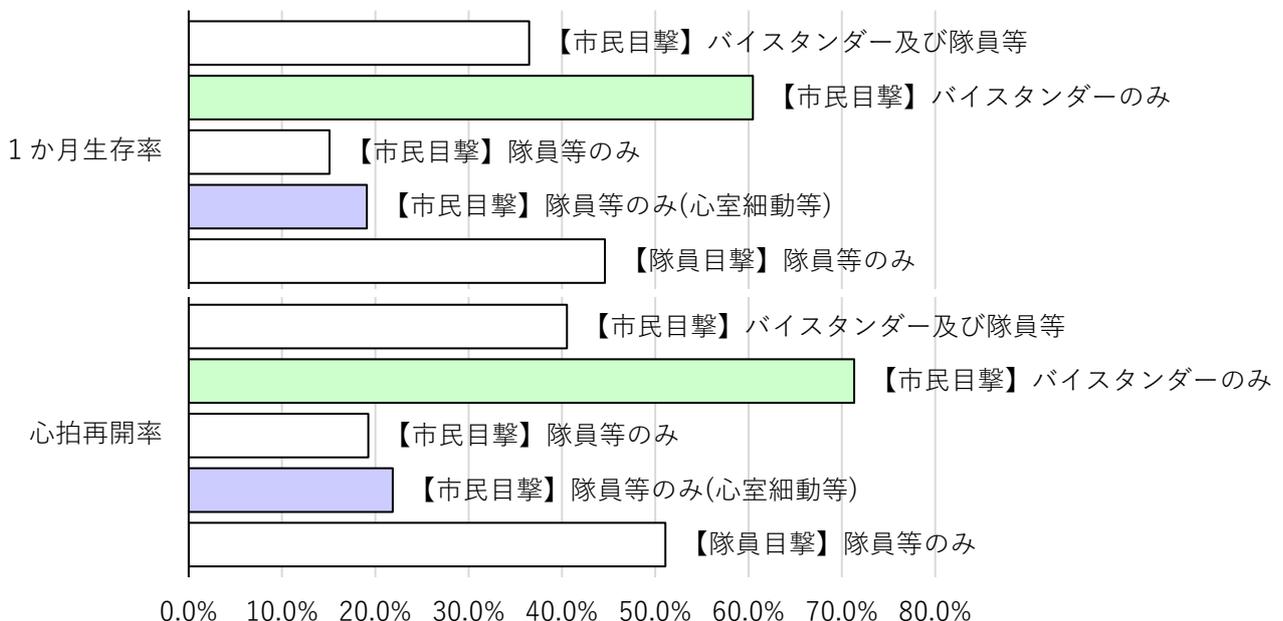
市民目撃があり、かつバイスタンダーのみが除細動処置を実施した場合は、収容前心拍再開率が 71.3%、1 か月生存率が 60.5%と、高い比率になっています。

一方、市民目撃があったもののバイスタンダーによる除細動がなく、救急隊員等が最初の除細動施行者となった場合（初期心電図が心室細動等であった場合に限定）は、収容前心拍再開率が21.9%、1か月生存率が19.1%と、バイスタンダーによる除細動施行事案と比較して低い比率となっています。

これは、心停止目撃から除細動処置が施行されるまでの平均所要時間をみると、バイスタンダーによる除細動の場合は5分32秒であるのに対し、救急隊員等による除細動の場合は11分51秒と、約2.1倍の時間を要していることに関連があると考えられます。

図表 2-2-23 バイスタンダー及び救急隊員等による除細動処置の施行状況

	搬送人員	目撃-除細動 平均時間	心拍 再開数	心拍 再開率	1か月 生存数	1か月 生存率
全除細動事案	1,416	-	385	27.2%	319	22.5%
実施者 = バイスタンダー及び隊員等	87	-	34	39.1%	30	34.5%
うち市民目撃	74	6分39秒	30	40.5%	27	36.5%
実施者 = バイスタンダーのみ	160	-	103	64.4%	85	53.1%
うち市民目撃	129	5分32秒	92	71.3%	78	60.5%
実施者 = 隊員等のみ	1,169	-	248	21.2%	204	17.5%
うち隊員目撃	139	2分38秒	71	51.1%	62	44.6%
うち市民目撃	722	14分23秒	139	19.3%	109	15.1%
うち初期心電図=心室細動等	503	11分51秒	110	21.9%	96	19.1%



「心室細動等」とは、心停止傷病者の心電図測定時の波形が、「心室細動（VF）」又は「心室頻拍（VT）」という致死的不整脈であった場合を指します。これらの波形は、心臓が痙攣し有効な血液量の拍出が得られていない状態を示しており、除細動処置が唯一の救命処置とされ、かつ当該処置が奏効すれば救命の可能性が高いとされています。

医学的に、心室細動等は心停止後の時間の経過とともに心室細動等以外の波形（「無脈性電気的活動（PEA）」「心静止（Asystole）」）に変化し、除細動処置の適応ではなくなると言われています。初期心電図が心室細動等であれば、波形の変化をきたす前に救急隊が傷病者に接触できたことを示す一つの指標となります。

(9) 発生場所別の心停止目撃・応急手当・除細動処置の実施状況

発生場所別の心停止目撃、応急手当及び除細動の実施状況は、次のとおりです。

育児児童施設・学校、及び運動施設等は、搬送人員は少ないものの、心停止目撃率、応急手当実施率及び除細動施行率が高く、心拍再開率、1か月生存率ともに高い結果となっています。

これらの場所は、頻繁に人の往来があり、心停止が目撃され、バイスタンダーによる応急手当が早期に行われる可能性が高く、かつAEDの設置整備が推進され早期に除細動処置が施行される環境にあるため、心拍再開率等が高率であると推測されます。

一方、搬送人員の8割以上を占める住宅等は、これらの率が低くなっています。

図表 2-2-24 発生場所別心停止目撃・応急手当・除細動実施状況

発生場所区分		搬送人員		目撃あり※1		応急手当あり※2		除細動あり※3		心拍再開		1か月生存	
		実数	平均年齢	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
(合計)		12,338	74.2	5,476	44.4%	4,871	39.5%	1,416	11.5%	1,094	8.9%	584	4.7%
居住・介護・宿泊施設	住宅(専用・共同・寮・寄宿舍)	8,699	74.7	3,478	40.0%	2,895	33.3%	757	8.7%	586	6.7%	261	3.0%
	認知症高齢者グループホーム	67	86.9	34	50.7%	25	37.3%	4	6.0%	3	4.5%	1	1.5%
	特別養護老人ホーム	614	88.1	267	43.5%	455	74.1%	22	3.6%	46	7.5%	25	4.1%
	その他老人施設	211	86.6	109	51.7%	132	62.6%	19	9.0%	23	10.9%	10	4.7%
	ホテル・旅館・簡易宿泊所	55	53.4	20	36.4%	20	36.4%	7	12.7%	4	7.3%	1	1.8%
	介護老人保健施設	171	87.4	81	47.4%	122	71.3%	13	7.6%	11	6.4%	5	2.9%
	有料老人ホーム	410	86.7	172	42.0%	277	67.6%	16	3.9%	34	8.3%	12	2.9%
	サービス付高齢者向け住宅	78	84.9	27	34.6%	38	48.7%	8	10.3%	8	10.3%	2	2.6%
	自助施設・グループホーム等(認知症以外)	78	80.0	45	57.7%	36	46.2%	5	6.4%	10	12.8%	2	2.6%
会社・工場等	会社・オフィス	123	57.8	77	62.6%	74	60.2%	54	43.9%	33	26.8%	33	26.8%
	工場・製造所・作業場	44	64.1	20	45.5%	24	54.5%	18	40.9%	5	11.4%	3	6.8%
	その他仕事場業態の場所	8	61.4	4	50.0%	1	12.5%	1	12.5%	2	25.0%	2	25.0%
販売・サービス業施設		236	63.3	173	73.3%	100	42.4%	68	28.8%	51	21.6%	32	13.6%
娯楽・遊戯施設		33	61.2	18	54.5%	7	21.2%	6	18.2%	2	6.1%	3	9.1%
健康・保養・美容施設		56	68.1	26	46.4%	25	44.6%	11	19.6%	10	17.9%	8	14.3%
医療等施設	病院	107	65.7	73	68.2%	86	80.4%	23	21.5%	34	31.8%	18	16.8%
	診療所・クリニック・医院	87	71.4	79	90.8%	74	85.1%	24	27.6%	21	24.1%	11	12.6%
	助産所・鍼灸院・接骨院等	5	75.8	5	100.0%	4	80.0%	1	20.0%	2	40.0%	1	20.0%
育児児童施設・学校		31	47.5	25	80.6%	26	83.9%	17	54.8%	15	48.4%	11	35.5%
芸術・文化施設		4	65.0	3	75.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%	1	25.0%
運動施設		53	65.7	40	75.5%	39	73.6%	26	49.1%	24	45.3%	16	30.2%
公園・遊園地等		56	57.9	15	26.8%	11	19.6%	13	23.2%	4	7.1%	4	7.1%
宗教施設・斎場等		20	70.6	11	55.0%	3	15.0%	3	15.0%	2	10.0%	2	10.0%
官公庁・行政施設		33	64.1	19	57.6%	17	51.5%	7	21.2%	4	12.1%	2	6.1%
道路・車両・交通施設	線路・軌道敷	15	56.3	9	60.0%	-	0.0%	1	6.7%	-	0.0%	-	0.0%
	駅	138	58.2	101	73.2%	97	70.3%	62	44.9%	50	36.2%	38	27.5%
	空港	3	62.3	3	100.0%	2	66.7%	1	33.3%	-	0.0%	-	0.0%
	港	1	57.0	-	0.0%	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	-	0.0%
	駐車場・駐輪施設	45	60.3	20	44.4%	16	35.6%	9	20.0%	4	8.9%	2	4.4%
	一般道路(公道・私道・施設内道路)	738	61.8	472	64.0%	239	32.4%	193	26.2%	98	13.3%	75	10.2%
高速道路・自動車専用道路		9	36.0	7	77.8%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%
自然環境・土地	農地(田・畑)	7	76.3	2	28.6%	3	42.9%	1	14.3%	-	0.0%	-	0.0%
	山林	5	56.0	5	100.0%	1	20.0%	2	40.0%	2	40.0%	-	0.0%
	河川・水路	67	56.9	17	25.4%	6	9.0%	6	9.0%	2	3.0%	2	3.0%
	海	2	54.0	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%
	その他自然環境・土地	7	53.7	4	57.1%	4	57.1%	4	57.1%	-	0.0%	-	0.0%
建築・工事現場		22	58.9	15	68.2%	10	45.5%	12	54.5%	2	9.1%	1	4.5%

※1 市民目撃及び隊員目撃

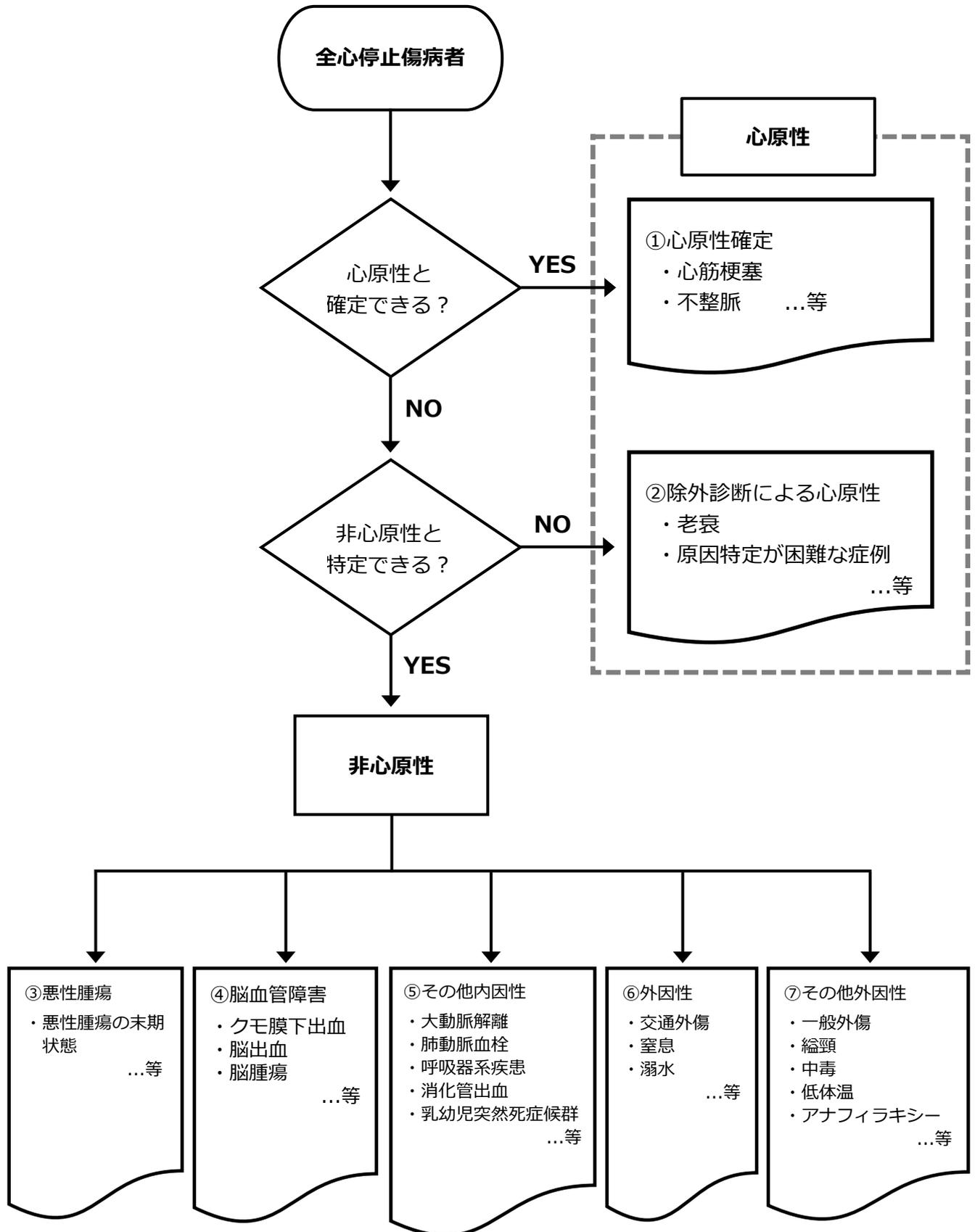
※2 胸骨圧迫・人工呼吸・除細動

※3 バイスタンダーを含む

(10) 心停止の推定原因

ウツタイン様式では、心停止をきたした原因を次に示すフローに基づき分類しています。これは、病態分類として大きく「心原性」と「非心原性」に分類し、それをさらに詳細分類したものです。

図表 2-2-25 ウツタイン様式による心停止の推定原因の分類フロー

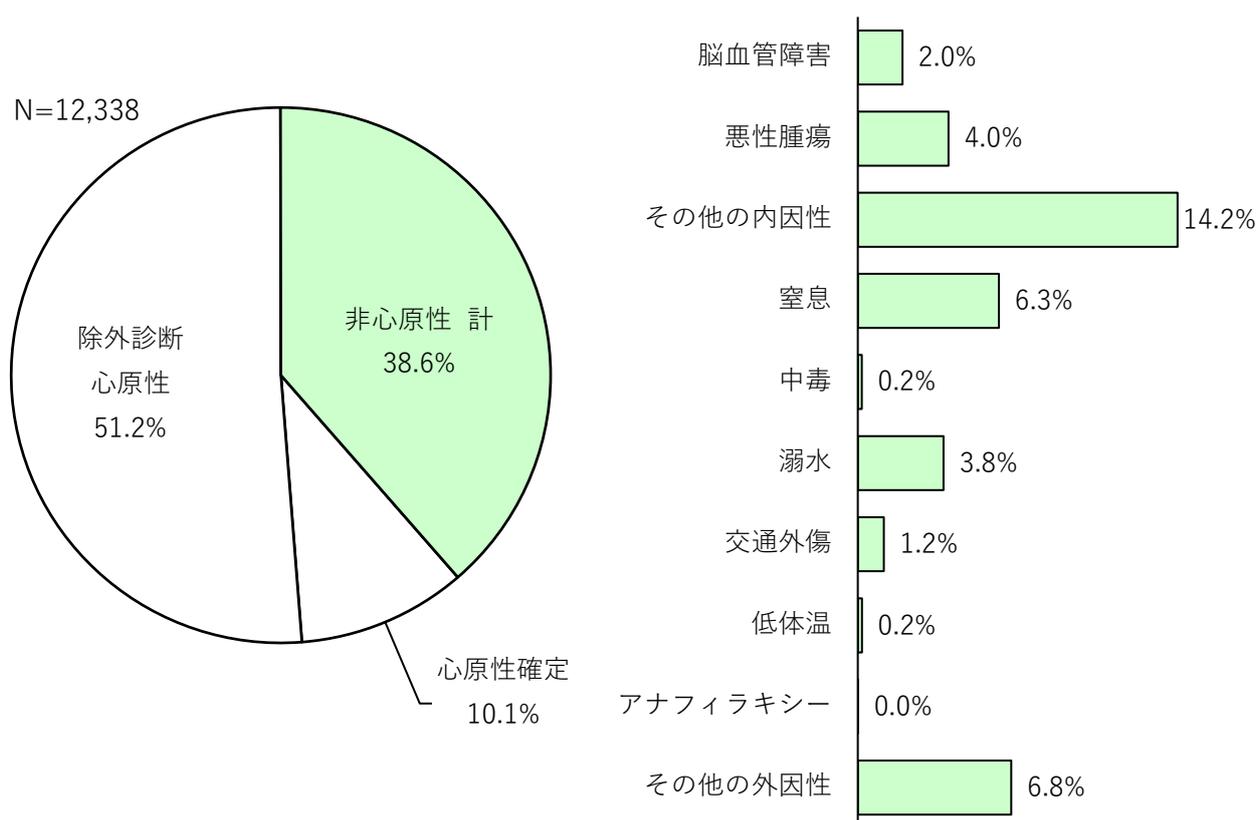


心停止の推定原因別の搬送人員、収容前心拍再開、及び1か月生存等の状況は、次のとおりです。

図表 2-2-26 心停止推定原因別の搬送人員

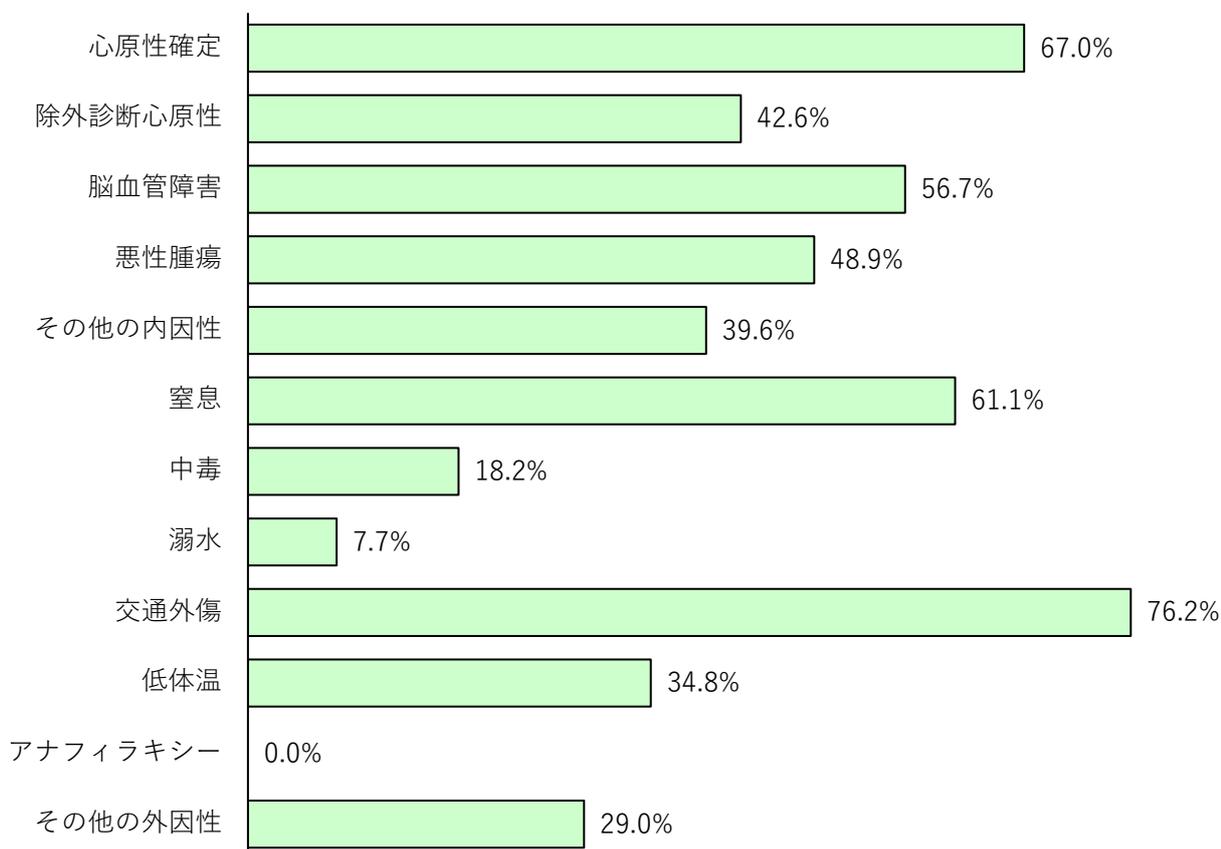
心停止の推定原因		搬送人員	割合
心原性	心原性確定	1,252	10.1%
	除外診断心原性	6,319	51.2%
	(心原性 計)	7,571	61.4%
非心原性	脳血管障害	245	2.0%
	悪性腫瘍	497	4.0%
	その他の内因性	1752	14.2%
	窒息	773	6.3%
	中毒	22	0.2%
	溺水	470	3.8%
	交通外傷	143	1.2%
	低体温	23	0.2%
	アナフィラキシー	1	0.0%
	その他の外因性	841	6.8%
	(非心原性 計)	4,767	38.6%
合計		12,338	100.0%

[非心原性の内訳]



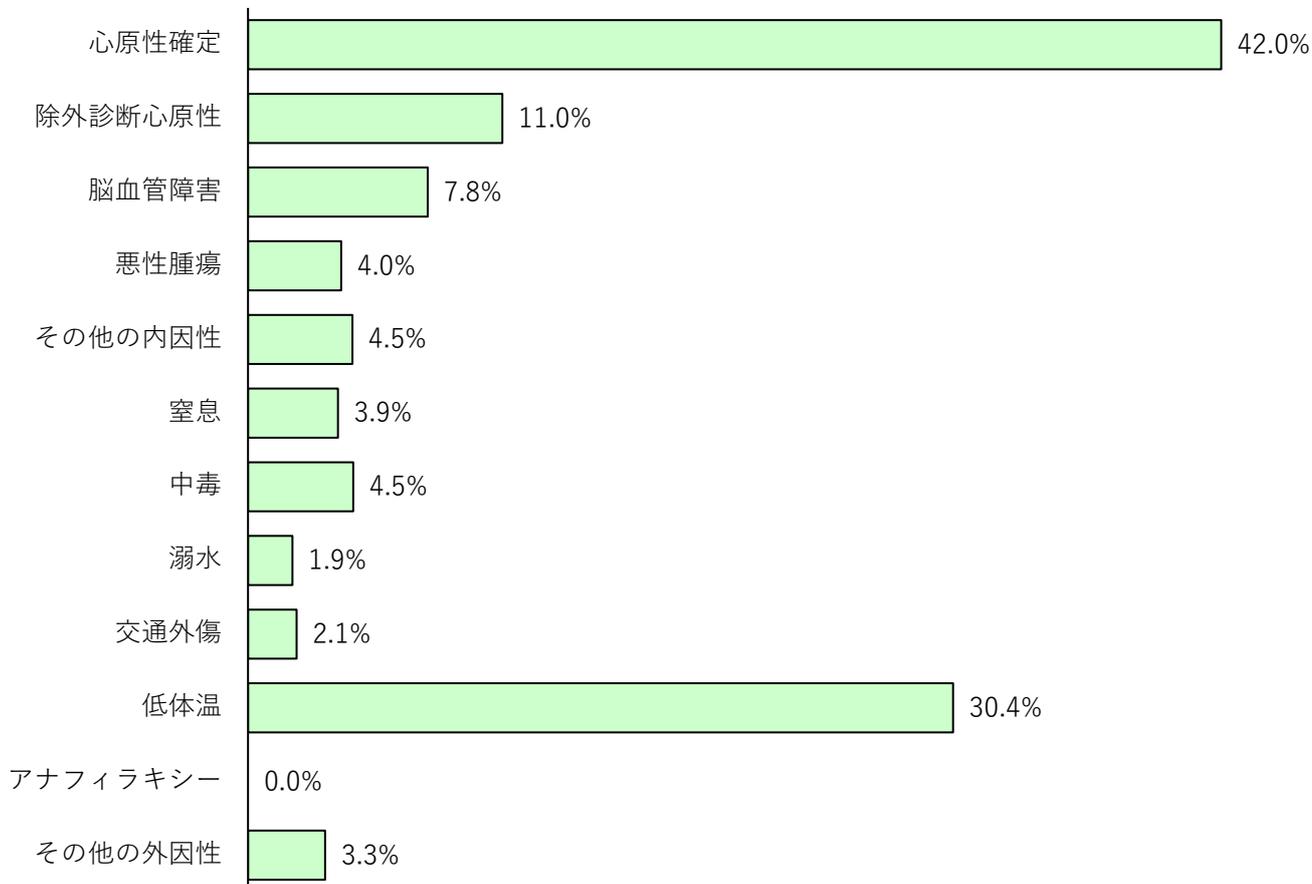
図表 2-2-27 心停止推定原因別の心停止目撃状況

心停止の推定原因		搬送人員 (A)	心停止 目撃数 (B)	割合 (B/A)	目撃状況			
					市民目撃 (C)	割合 (C/A)	隊員目撃 (D)	割合 (D/A)
心原性	心原性確定	1,252	839	67.0%	650	51.9%	189	15.1%
	除外診断心原性	6,319	2,689	42.6%	2,310	36.6%	379	6.0%
	(心原性 計)	7,571	3,528	46.6%	2,960	39.1%	568	7.5%
非心原性	脳血管障害	245	139	56.7%	104	42.4%	35	14.3%
	悪性腫瘍	497	243	48.9%	205	41.2%	38	7.6%
	その他の内因性	1,752	693	39.6%	588	33.6%	105	6.0%
	窒息	773	472	61.1%	439	56.8%	33	4.3%
	中毒	22	4	18.2%	1	4.5%	3	13.6%
	溺水	470	36	7.7%	34	7.2%	2	0.4%
	交通外傷	143	109	76.2%	91	63.6%	18	12.6%
	低体温	23	8	34.8%	3	13.0%	5	21.7%
	アナフィラキシー	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他の外因性	841	244	29.0%	202	24.0%	42	5.0%
	(非心原性 計)	4,767	1,948	40.9%	1,667	35.0%	281	5.9%
合計		12,338	5,476	44.4%	4,627	37.5%	849	6.9%



図表 2-2-28 心停止推定原因別の除細動施行状況

心停止の推定原因		搬送人員	除細動施行者数	除細動施行率
心原性	心原性確定	1,252	526	42.0%
	除外診断心原性	6,319	694	11.0%
	(心原性 計)	7,571	1,220	16.1%
非心原性	脳血管障害	245	19	7.8%
	悪性腫瘍	497	20	4.0%
	その他の内因性	1752	79	4.5%
	窒息	773	30	3.9%
	中毒	22	1	4.5%
	溺水	470	9	1.9%
	交通外傷	143	3	2.1%
	低体温	23	7	30.4%
	アナフィラキシー	1	0	0.0%
	その他の外因性	841	28	3.3%
	(非心原性 計)	4,767	196	4.1%
合計		12,338	1,416	11.5%



図表 2-2-29 心停止推定原因別の心拍再開状況

心停止推定原因別の心拍再開状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員 (A)	心拍再開数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	心拍再開数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	心拍再開数 (F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,252	339	27.1%	839	297	35.4%	413	42	10.2%
	除外診断心原性	6,319	413	6.5%	2,689	330	12.3%	3,630	83	2.3%
	（心原性 計）	7,571	752	9.9%	3,528	627	17.8%	4,043	125	3.1%
非心原性	脳血管障害	245	71	29.0%	139	55	39.6%	106	16	15.1%
	悪性腫瘍	497	18	3.6%	243	17	7.0%	254	1	0.4%
	その他の内因性	1752	108	6.2%	693	77	11.1%	1059	31	2.9%
	窒息	773	99	12.8%	472	87	18.4%	301	12	4.0%
	中毒	22	1	4.5%	4	1	25.0%	18	0	0.0%
	溺水	470	5	1.1%	36	1	2.8%	434	4	0.9%
	交通外傷	143	3	2.1%	109	2	1.8%	34	1	2.9%
	低体温	23	1	4.3%	8	1	12.5%	15	0	0.0%
	アナフィラキシー	1	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
	その他の外因性	841	36	4.3%	244	17	7.0%	597	19	3.2%
	（非心原性 計）	4,767	342	7.2%	1,948	258	13.2%	2,819	84	3.0%
合計		12,338	1,094	8.9%	5,476	885	16.2%	6,862	209	3.0%

（※隊員目撃及び市民目撃）

心停止推定原因別の心拍再開状況（応急手当有無別）

心停止の推定原因		市民目撃 （応急手当あり）			市民目撃 （応急手当なし）			目撃なし （応急手当あり）			目撃なし （応急手当なし）		
		搬送人員 (A)	心拍再開数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	心拍再開数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	心拍再開数 (F)	割合 (F/E)	搬送人員 (G)	心拍再開数 (H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	354	151	42.7%	296	64	21.6%	178	21	11.8%	235	21	8.9%
	除外診断心原性	1,095	169	15.4%	1,215	105	8.6%	1,519	39	2.6%	2,111	44	2.1%
	（心原性 計）	1,449	320	22.1%	1,511	169	11.2%	1,697	60	3.5%	2,346	65	2.8%
非心原性	脳血管障害	58	25	43.1%	46	20	43.5%	48	6	12.5%	58	10	17.2%
	悪性腫瘍	64	2	3.1%	141	9	6.4%	80	0	0.0%	174	1	0.6%
	その他の内因性	258	37	14.3%	330	26	7.9%	443	18	4.1%	616	13	2.1%
	窒息	247	46	18.6%	192	31	16.1%	138	8	5.8%	163	4	2.5%
	中毒	0	0	0.0%	1	0	0.0%	2	0	0.0%	16	0	0.0%
	溺水	13	1	7.7%	21	0	0.0%	148	3	2.0%	286	1	0.3%
	交通外傷	19	1	5.3%	72	1	1.4%	5	1	20.0%	29	0	0.0%
	低体温	1	0	0.0%	2	1	50.0%	4	0	0.0%	11	0	0.0%
	アナフィラキシー	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%
	その他の外因性	54	7	13.0%	148	3	2.0%	142	9	6.3%	455	10	2.2%
（非心原性 計）	714	119	16.7%	953	91	9.5%	1,011	45	4.5%	1,808	39	2.2%	
合計		2,163	439	20.3%	2,464	260	10.6%	2,708	105	3.9%	4,154	104	2.5%

図表 2-2-30 心停止推定原因別の1か月生存状況

心停止推定原因別の1か月生存状況（目撃有無別）

心停止の推定原因		全体			心停止目撃あり（※）			心停止目撃なし		
		搬送人員 (A)	1か月生存数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	1か月生存数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	1か月生存数 (F)	割合 (F/E)
心原性	心原性確定	1,252	295	23.6%	839	259	30.9%	413	36	8.7%
	除外診断心原性	6,319	163	2.6%	2,689	135	5.0%	3,630	28	0.8%
	（心原性 計）	7,571	458	6.0%	3,528	394	11.2%	4,043	64	1.6%
非心原性	脳血管障害	245	16	6.5%	139	11	7.9%	106	5	4.7%
	悪性腫瘍	497	5	1.0%	243	5	2.1%	254	0	0.0%
	その他の内因性	1752	47	2.7%	693	35	5.1%	1059	12	1.1%
	窒息	773	38	4.9%	472	30	6.4%	301	8	2.7%
	中毒	22	1	4.5%	4	1	25.0%	18	0	0.0%
	溺水	470	1	0.2%	36	0	0.0%	434	1	0.2%
	交通外傷	143	2	1.4%	109	1	0.9%	34	1	2.9%
	低体温	23	2	8.7%	8	2	25.0%	15	0	0.0%
	アナフィラキシー	1	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
	その他の外因性	841	14	1.7%	244	7	2.9%	597	7	1.2%
	（非心原性 計）	4,767	126	2.6%	1,948	92	4.7%	2,819	34	1.2%
合計	12,338	584	4.7%	5,476	486	8.9%	6,862	98	1.4%	

（※隊員目撃及び市民目撃）

心停止推定原因別の1か月生存状況（応急手当有無別）

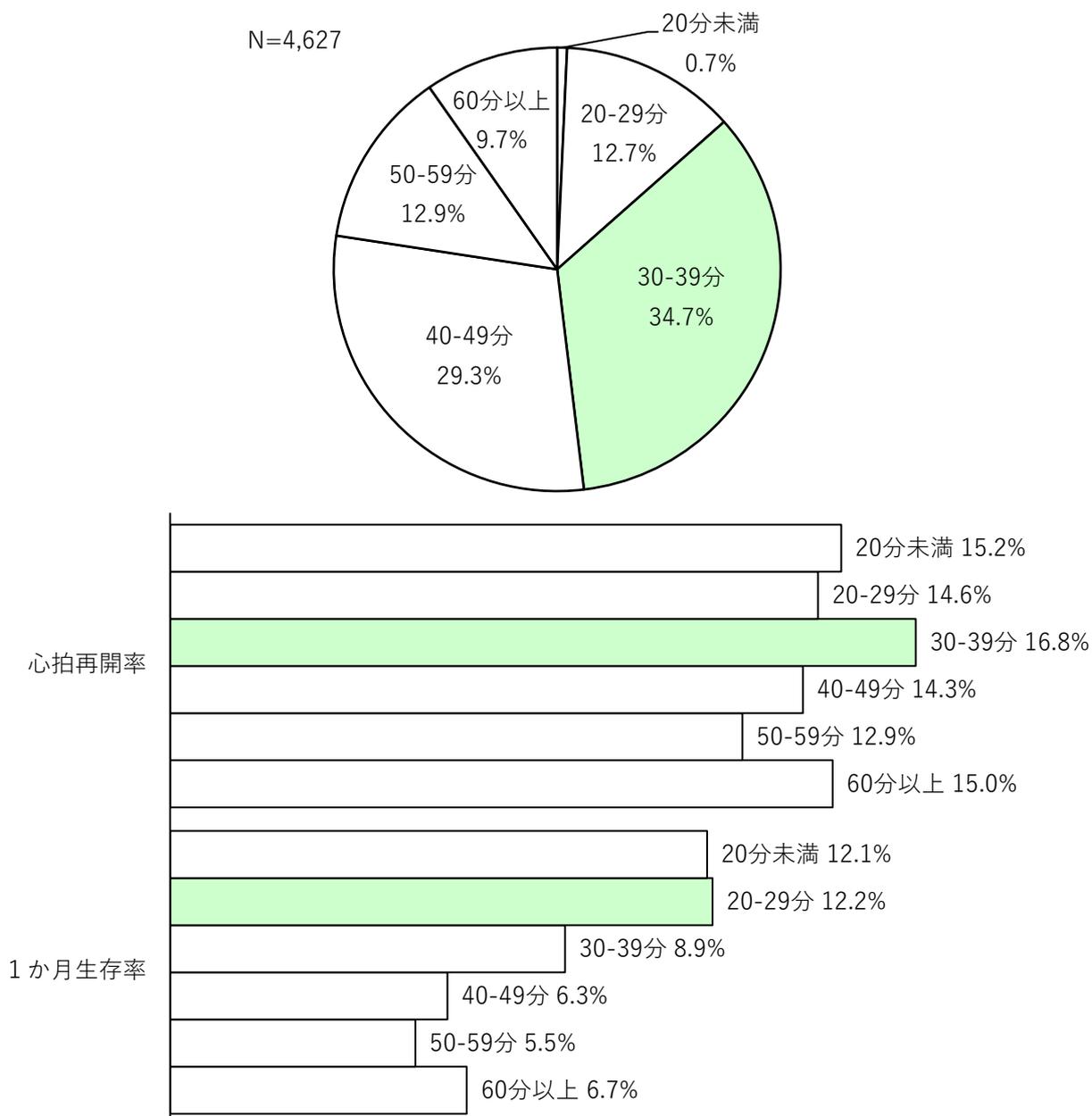
心停止の推定原因		市民目撃 （応急手当あり）			市民目撃 （応急手当なし）			目撃なし （応急手当あり）			目撃なし （応急手当なし）		
		搬送人員 (A)	1か月生存数 (B)	割合 (B/A)	搬送人員 (C)	1か月生存数 (D)	割合 (D/C)	搬送人員 (E)	1か月生存数 (F)	割合 (F/E)	搬送人員 (G)	1か月生存数 (H)	割合 (H/G)
心原性	心原性確定	354	137	38.7%	296	46	15.5%	178	21	11.8%	235	15	6.4%
	除外診断心原性	1,095	93	8.5%	1,215	22	1.8%	1,519	13	0.9%	2,111	15	0.7%
	（心原性 計）	1,449	230	15.9%	1,511	68	4.5%	1,697	34	2.0%	2,346	30	1.3%
非心原性	脳血管障害	58	9	15.5%	46	1	2.2%	48	3	6.3%	58	2	3.4%
	悪性腫瘍	64	3	4.7%	141	0	0.0%	80	0	0.0%	174	0	0.0%
	その他の内因性	258	20	7.8%	330	4	1.2%	443	5	1.1%	616	7	1.1%
	窒息	247	13	5.3%	192	10	5.2%	138	6	4.3%	163	2	1.2%
	中毒	0	0	0.0%	1	1	100.0%	2	0	0.0%	16	0	0.0%
	溺水	13	0	0.0%	21	0	0.0%	148	1	0.7%	286	0	0.0%
	交通外傷	19	1	5.3%	72	0	0.0%	5	1	20.0%	29	0	0.0%
	低体温	1	0	0.0%	2	1	50.0%	4	0	0.0%	11	0	0.0%
	アナフィラキシー	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%
	その他の外因性	54	4	7.4%	148	2	1.4%	142	1	0.7%	455	6	1.3%
（非心原性 計）	714	50	7.0%	953	19	2.0%	1,011	17	1.7%	1,808	17	0.9%	
合計	2,163	280	12.9%	2,464	87	3.5%	2,708	51	1.9%	4,154	47	1.1%	

(1) 市民目撃から医療機関収容所要時間区分別心拍再開・1か月生存

市民目撃があった傷病者 4,627 人のうち、市民目撃から医療機関に収容されるまでの所要時間等の状況は次のとおりです。

図表 2-2-31 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別搬送人員内訳

	搬送人員		心拍再開数		1か月生存数	
		割合		心拍再開率		1か月生存率
20分未満	33	0.7%	5	15.2%	4	12.1%
20-29分	588	12.7%	86	14.6%	72	12.2%
30-39分	1,604	34.7%	270	16.8%	143	8.9%
40-49分	1,358	29.3%	194	14.3%	85	6.3%
50-59分	596	12.9%	77	12.9%	33	5.5%
60分以上	448	9.7%	67	15.0%	30	6.7%
合計	4,627	100.0%	699	15.1%	367	7.9%



(12) 収容前心拍再開有無別1か月生存

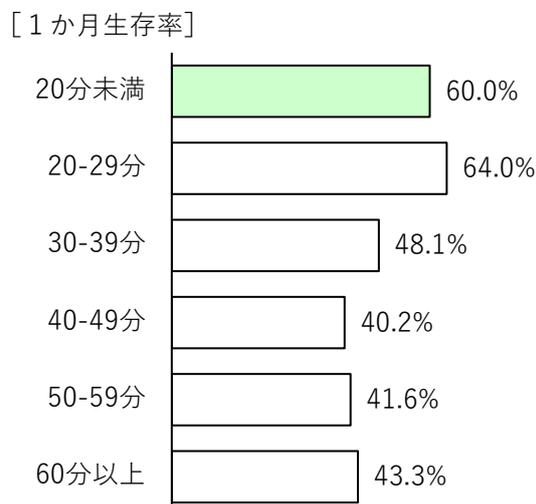
市民目撃があった傷病者 4,626 人のうち、収容前心拍再開があった群の 699 人及び収容前心拍再開がなかった群の 3,927 人の1か月生存状況等は、次のとおりです。

収容前に心拍再開があった群は、収容前に心拍再開がなかった群と比較して、1か月生存率に顕著な差が見られます。

図表 2-2-32 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別1か月生存状況（収容前心拍再開あり群）

	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
20分未満	5	0.7%	3	60.0%
20-29分	86	12.3%	55	64.0%
30-39分	270	38.6%	130	48.1%
40-49分	194	27.8%	78	40.2%
50-59分	77	11.0%	32	41.6%
60分以上	67	9.6%	29	43.3%
合計	699	100.0%	327	46.8%

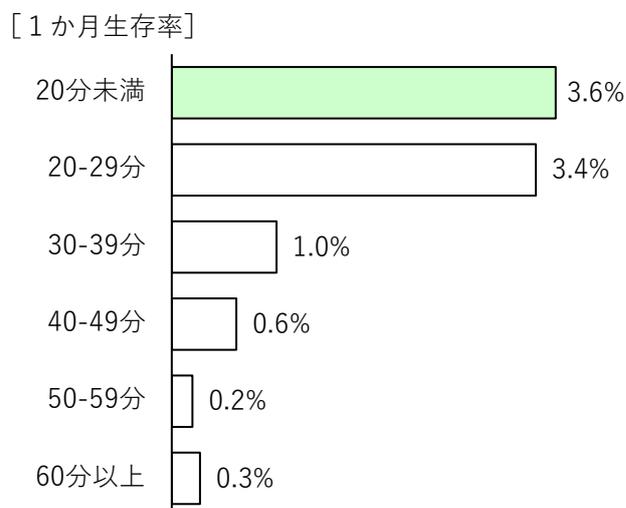
平均 43分37秒



図表 2-2-33 市民目撃から医療機関収容までの所要時間別1か月生存状況（収容前心拍再開なし群）

	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
20分未満	28	0.7%	1	3.6%
20-29分	502	12.8%	17	3.4%
30-39分	1,334	34.0%	13	1.0%
40-49分	1,164	29.6%	7	0.6%
50-59分	519	13.2%	1	0.2%
60分以上	381	9.7%	1	0.3%
合計	3,928	100.0%	40	1.0%

平均 42分52秒



(13) 市民目撃から心拍再開所要時間別1か月生存

市民目撃があり、収容前に心拍再開があった傷病者 699 人のうち、市民目撃から心拍再開までの所要時間と心拍再開時期別の1か月生存状況は、次のとおりです。

市民目撃から心拍再開所要時間の平均は19分02秒で、20分未満に心拍再開した傷病者群の1か月生存率は66.0%と、20分以上に心拍再開した傷病者群の22.4%より、43.6ポイント高くなっています。

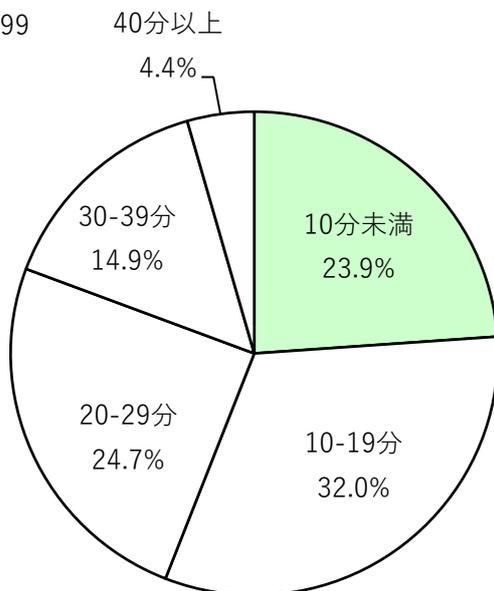
また、隊員等が到着する前にバイスタンダー等の応急手当により心拍再開した群は、全体の19.6%で、1か月生存率83.2%と、隊員等が到着後に心拍再開した群の1か月生存率37.9%とを比較すると、45.3ポイント高くなっています。

図表 2-2-34 市民目撃から初回心拍再開までの所要時間別搬送人員内訳

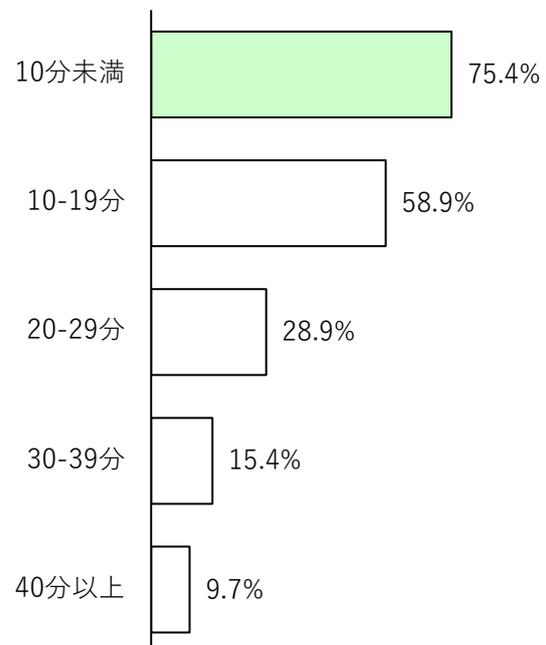
心停止の推定原因	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
10分未満	167	23.9%	126	75.4%
10-19分	224	32.0%	132	58.9%
20分未満 計	391	55.9%	258	66.0%
20-29分	173	24.7%	50	28.9%
30-39分	104	14.9%	16	15.4%
40分以上	31	4.4%	3	9.7%
20分以上 計	308	44.1%	69	22.4%
合計	699	100.0%	327	46.8%

[搬送人員]

N=699



[1か月生存率]

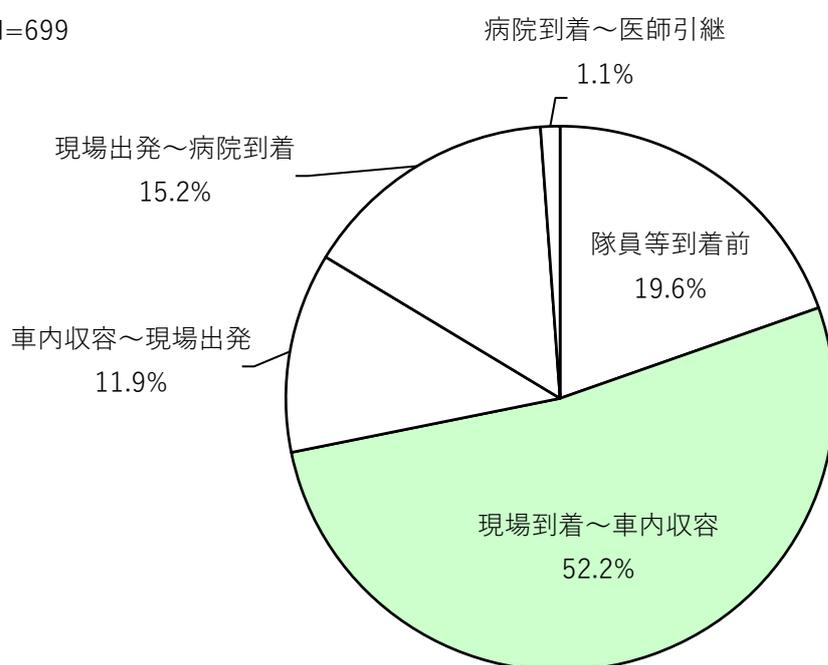


図表 2-2-35 初回心拍再開時期内訳（収容前心拍再開あり群）

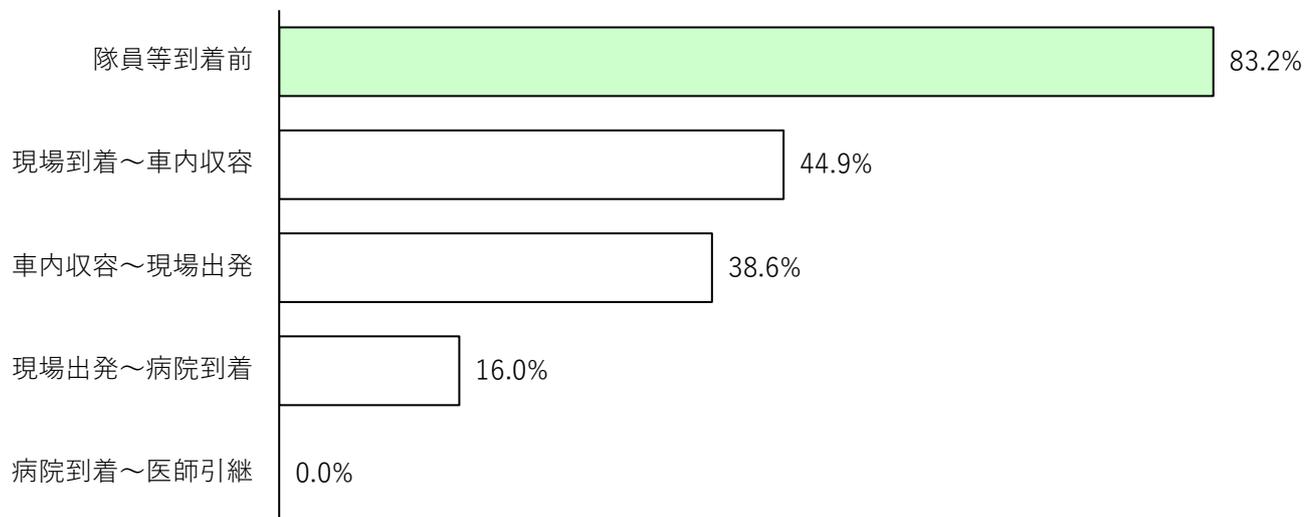
再開時期	搬送人員	割合	1か月生存数	1か月生存率
隊員等到着前	137	19.6%	114	83.2%
現場到着～車内収容	365	52.2%	164	44.9%
車内収容～現場出発	83	11.9%	32	38.6%
現場出発～病院到着	106	15.2%	17	16.0%
病院到着～医師引継	8	1.1%	0	0.0%
隊員等到着後計	562	80.4%	213	37.9%
合計	699	100.0%	327	46.8%

[搬送人員]

N=699



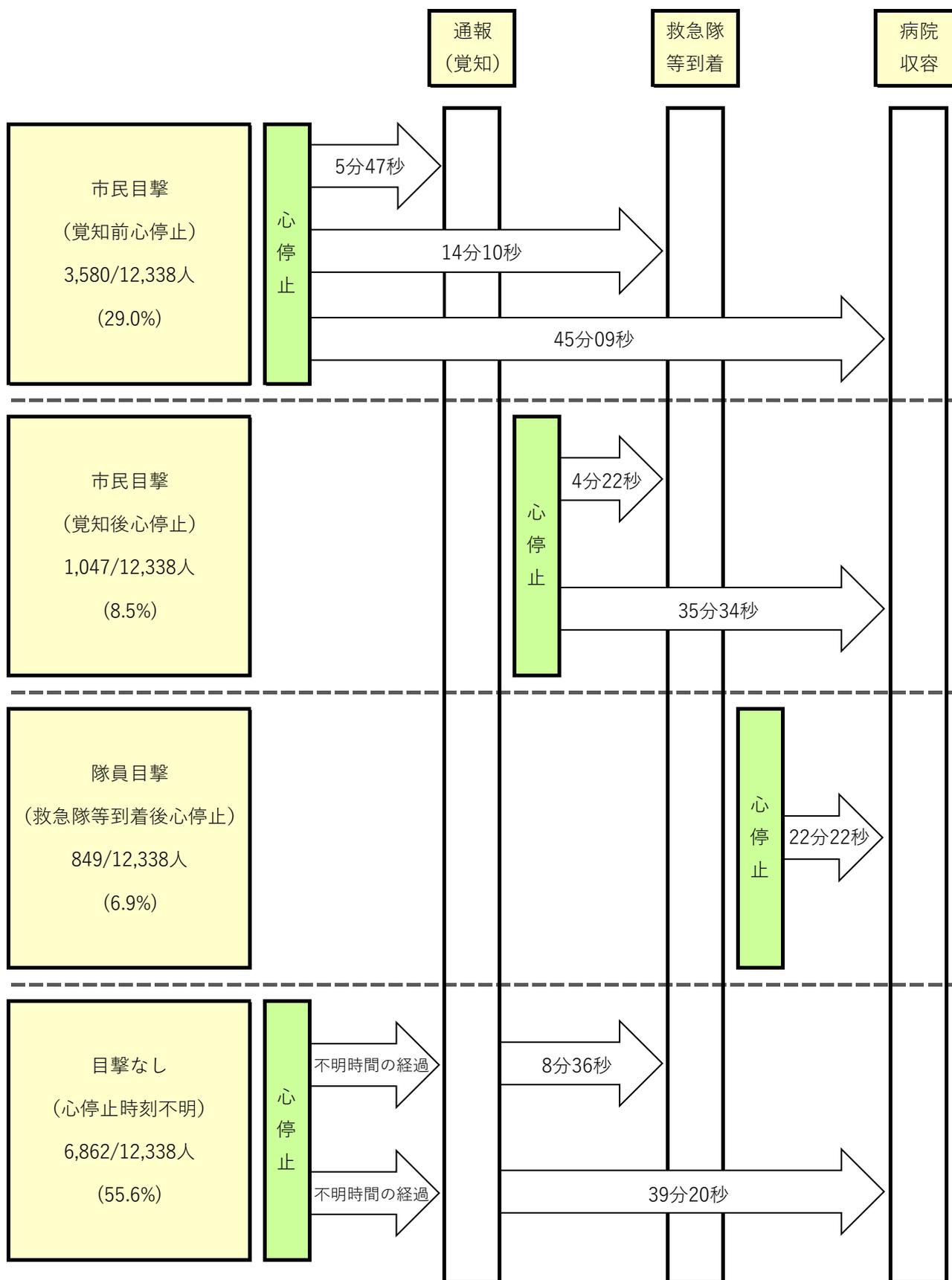
[1か月生存率]



(14) 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間

心停止傷病者が心停止となってから医療機関に収容されるまでの平均所要時間を、心停止目撃の時期別に区分して集計した結果は、次のとおりです。

図表 2-2-36 心停止目撃から医療機関収容までの所要時間



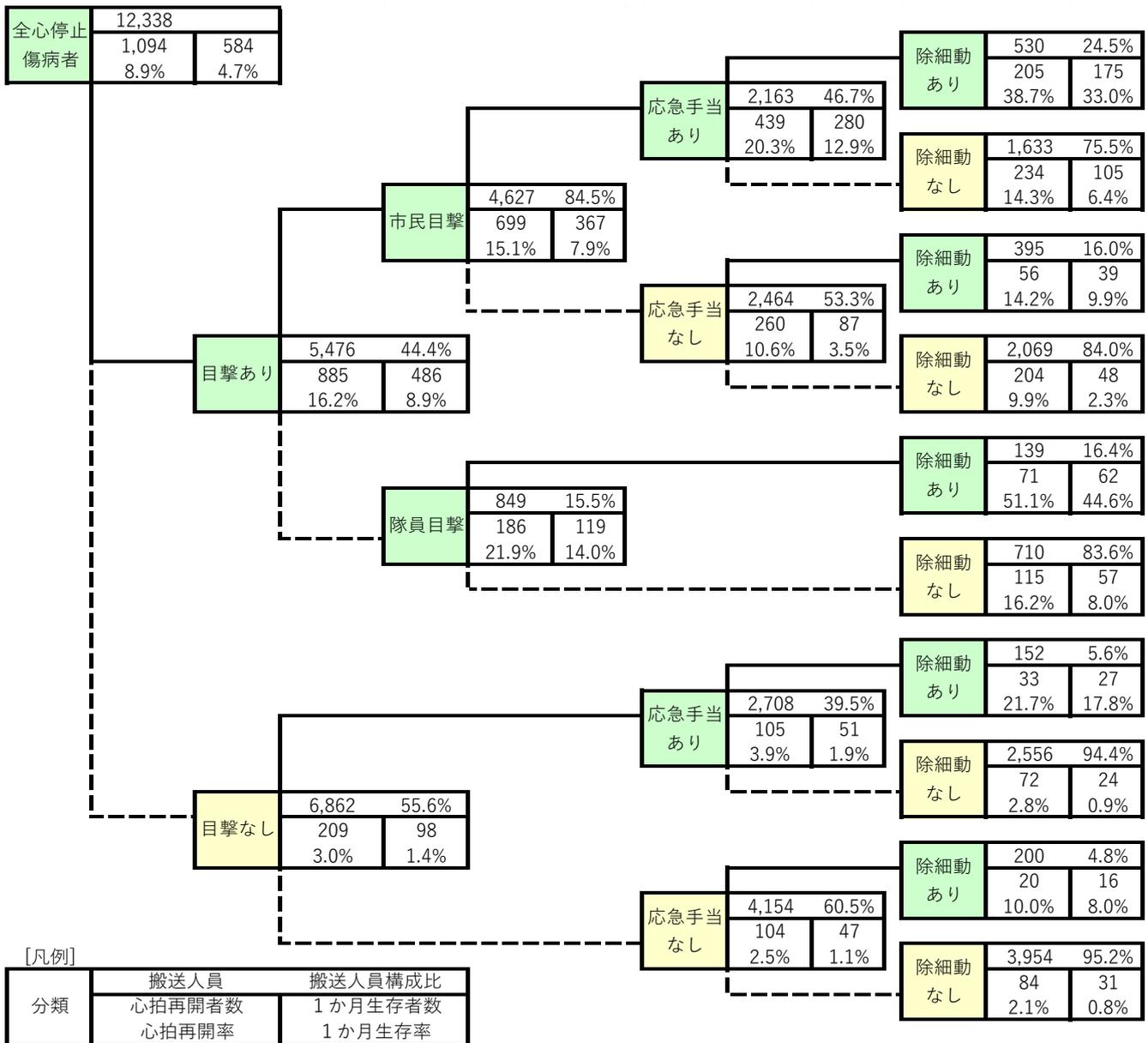
(15) 救命効果のテンプレート

前(3)から(14)の分析結果の概略を表したテンプレート（統計系統図）は次のとおりです。

テンプレートを部分的に見みると、心停止目撃、応急手当、除細動があった群の方がなかった群より心拍再開、1か月生存状況が良い結果となっていますが、なかった群の方があった群より搬送人員の実数が大幅に多いため、全体の心拍再開、1か月生存状況は良い結果とはなっていません。

あった群の搬送人員がなかった群の搬送人員を上回り、かつ「救命の連鎖」が途切れることなく行われ、救命効果が向上されることが今後望まれます。

図表 2-2-37 救命効果のテンプレート



図表 2-2-38 救命の連鎖 (Chain of Survival)



大切な命を救うために必要な行動を、迅速に途切れることなく行う重要性を表すもの。

第3節 救急処置

1 救急隊員による救急処置

全搬送人員 625,639 人で処置内容及び処置実施人数は以下のとおりです。

図表 2-3-1 救急処置内容

処置内容	処置実施人員	搬送人員に対する割合
心肺蘇生	11,842	1.9%
人工呼吸	13,303	2.1%
気道確保	31,891	5.1%
ラリングアルマスク※	30	0.0%
食道閉鎖式エアウェイ※	4,471	0.7%
気管内チューブ※	379	0.1%
静脈路確保（心肺機能停止前）※	1,505	0.2%
静脈路確保（心肺機能停止後）※	3,442	0.6%
薬剤投与（アドレナリン）※	1,310	0.2%
薬剤投与（ブドウ糖）※	529	0.1%
除細動	1,176	0.2%
血糖測定	1,808	0.3%
保温処置	376,507	60.2%
心電図測定	245,619	39.3%
酸素吸入	88,663	14.2%
固定（部分・全身）	45,663	7.3%
被覆・創傷処置	33,833	5.4%
止血処置	19,498	3.1%
医療処置継続	1,177	0.2%
冷却	3,944	0.6%

※は特定行為を示します。

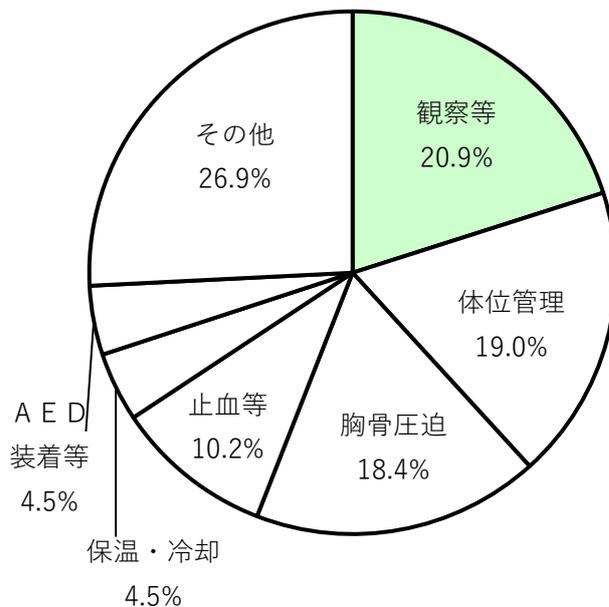
2 都民等による応急手当

(1) 応急手当の状況

傷病者に対して、家族、友人、近隣者などにより、救急隊が到着するまでの間に、24,959件の応急手当が実施されています。

図表 2-3-2 応急手当内容

応急手当内容	実施件数	割合
観察・バイタルサイン測定等	5,228	20.9%
体位管理	4,749	19.0%
胸骨圧迫（心マッサージ）	4,601	18.4%
止血・創傷処置	2,540	10.2%
保温・冷却	1,115	4.5%
AED装着、心電図測定	1,112	4.5%
移動（危険回避）	850	3.4%
在宅療法・既往における処置対応	653	2.6%
人工呼吸	433	1.7%
異物除去	423	1.7%
気道確保	222	0.9%
除細動	213	0.9%
固定処置	150	0.6%
その他	2,670	10.70%
合計	24,959	100.0%

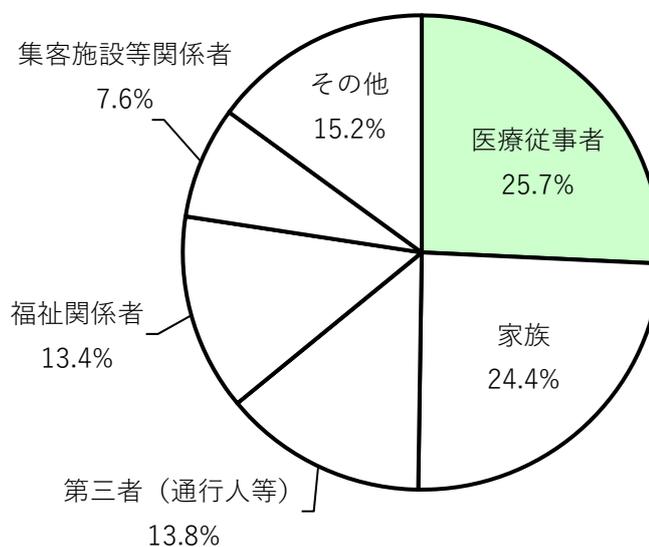


(2) 応急手当実施者

都民等による応急手当を実施者別にみると、医療従事者が最も多くなっています。

図表 2-3-3 応急手当実施者

実施者別	実施件数	割合
医療従事者	5,413	25.7%
家族	5,149	24.4%
第三者（通行人等）	2,901	13.8%
福祉関係者	2,817	13.4%
集客施設等関係者	1,607	7.6%
職場・学校関係者	1,139	5.4%
友人・近隣者	880	4.2%
警察	423	2.0%
医療機関スタッフ	221	1.0%
消防職員・消防団員	127	0.6%
その他	406	1.9%
合計	21,083	100.0%



(3) 事故種別ごとの応急手当内容・実施者

都民等による応急手当の内容と実施者を事故種別ごとにみると、次のとおりとなっています。

図表 2-3-4 事故種別ごとの応急手当内容、応急手当実施者

応急手当内容	合計	交通 事故	火災 事故	運動 競技	自然 災害	水難 事故	労働 災害	一般 負傷	自損 行為	加害	急病
観察・バイタルサイン測定等	5,228	86	1	27	0	0	11	579	10	4	4510
体位管理	4,749	241	1	21	0	11	41	1395	12	16	3011
胸骨圧迫（心マッサージ）	4,601	41	0	10	0	84	8	407	133	4	3914
止血・創傷処置	2,540	304	1	24	2	0	86	1947	44	18	114
病院医・往診医その他医療処置	1,364	9	0	7	0	0	3	139	4	0	1202
保温・冷却	1,115	48	8	73	0	4	31	517	1	1	432
AED装着、心電図測定	1,112	18	0	4	0	11	5	94	15	1	964
移動（危険回避）	850	115	2	5	0	39	5	298	48	1	337
在宅療法・既往における処置対応	653	0	0	0	0	0	0	52	0	0	601
人工呼吸	433	4	0	0	0	13	0	42	17	0	357
異物除去	423	0	0	0	0	0	0	319	0	0	104
気道確保	222	11	0	0	0	2	1	12	3	0	193
除細動	213	3	0	0	0	2	1	2	0	0	205
固定処置	150	20	0	42	0	0	7	75	0	0	6
その他	1,306	114	1	6	0	4	13	399	10	2	757
合計	24,959	1,014	14	219	2	170	212	6,277	297	47	16,707

処置実施者	合計	交通 事故	火災 事故	運動 競技	自然 災害	水難 事故	労働 災害	一般 負傷	自損 行為	加害	急病
医療従事者	5,413	103	1	26	1	4	17	797	9	4	4,451
家族	5,149	37	5	10	0	68	13	1,337	145	8	3,526
第三者（通行人等）	2,901	524	2	6	1	22	10	1,414	16	5	901
福祉関係者	2,817	4	0	0	0	9	2	521	11	0	2,270
集客施設等関係者	1,607	19	0	28	0	9	6	588	15	3	939
職場・学校関係者	1,139	14	1	60	0	1	123	272	11	2	655
友人・近隣者	880	28	2	41	0	3	2	321	16	6	461
警察	423	69	1	0	0	3	2	104	19	12	213
医療機関スタッフ	221	1	0	7	0	0	2	22	2	0	187
消防職員・消防団員	127	27	0	0	0	0	2	41	0	2	55
その他	406	70	0	5	0	4	6	85	8	2	226
合計	21,083	896	12	183	2	123	185	5,502	252	44	13,884

応急手当実施件数は転院搬送に係るものを除きます。

1人の傷病者に対して複数の処置が実施された場合は、処置者1名につき3つの処置まで計上しています。

1人の傷病者に対して複数名が処置を実施した場合は、4名まで処置実施者として計上しています。

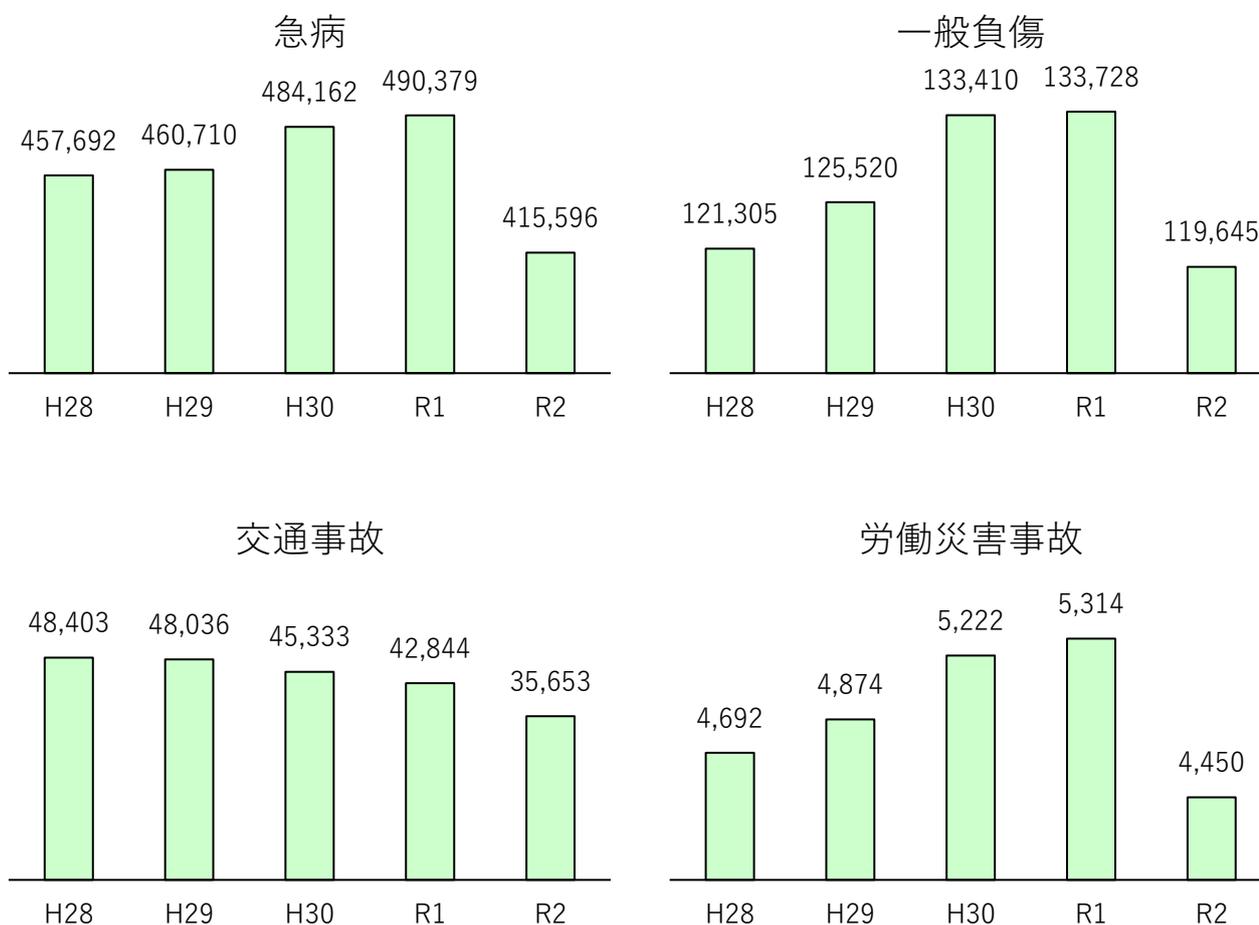
第4節 事故種別ごとの活動統計

1 事故種別ごとの搬送人員推移

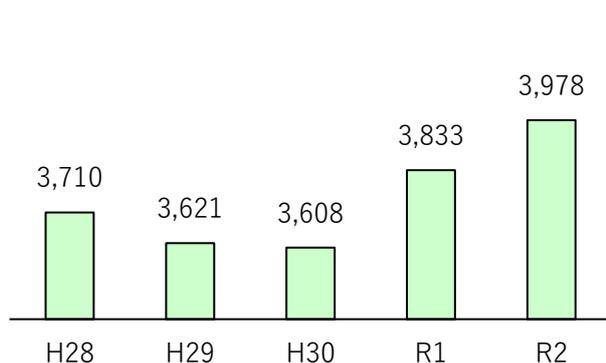
自損行為、火災事故は増加傾向にあり、急病、一般負傷、交通事故、労働災害事故、加害、運動競技事故、水難事故、自然災害事故、転院搬送は減少傾向にあります。

図表 2-4-1 事故種別ごとの搬送人員推移

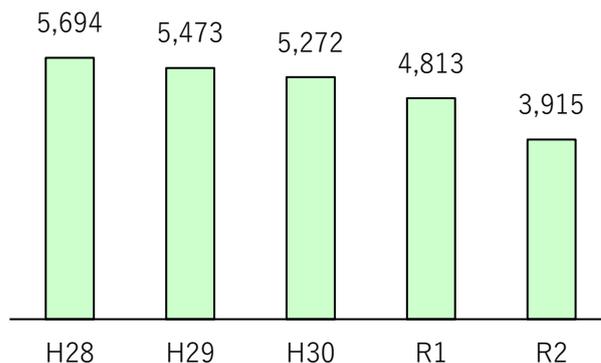
事故種別	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
急病	457,692	460,710	484,162	490,379	415,596
一般負傷	121,305	125,520	133,410	133,728	119,645
交通事故	48,403	48,036	45,333	42,844	35,653
労働災害事故	4,692	4,874	5,222	5,314	4,450
自損行為	3,710	3,621	3,608	3,833	3,978
加害	5,694	5,473	5,272	4,813	3,915
運動競技事故	5,390	5,317	5,409	5,256	2,917
火災事故	787	677	682	606	616
水難事故	523	490	487	455	363
自然災害事故	10	12	20	14	7
転院搬送	43,217	44,198	42,823	44,658	38,499



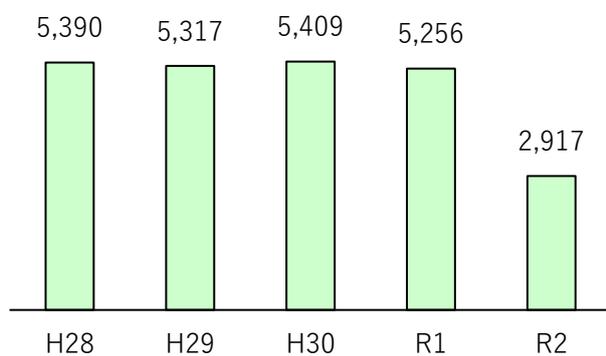
自損行為



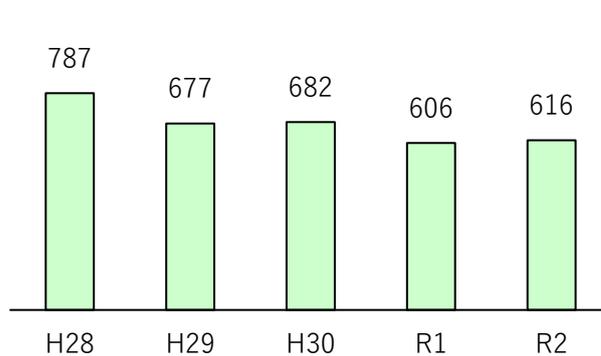
加害



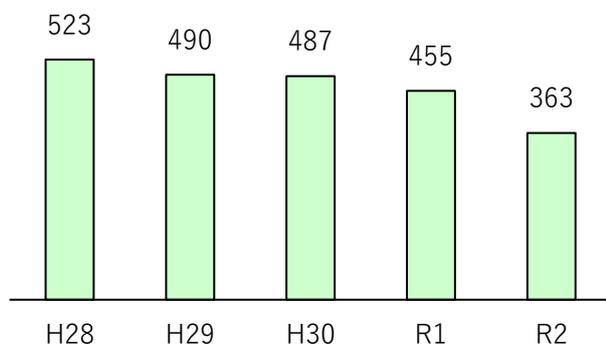
運動競技事故



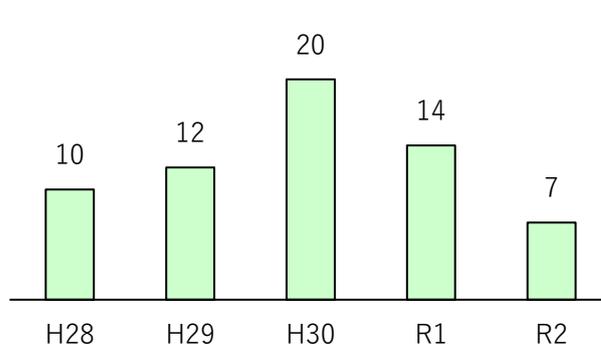
火災事故



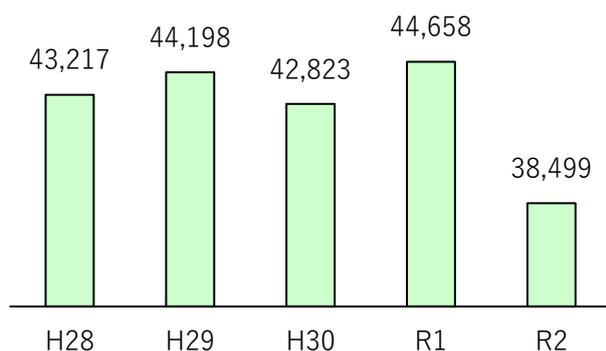
水難事故



自然災害事故



転院搬送

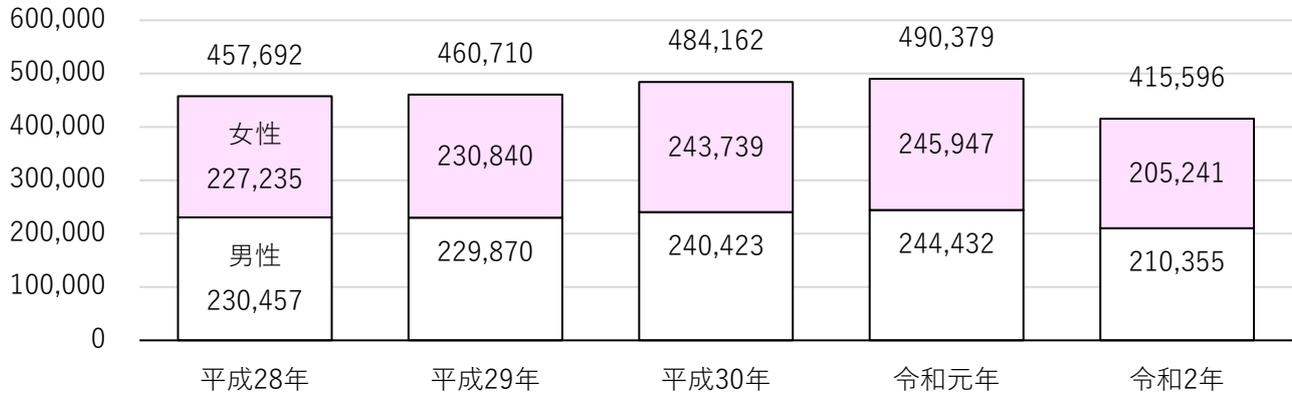


2 急病

(1) 搬送人員推移

急病の搬送人員は415,596人で、前年に比べ74,783人（15.3%）減少しています。

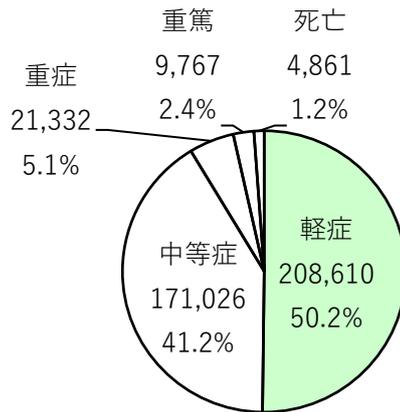
図表 2-4-2 急病の搬送人員推移



(2) 初診時程度

急病の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が50.2%を占めています。

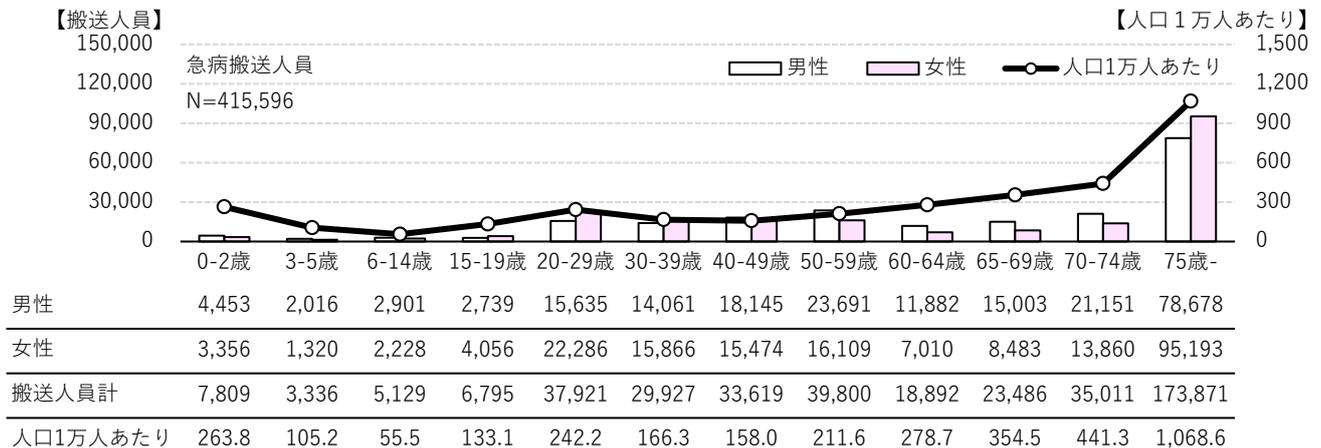
図表 2-4-3 急病の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

急病の搬送人員を年齢層別で見ると、高齢者層（65歳以上）が55.9%で割合が多く、特に75歳以上が全体の41.8%を占めています。

図表 2-4-4 急病の年齢層別搬送人員



(4) 病態別搬送人員

急病の搬送人員を病態別でみると、「痛み」が最も高い割合を占めています。

図表 2-4-5 急病の病態別搬送人員

病態		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
痛み	頭痛・頭重感	7	46	306	316	1,843	1,694	1,605	1,618	510	496	654	2,667	11,762
	胸痛	1	10	108	179	893	927	1,463	2,030	865	959	1,226	5,165	13,826
	腹痛	101	299	954	1,605	9,465	7,284	6,604	5,938	2,181	2,307	2,831	10,340	49,909
	腰背部痛	2	1	10	80	964	1,697	2,171	2,200	811	1,016	1,248	6,183	16,383
	筋骨格系の痛み	9	45	64	55	429	630	855	1,214	646	776	1,086	5,466	11,275
	感覚器系の痛み	9	25	28	35	120	100	127	116	66	56	74	267	1,023
	その他痛み	15	43	93	81	318	334	333	387	185	201	316	1,375	3,681
意識障害	意識消失・失神 (一過性)	123	85	299	491	1,470	908	1,175	1,550	791	1,011	1,539	8,638	18,080
	意識障害・混濁 (遷延性)	83	94	132	222	1,413	697	1,051	1,568	872	1,060	1,710	10,968	19,870
	異常行動・言動・興奮	13	13	28	17	58	50	78	129	69	79	108	408	1,050
	無算動・昏迷・自発性欠如	4	3	17	21	62	43	69	70	27	31	53	286	686
発熱	1,975	649	583	703	3,884	2,064	1,690	1,736	914	1,491	2,744	22,966	41,399	
痙攣・麻痺・ 感覚異常	痙攣	3,522	1,101	1,146	613	1,303	919	963	827	311	309	414	1,357	12,785
	不随意運動・振戦・ふるえ	31	26	43	60	173	164	210	238	183	149	227	976	2,480
	運動麻痺	5	4	10	13	63	124	526	1,036	563	807	1,178	4,878	9,207
	知覚麻痺	-	-	3	8	85	145	183	288	110	135	154	409	1,520
	言語・構語障害	-	-	4	2	26	54	186	426	282	373	642	2,651	4,646
	視野障害 (視野狭窄等)	-	3	4	5	30	56	58	81	39	62	62	156	556
	聴覚障害 (耳閉、耳鳴、難聴)	-	-	2	-	10	15	16	20	9	5	9	55	141
	その他麻痺等	-	-	5	12	89	121	135	175	95	91	140	414	1,277
めまい	dizziness (一般的めまい)	-	1	24	85	648	678	1,022	1,399	747	1,004	1,477	4,895	11,980
	vertigo (回転するめまい)	-	2	17	61	673	1,052	1,666	2,140	982	1,114	1,603	4,258	13,568
動悸等	動悸・不整脈感	3	5	36	74	739	926	1,249	1,295	529	642	916	3,136	9,550
	胸部違和感・胸内苦悶	-	-	13	29	189	234	405	634	288	368	565	3,250	5,975
呼吸器症状	鼻出血	17	44	54	17	60	82	192	337	193	261	334	1,082	2,673
	呼吸困難	106	74	80	48	198	275	430	678	515	680	1,150	6,620	10,854
	呼吸困難 (過換気)	-	-	117	440	1,793	1,129	805	518	122	80	81	181	5,266
	息切れ、息苦しさ	96	110	157	166	1,024	1,156	1,478	1,766	967	1,122	1,871	11,048	20,961
	喀血・血痰	1	1	-	2	10	12	40	64	38	48	88	283	587
	咳・嚔声・喀痰異常	168	168	65	17	104	109	118	140	46	56	117	858	1,966
	その他呼吸器症状	65	17	23	18	58	56	54	59	35	29	76	1,169	1,659
消化器症状	嘔吐・嘔気	649	245	312	489	4,093	2,113	1,601	1,616	699	841	1,268	6,501	20,427
	下痢	36	8	10	16	175	164	147	164	80	122	117	750	1,789
	吐血	16	12	9	6	87	110	231	394	209	248	313	1,643	3,278
	下血・血便	22	12	9	15	113	127	296	467	282	367	547	2,779	5,036
	腹部膨満感・違和感	7	-	2	2	24	40	71	149	69	100	158	605	1,227
	便秘・排便困難	20	7	7	-	14	44	47	118	75	109	257	1,280	1,978
	その他消化器症状	18	1	7	3	17	36	41	76	27	45	64	379	714
泌尿器・生殖器 症状	血尿	1	1	-	6	37	32	46	87	35	54	102	643	1,044
	乏尿・尿閉	3	-	3	2	11	23	57	162	147	189	335	1,326	2,258
	生殖器出血	-	-	-	11	93	220	121	54	6	7	13	99	624
	月経異常・月経困難	-	-	-	8	23	14	20	7	-	-	-	-	72
	その他泌尿器・生殖器症状	6	8	10	15	43	35	37	43	21	23	30	197	468
産科症状・新生児	88	-	-	10	128	286	46	1	-	-	-	-	559	
皮膚症状	黄疸	-	-	-	1	-	3	2	3	3	4	4	52	72
	発疹・湿疹	195	62	58	54	171	132	107	122	44	43	75	202	1,265
	皮下出血 (紫斑等)	-	-	-	1	2	2	3	4	1	1	4	37	55
	壊疽・壊死	-	-	-	-	-	-	8	21	7	19	11	41	107
	掻痒感	10	13	19	19	56	48	46	38	10	23	21	61	364
その他皮膚症状	27	12	13	5	32	36	41	59	20	29	54	261	589	
全身症状	虚脱・脱力感・歩行困難	57	20	74	311	2,181	1,231	1,670	2,806	1,699	2,466	3,820	18,100	34,435
	脱水・栄養失調・全身衰弱	3	-	12	16	49	57	127	239	164	238	429	2,576	3,910
	不安感・孤独感	1	-	5	16	93	114	181	153	46	50	60	157	876
	悪心・悪寒	2	2	21	61	290	192	213	221	100	161	264	1,047	2,574
	不定愁訴	7	-	5	8	45	61	80	98	28	46	59	216	653
	その他全身症状	82	17	35	57	289	292	343	433	263	318	485	2,356	4,970
その他	203	47	93	188	1,661	780	1,080	1,588	866	1,165	1,828	10,158	19,657	

(5) 疾患別搬送人員

急病の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「症状・徴候・診断名不明確」が57.2%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-6 急病の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	237,640	57.2%
消化器系疾患	33,458	8.1%
呼吸器系疾患	28,648	6.9%
心・循環器疾患	24,136	5.8%
脳血管障害	21,852	5.3%
精神系疾患	12,642	3.0%
感覚器・神経系疾患	11,883	2.9%
腎泌尿器・生殖器疾患	11,050	2.7%
その他	34,287	8.3%
合計	415,596	100.0%

(6) 発生場所

急病の搬送人員を発生場所別でみると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が74.2%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-7 急病の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	308,314	74.2%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	25,772	6.2%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	19,037	4.6%
駅	10,250	2.5%
特別養護老人ホーム	8,239	2.0%
一般飲食店	8,095	1.9%
会社・オフィス	7,111	1.7%
デパート・スーパー・量販店	2,994	0.7%
その他	25,784	6.2%
合計	415,596	100.0%

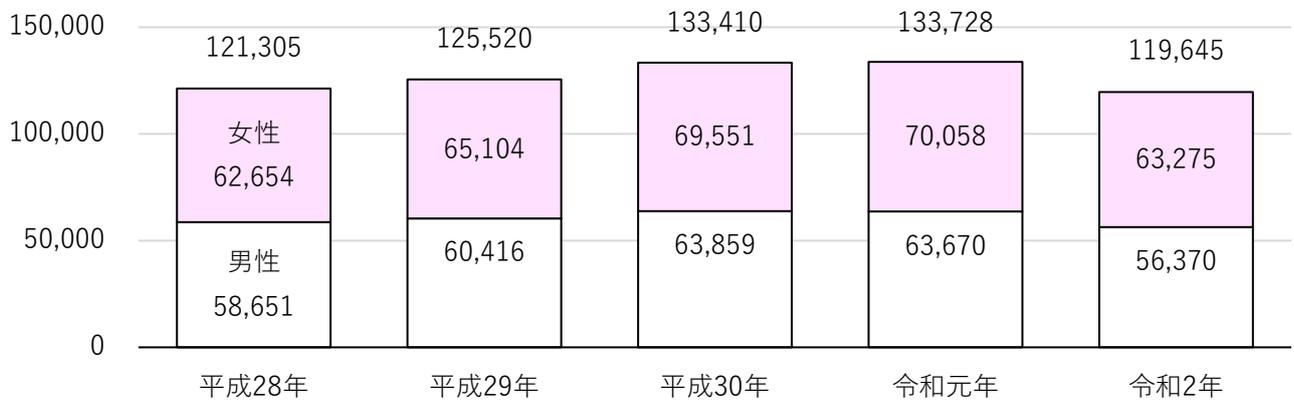
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

3 一般負傷

(1) 搬送人員推移

一般負傷（転倒や転落、誤って手を切ったなどの不慮の事故）の搬送人員は 119,645 人で、前年に比べ 14,083 人（10.5%）減少しています。

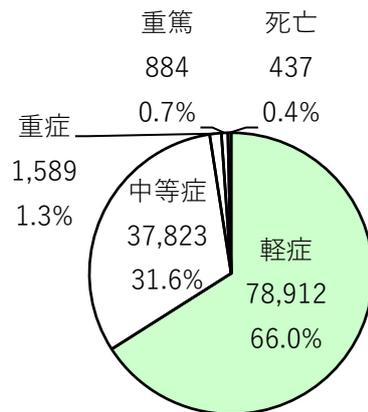
図表 2-4-8 一般負傷の搬送人員推移



(2) 初診時程度

一般負傷の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が 66.0% を占めています。

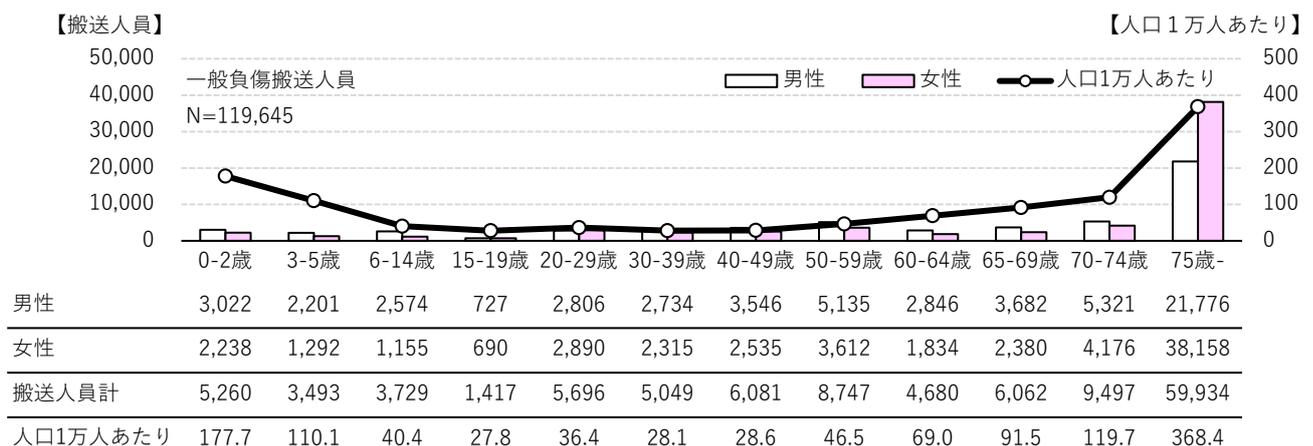
図表 2-4-9 一般負傷の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

一般負傷の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の 50.1% の割合を占めています。

図表 2-4-10 一般負傷の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

一般負傷の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-11 一般負傷の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	45	25	71	78	296	260	247	295	151	182	327	1,631	3,608
	転倒	1,298	1,205	1,257	329	1,565	1,678	2,628	4,827	2,940	3,980	6,491	45,164	73,362
	転落・滑落	1,249	671	585	100	477	452	575	1,062	506	618	828	3,892	11,015
	墜落・飛び降り	84	69	103	16	61	62	57	57	23	35	36	65	668
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	176	113	87	22	60	71	75	71	25	32	36	170	938
	躓かれ・踏まれ	9	3	5	4	12	9	3	7	1	3	-	10	66
	衝突・ぶつかり	410	441	564	108	307	296	283	330	112	127	157	622	3,757
	殴打・蹴られ	1	14	21	15	32	32	32	24	4	7	2	7	191
	ひきずられ・引っ張られ	89	42	8	2	18	25	11	14	3	6	5	49	272
	噛まれ・引っ掻き	33	15	35	18	41	53	81	97	41	32	54	143	643
	埋没・圧迫・押され	9	5	9	-	10	12	12	11	9	5	3	27	112
	飛来物・落下物	26	15	40	14	41	30	31	35	7	10	14	43	306
	その他行動・作用	76	62	78	58	204	174	170	162	56	78	128	449	1,695
不明	117	82	52	48	322	279	317	401	246	285	449	3,163	5,761	
危険物接触作用・ 環境暴露	刃物・鋭利物	67	67	136	96	401	323	295	261	99	99	102	241	2,187
	鈍器物	7	4	9	1	8	5	10	7	-	1	1	7	60
	爆発・破裂物	-	-	-	1	2	4	-	2	-	-	-	-	9
	銃器・武器	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	高熱固体・燃焼物	22	6	1	1	6	9	10	11	2	1	1	15	85
	高熱液体・燃焼物	266	73	54	13	77	59	81	58	23	28	37	109	878
	高熱気体・燃焼物	5	1	-	-	10	5	5	5	-	1	1	5	38
	有毒固体・燃焼物	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	3
	有毒液体・燃焼物	3	2	1	1	4	-	1	3	2	1	1	2	21
	有毒気体・燃焼物	1	-	1	-	6	5	6	5	4	3	1	9	41
	電流・感電	3	4	-	-	-	4	-	-	-	-	-	2	13
その他危険物	3	-	-	3	2	4	5	3	1	3	-	2	26	
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	4	1	3	1	2	3	4	8	-	-	1	2	29
	窒息・誤飲(気道)	253	57	26	3	11	16	32	53	27	48	87	914	1,527
	溺水・入水	8	-	-	-	-	1	4	1	7	9	16	138	184
	異物(食道・消化器)	461	133	61	11	44	53	48	58	30	36	47	407	1,389
	異物(感覚器官)	21	44	3	9	18	18	11	18	5	5	11	9	172
	異物(性器・泌尿器)	-	1	1	1	1	4	1	2	-	1	-	10	22
	その他窒息・異物	53	24	6	2	7	9	6	2	2	2	3	30	146
薬物服用・吸入・ 中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	8	3	16	85	403	277	196	145	33	30	19	82	1,297
	麻薬・覚醒剤	-	-	-	8	9	2	8	1	-	-	-	-	28
	その他医薬品	23	6	23	59	189	124	104	48	13	14	25	61	689
	消毒剤・洗剤	14	4	6	3	15	15	17	12	4	6	6	26	128
	有機溶剤	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	1	-	6
	殺虫剤・農薬・除草剤	3	1	1	-	5	4	3	3	3	1	1	15	40
	重金属・腐食剤	-	-	2	-	-	1	1	-	-	-	1	-	5
	日常生活用品	39	17	7	6	46	19	14	13	4	4	9	22	200
	自然毒・食中毒	74	54	52	17	78	59	46	31	14	10	14	24	473
	その他薬物・中毒	39	29	42	43	231	84	71	45	22	15	10	24	655
自然環境作用	高温環境	10	5	159	161	378	295	397	432	197	268	488	2,027	4,817
	低温環境	1	-	-	-	3	3	5	6	11	5	24	93	151
	その他自然環境	-	1	-	1	8	5	3	1	-	5	3	11	38
その他	249	194	204	79	285	205	172	118	53	65	57	212	1,893	

(5) 疾患別搬送人員

一般負傷の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が47.9%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-12 一般負傷の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	57,286	47.9%
骨折	20,855	17.4%
開放創・離断	7,029	5.9%
症状・徴候・診断名不明確	3,607	3.0%
脱臼・捻挫	3,421	2.9%
窒息・異物誤飲	2,708	2.3%
中毒	2,385	2.0%
熱傷Ⅱ度以下	1,053	0.9%
その他	21,301	17.8%
合計	119,645	100.0%

(6) 発生場所

一般負傷の搬送人員を発生場所別でみると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が53.5%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-13 一般負傷の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	63,979	53.5%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	26,978	22.5%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	4,821	4.0%
駅	4,780	4.0%
一般飲食店	2,593	2.2%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	2,201	1.8%
デパート・スーパー・量販店	1,673	1.4%
特別養護老人ホーム	1,546	1.3%
その他	11,074	9.3%
合計	119,645	100.0%

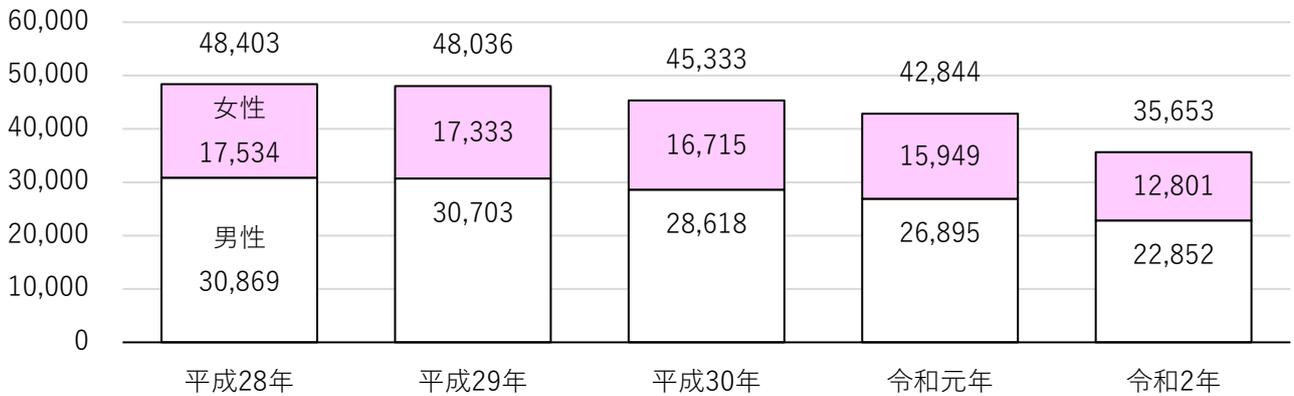
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

4 交通事故

(1) 搬送人員推移

交通事故（交通機関相互の衝突、接触又は単一事故、歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故）の搬送人員は 35,653 人で、前年に比べ 7,191 人（16.8%）減少しています。

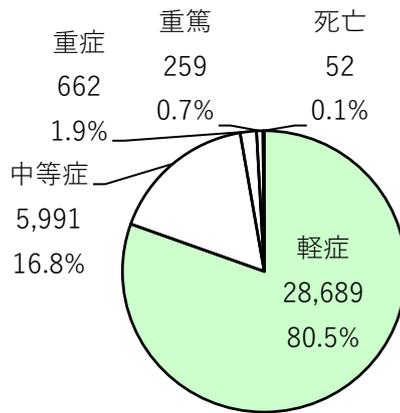
図表 2-4-14 交通事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

交通事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が 80.5% を占めています。

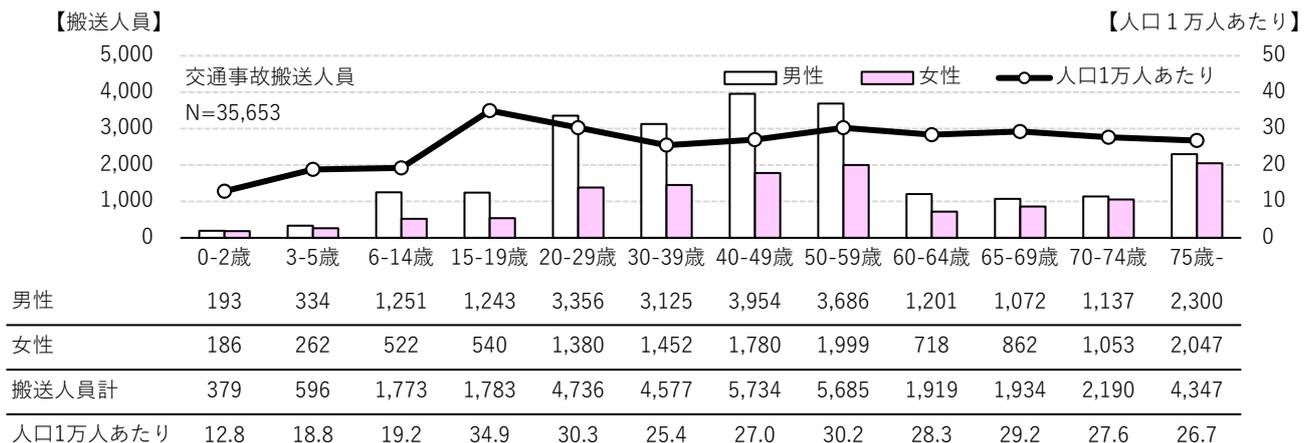
図表 2-4-15 交通事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

交通事故の搬送人員を年齢層別で見ると、20 歳代から 60 歳代が多く、各年齢層ともに男性が多くなっています。また、人口に対する比率は、15 歳から 19 歳が最も高くなっています。

図表 2-4-16 交通事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

交通事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「自転車乗車」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-17 交通事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層（歳）											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
交通事故等	歩行者で受傷	59	149	414	58	411	457	565	688	298	266	312	781	4,458
	自動車乗車で受傷	111	94	183	188	1,207	1,137	1,497	1,437	424	396	392	580	7,646
	自動二輪乗車で受傷	4	7	16	510	1,466	1,065	1,360	1,185	290	205	171	179	6,458
	自転車乗車で受傷	196	342	1,146	1,021	1,634	1,891	2,282	2,353	897	1,059	1,300	2,783	16,904
	鉄道乗車で受傷	-	-	-	1	1	-	2	5	1	1	3	4	18
	船舶乗船で受傷	-	-	-	-	2	2	1	-	-	-	-	-	5
	その他交通機関で受傷	8	3	14	5	8	15	16	9	6	2	6	12	104
不明	1	1	-	-	7	10	11	8	3	5	6	8	60	

「歩行者で受傷」は歩行者が自動車、二輪車、自転車等と衝突・接触し受傷したものの、交通機関乗車中の受傷は、運転中及び同乗中を含む。

(5) 外傷形態

交通事故の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が 66.2% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-18 交通事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	23,615	66.2%
骨折	2,778	7.8%
脱臼・捻挫	2,498	7.0%
開放創・離断	914	2.6%
脊椎・髄損傷	345	1.0%
症状・徴候・診断名不明確	250	0.7%
内部・臓器損傷	107	0.3%
筋・骨格系疾患	35	0.1%
その他	5,111	14.3%
合計	35,653	100.0%

(6) 発生場所

交通事故の搬送人員を発生場所別でみると、「一般道路（公道・私道・施設内道路）」が 91.5% で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-19 交通事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
一般道路（公道・私道・施設内道路）	32,607	91.5%
高速道路・自動車専用道路	955	2.7%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	789	2.2%
駐車場・駐輪施設	187	0.5%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	132	0.4%
コンビニエンスストア	129	0.4%
警察署・交番	122	0.3%
デパート・スーパー・量販店	110	0.3%
その他	622	1.7%
合計	35,653	100.0%

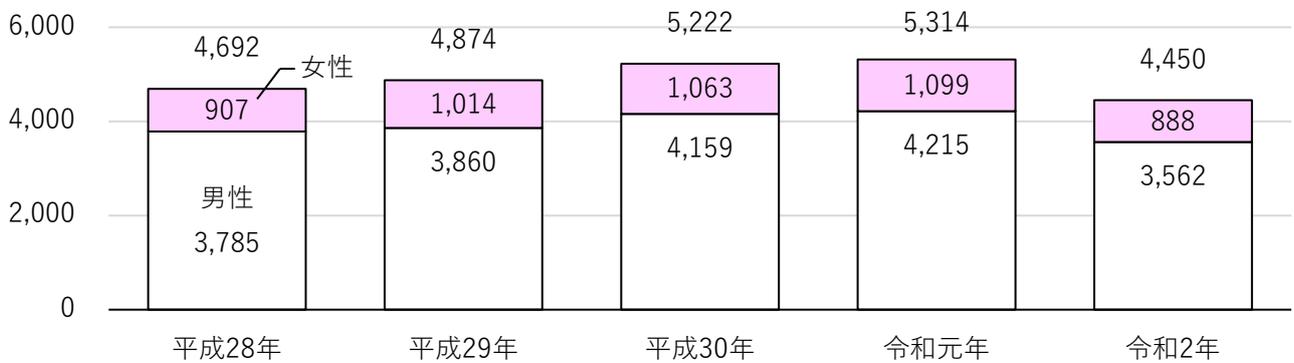
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

5 労働災害事故

(1) 搬送人員推移

労働災害事故（工場、事業所、作業所、工事現場等において就業中に発生した事故）の搬送人員は4,450人で、前年に比べ864人（16.3%）減少しています。

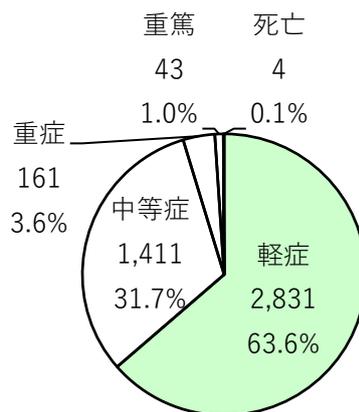
図表 2-4-20 労働災害事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

労働災害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が63.6%を占めています。

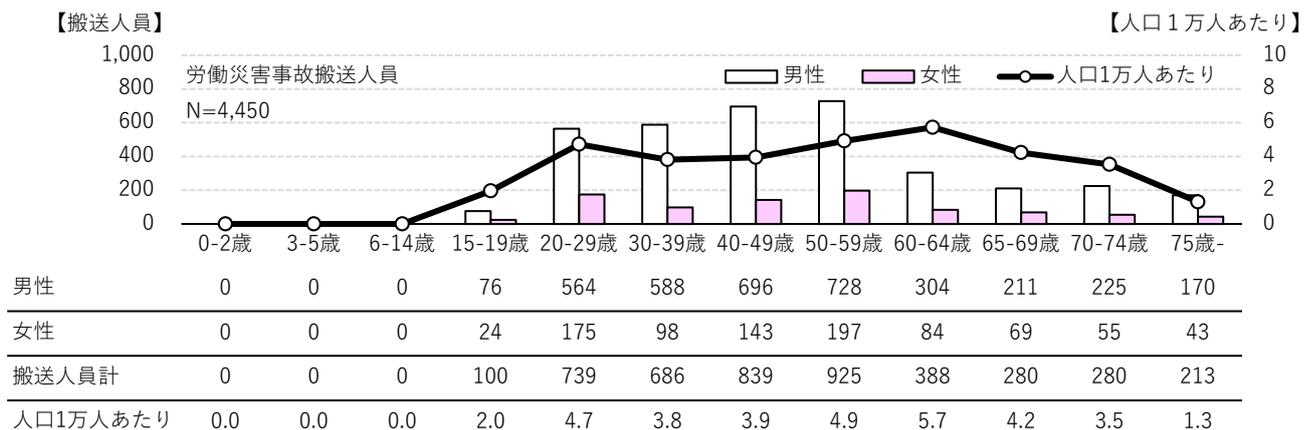
図表 2-4-21 労働災害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

労働災害事故の搬送人員を年齢層別で見ると、20歳代から50歳代の男性が高い多く、人口に対する比率は、60歳から64歳が最も高くなっています。また、各年齢層ともに男性が多くなっています。

図表 2-4-22 労働災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

労働災害事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転落・滑落」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-23 労働災害事故の事故発症時動作別搬送人員図表

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	3	15	24	18	21	5	6	2	2	96
	転倒	-	-	-	7	77	79	124	204	111	69	86	61	818
	転落・滑落	-	-	-	7	82	110	163	213	95	86	66	53	875
	墜落・飛び降り	-	-	-	6	19	26	47	47	18	10	18	5	196
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	-	13	93	102	123	133	53	19	31	30	597
	躓かれ・踏まれ	-	-	-	5	8	17	13	10	5	7	5	4	74
	衝突・ぶつかり	-	-	-	7	72	64	91	78	35	22	12	17	398
	殴打・蹴られ	-	-	-	-	-	2	4	1	-	-	-	-	7
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	-	-	2	2	-	1	1	-	-	-	6
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	-	10	9	4	1	1	-	4	-	29
	埋没・圧迫・押され	-	-	-	1	3	5	4	2	-	-	1	-	16
	飛来物・落下物	-	-	-	4	32	27	28	30	9	6	8	3	147
	その他行動・作用	-	-	-	2	28	21	21	16	4	2	3	2	99
	不明	-	-	-	1	3	2	6	9	3	4	4	2	34
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	-	28	181	120	116	106	33	31	26	22	663
	鈍器物	-	-	-	1	5	6	8	2	1	3	1	-	27
	爆発・破裂物	-	-	-	-	1	2	2	2	-	-	1	-	8
	銃器・武器	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	1	1	1	1	1	-	-	-	1	6
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	8	35	11	9	9	2	3	1	1	79
	高熱気体・燃焼物	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	3
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	1	1	2	1	-	-	1	1	-	7
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	-	3	4	4	3	1	2	-	-	17
	電流・感電	-	-	-	-	5	4	2	3	-	-	-	2	16
	その他危険物	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-	-	4
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	窒息・誤飲 (気道)	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	異物 (食道・消化器)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2
	異物 (感覚器官)	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	4
薬物服用・吸入・中毒	消毒剤・洗浄剤	-	-	-	-	3	2	3	-	-	1	-	-	9
	有機溶剤	-	-	-	1	1	2	-	-	1	1	-	-	6
	日常生活用品	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	自然毒・食中毒	-	-	-	-	-	3	1	1	-	-	-	-	5
	その他薬物・中毒	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	4
自然環境作用	高温環境	-	-	-	2	46	32	39	27	9	5	7	5	172
	低温環境	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	落雷	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
	その他自然環境	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	3
その他	-	-	-	1	2	3	2	4	-	-	2	2	16	

(5) 外傷形態

労働災害事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「打撲・血腫・挫傷」が39.7%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-24 労働災害事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	1,765	39.7%
開放創・離断	936	21.0%
骨折	607	13.6%
脱臼・捻挫	130	2.9%
症状・徴候・診断名不明確	127	2.9%
熱傷Ⅱ度以下	104	2.3%
脊椎・髄損傷	39	0.9%
筋・骨格系疾患	28	0.6%
その他	714	16.0%
合計	4,450	100.0%

(6) 発生場所

労働災害事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「工場・製造所・作業場」が23.5%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-25 労働災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
工場・製造所・作業場	1,046	23.5%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	507	11.4%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	452	10.2%
建築・工事現場	419	9.4%
一般飲食店	383	8.6%
会社・オフィス	344	7.7%
デパート・スーパー・量販店	201	4.5%
一般小売・販売店	127	2.9%
その他	971	21.8%
合計	4,450	100.0%

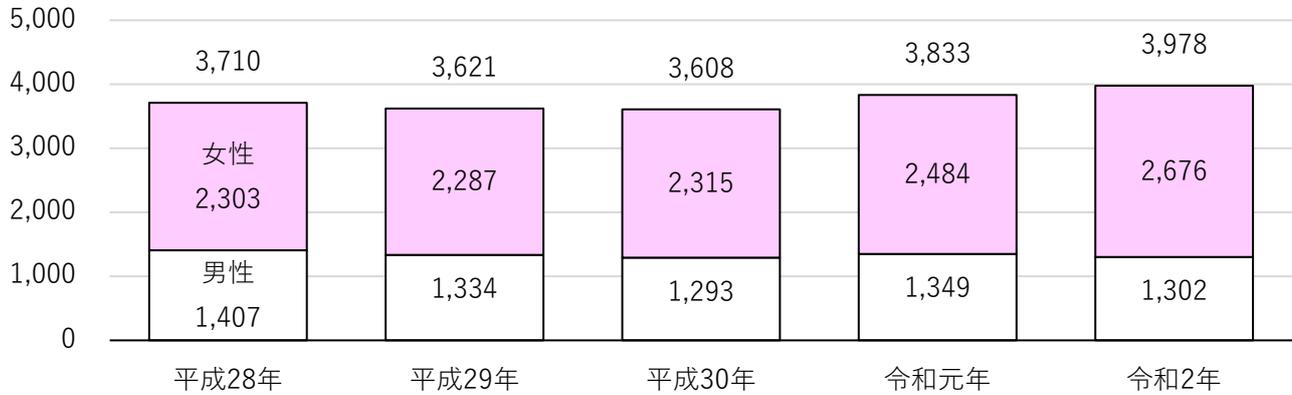
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

6 自損行為

(1) 搬送人員推移

自損行為（故意に自分自身に傷害を加えた事故）の搬送人員は 3,978 人で、前年に比べ 145 人（3.8%）増加しています。

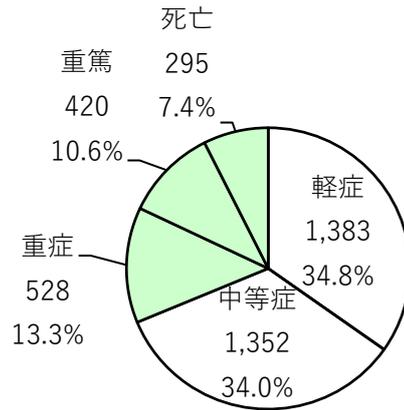
図表 2-4-26 自損行為の搬送人員推移



(2) 初診時程度

自損行為の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が 31.2% を占めています。

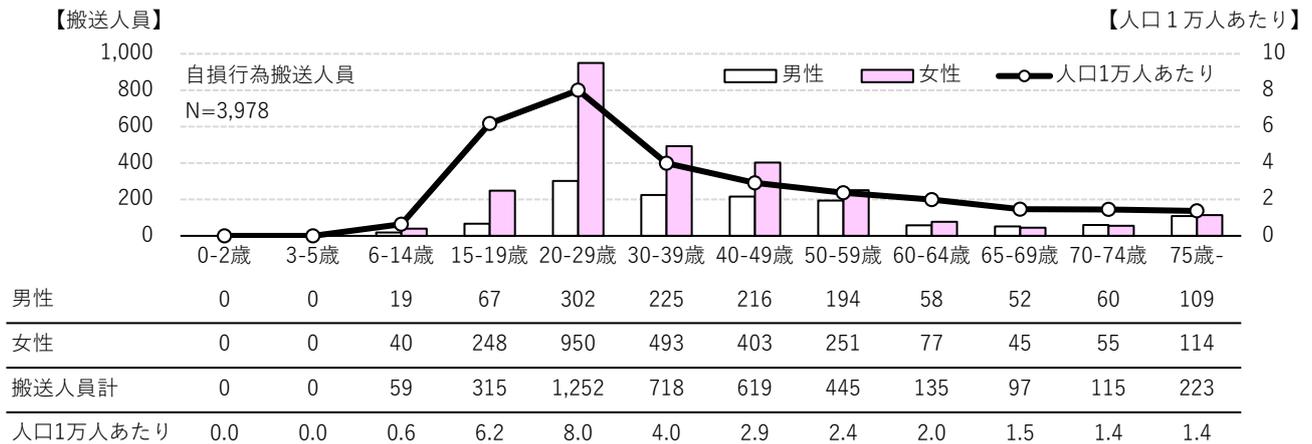
図表 2-4-27 自損行為の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

自損行為の搬送人員を年齢層別で見ると、20 歳代から 40 歳代の女性が多く、特に 20 歳代が、最も高い割合を占めています。

図表 2-4-28 自損行為の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

自損行為の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「睡眠薬・鎮痛・鎮静剤」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-29 自損行為の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作	年齢層(歳)												合計	
	0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74	75-		
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2
	転倒	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	転落・滑落	-	-	4	5	21	14	10	7	2	3	3	3	72
	墜落・飛び降り	-	-	10	33	82	43	41	19	11	11	9	9	268
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	轢かれ・踏まれ	-	-	-	2	1	1	-	1	-	-	1	1	7
	衝突・ぶつかり	-	-	-	4	12	8	9	2	-	-	-	1	36
	殴打・蹴られ	-	-	-	1	4	1	1	-	-	-	-	-	7
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2
	噛まれ・引っ掻き	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	3
	埋没・圧迫・押しされ	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2
	飛来物・落下物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	その他行動・作用	-	-	-	1	3	1	1	6	-	-	1	3	16
	不明	-	-	2	-	13	7	4	5	2	-	2	1	36
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	8	68	247	140	153	139	39	32	32	58	916
	鈍器物	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	4
	銃器・武器	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	高熱気体・燃焼物	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	3
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-	1	5
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	-	11	7	3	-	1	1	-	-	23
	その他危険物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	9	23	120	100	125	96	35	26	38	84	656
	窒息・誤飲(気道)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	3
	溺水・入水	-	-	-	1	6	3	2	2	-	1	-	2	17
	異物(食道・消化器)	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	5
	その他窒息・異物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	2
薬物服用・吸入・中毒	睡眠薬・鎮痛・鎮静剤	-	-	14	113	471	286	184	115	30	13	22	40	1,288
	その他医薬品	-	-	10	53	192	76	52	31	8	2	5	7	436
	消毒剤・洗浄剤	-	-	-	2	16	5	11	7	4	3	1	3	52
	有機溶剤	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	3
	殺虫剤・農薬・除草剤	-	-	-	-	1	-	3	2	-	1	1	1	9
	重金属・腐食剤	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	日常生活用品	-	-	2	1	12	7	4	1	1	2	-	2	32
	自然毒・食中毒	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	3
	その他薬物・中毒	-	-	-	5	27	13	5	6	1	-	-	2	59
その他	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	

(5) 外傷形態

自損行為の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「中毒」が38.7%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-30 自損行為の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
中毒	1,539	38.7%
開放創・離断	631	15.9%
症状・徴候・診断名不明確	278	7.0%
打撲・血腫・挫傷	229	5.8%
窒息・異物誤飲	140	3.5%
精神系疾患	107	2.7%
骨折	63	1.6%
心・循環器疾患	23	0.6%
その他	968	24.3%
合計	3,978	100.0%

(6) 発生場所

自損行為の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が82.2%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-31 自損行為の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	3,269	82.2%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	235	5.9%
警察署・交番	68	1.7%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	65	1.6%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	53	1.3%
河川・水路	47	1.2%
駅	42	1.1%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	39	1.0%
その他	160	4.0%
合計	3,978	100.0%

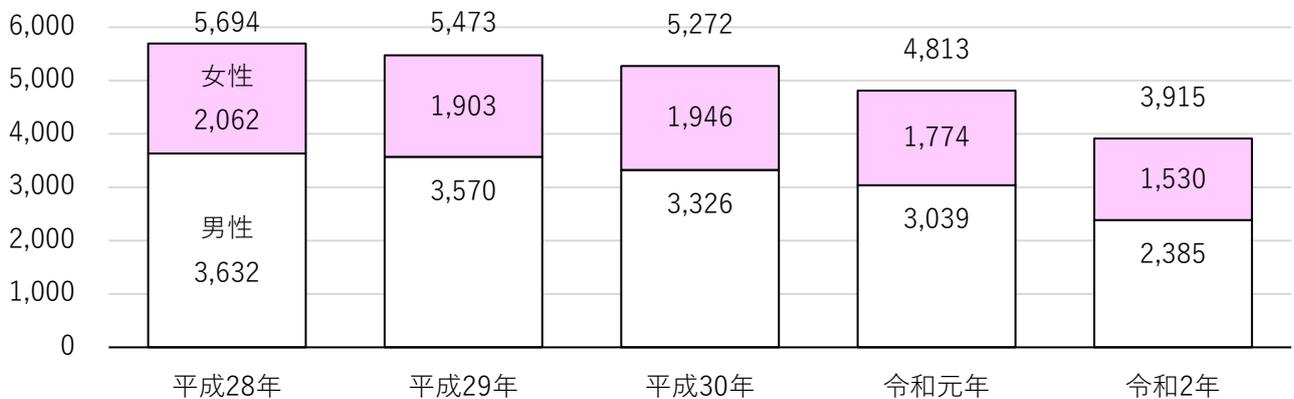
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

7 加害

(1) 搬送人員推移

加害（故意に他人によって傷害等を加えられた事故）の搬送人員は 3,915 人で、前年に比べ 898 人（18.7%）減少しています。

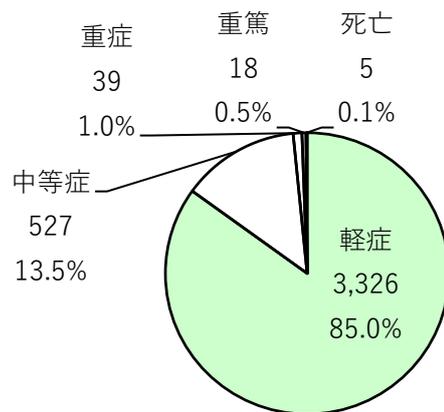
図表 2-4-32 加害の搬送人員推移



(2) 初診時程度

加害の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が 85.0% を占めています。

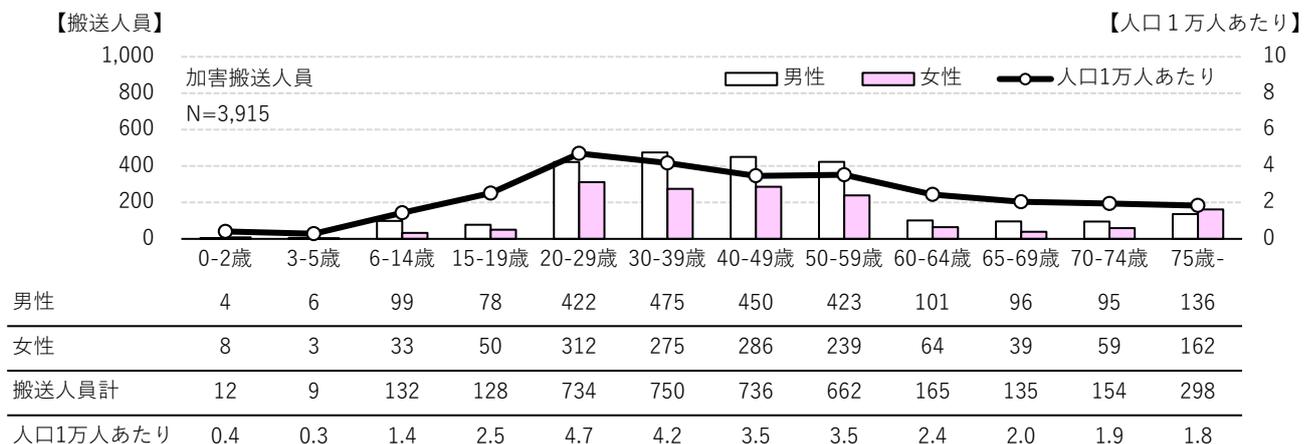
図表 2-4-33 加害の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

加害の搬送人員を年齢層別で見ると、20歳代から50歳代の男性が高い割合を占めています。

図表 2-4-34 加害の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

加害の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「殴打・蹴られ」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-35 加害の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	転倒	1	1	6	4	27	31	36	42	10	14	21	35	228
	転落・滑落	2	-	1	1	8	6	8	8	1	2	1	3	41
	墜落・飛び降り	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	2
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	1	2	3	5	3	7	1	-	1	2	25
	躓かれ・踏まれ	-	1	3	2	1	-	1	3	1	-	-	1	13
	衝突・ぶつかり	-	1	14	10	35	48	52	51	13	11	15	30	280
	殴打・蹴られ	5	5	78	84	524	523	483	416	99	83	76	166	2,542
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	1	5	19	22	22	19	1	3	4	6	102
	噛まれ・引っ掻き	1	-	3	2	5	12	18	10	3	-	1	6	61
	埋没・圧迫・押され	-	-	2	2	18	25	29	27	10	12	8	17	150
	飛来物・落下物	-	-	10	2	6	10	12	9	4	1	3	3	60
	その他行動・作用	2	1	4	2	20	14	15	15	5	-	6	5	89
不明	-	-	1	-	14	6	8	12	2	3	3	9	58	
危険物接触作用・ 環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	5	8	33	33	27	27	12	5	8	10	168
	鈍器物	-	-	3	-	5	7	7	9	1	-	3	-	35
	銃器・武器	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2
	高熱固体・燃焼物	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	高熱液体・燃焼物	-	-	-	1	1	-	3	-	-	-	1	-	6
	有毒液体・燃焼物	-	-	-	-	1	3	1	-	-	-	-	-	5
	有毒気体・燃焼物	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	1	5
	電流・感電	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	3
	その他危険物	-	-	-	-	1	1	-	2	-	-	-	-	4
窒息・誤飲・異物	縊首・絞首	-	-	-	1	3	1	4	3	-	-	-	2	14
	異物 (感覚器官)	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
	異物 (性器・泌尿器)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
薬物服用・吸入・ 中毒	その他医薬品	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	消毒剤・洗剤	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	3
	殺虫剤・農薬・除草剤	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	1	4
	日常生活用品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
その他薬物・中毒	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
その他	-	-	-	-	4	1	1	-	-	-	-	1	7	

(5) 外傷形態

加害の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が72.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-36 加害の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	2,822	72.1%
開放創・離断	301	7.7%
骨折	161	4.1%
脱臼・捻挫	84	2.1%
症状・徴候・診断名不明確	49	1.3%
脊椎・髄損傷	18	0.5%
熱傷Ⅱ度以下	14	0.4%
内部・臓器損傷	7	0.2%
その他	459	11.7%
合計	3,915	100.0%

(6) 発生場所

加害の搬送人員を発生場所別でみると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が37.9%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-37 加害の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	1,483	37.9%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	1,150	29.4%
警察署・交番	407	10.4%
一般飲食店	251	6.4%
駅	203	5.2%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	48	1.2%
コンビニエンスストア	44	1.1%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	39	1.0%
その他	290	7.4%
合計	3,915	100.0%

※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

8 運動競技事故

(1) 搬送人員推移

運動競技事故（スポーツの実施者や関係者などで、スポーツに関連して受傷した事故）の搬送人員は2,917人で、前年に比べ2,339人（44.5%）減少しています。

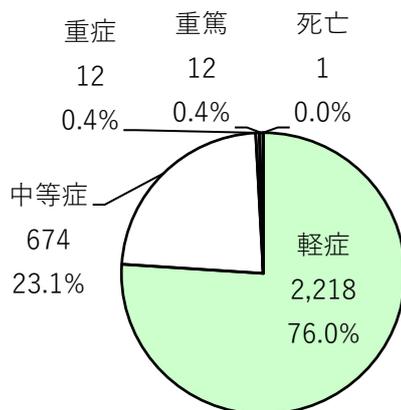
図表 2-4-38 運動競技事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

運動競技事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が76.0%を占めています。

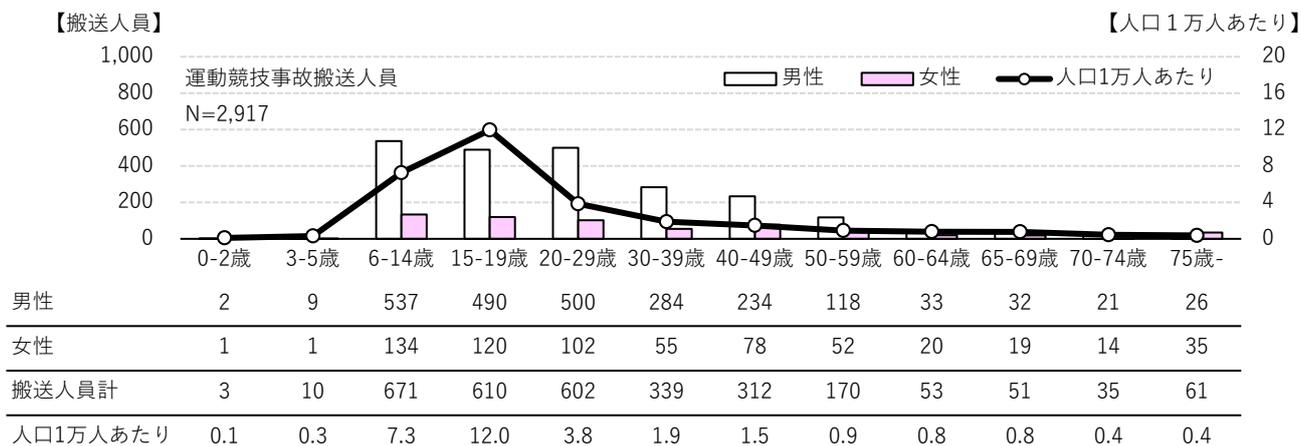
図表 2-4-39 運動競技事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

運動競技事故の搬送人員を年齢層別で見ると、6歳から29歳の男性が高い割合を占めています。

図表 2-4-40 運動競技事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

運動競技事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-41 運動競技事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層(歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	40	51	89	79	64	32	12	5	6	13	391
	転倒	1	6	296	174	141	92	101	64	20	27	18	34	974
	転落・滑落	-	1	16	14	26	12	7	3	3	1	-	-	83
	墜落・飛び降り	1	-	7	2	9	5	1	-	-	-	-	-	25
	挟まれ・巻き込まれ・ねじられ	-	-	3	8	17	9	7	-	-	1	-	1	46
	轢かれ・踏まれ	-	-	7	2	3	1	3	1	-	-	-	-	17
	衝突・ぶつかり	-	1	196	228	185	56	61	33	7	9	3	5	784
	殴打・蹴られ	-	1	10	23	27	15	7	3	1	-	-	-	87
	ひきずられ・引っ張られ	-	-	1	2	8	1	-	3	2	-	-	-	17
	埋没・圧迫・押され	-	-	1	6	4	-	1	-	1	-	-	-	13
	飛来物・落下物	-	-	32	34	19	7	6	7	1	2	1	2	111
	その他行動・作用	1	-	37	43	59	52	44	20	2	3	5	1	267
	不明	-	-	1	1	2	1	1	-	-	1	-	-	7
危険物接触作用・環境暴露	刃物・鋭利物	-	-	2	-	-	3	1	-	1	1	-	-	8
	鈍器物	-	-	4	2	1	-	-	-	1	-	-	-	8
窒息・誤飲・異物	溺水・入水	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
自然環境作用	高温環境	-	1	16	17	9	5	5	2	2	1	2	3	63
	その他自然環境	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
その他		-	-	2	3	3	-	3	2	-	-	-	1	14

(5) 外傷形態

運動競技事故の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が 37.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-42 運動競技事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	1,102	37.8%
骨折	618	21.2%
脱臼・捻挫	474	16.2%
開放創・離断	89	3.1%
症状・徴候・診断名不明確	85	2.9%
脊椎・髄損傷	27	0.9%
内部・臓器損傷	23	0.8%
筋・骨格系疾患	22	0.8%
その他	477	16.4%
合計	2,917	100.0%

(6) 発生場所

運動競技事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「野球場・運動場・体育館」が38.4%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-43 運動競技事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
野球場・運動場・体育館	1,120	38.4%
小・中・高等・大学等	760	26.1%
野球場・運動場・体育館、プール（単独施設）、ゴルフ場、スポーツクラブ・ジム等以外の運動施設	252	8.6%
スポーツクラブ・ジム	173	5.9%
公園・キャンプ場・ピクニックガーデン	122	4.2%
住宅（専用・共同・寮・寄宿舎）	119	4.1%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	112	3.8%
競馬・競輪・競艇場	35	1.2%
その他	224	7.7%
合計	2,917	100.0%

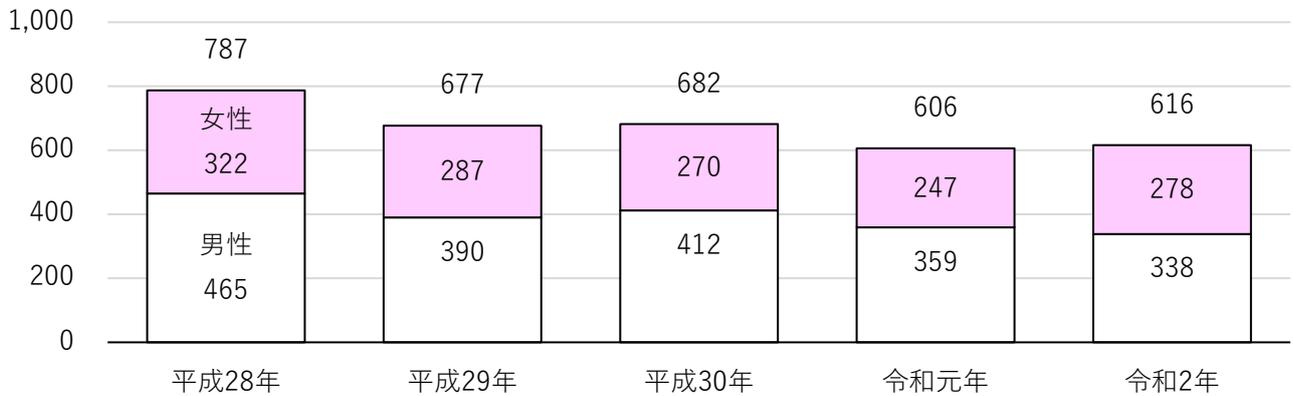
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

9 火災事故

(1) 搬送人員推移

火災事故（消火活動、救助活動、避難行動中などに受傷した事故や、火災の発生が原因となった事故）の搬送人員は616人で、前年に比べ10人（1.7%）増加しています。

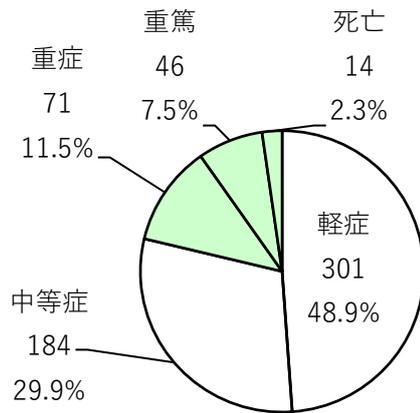
図表 2-4-44 火災事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

火災事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が21.3%を占めています。

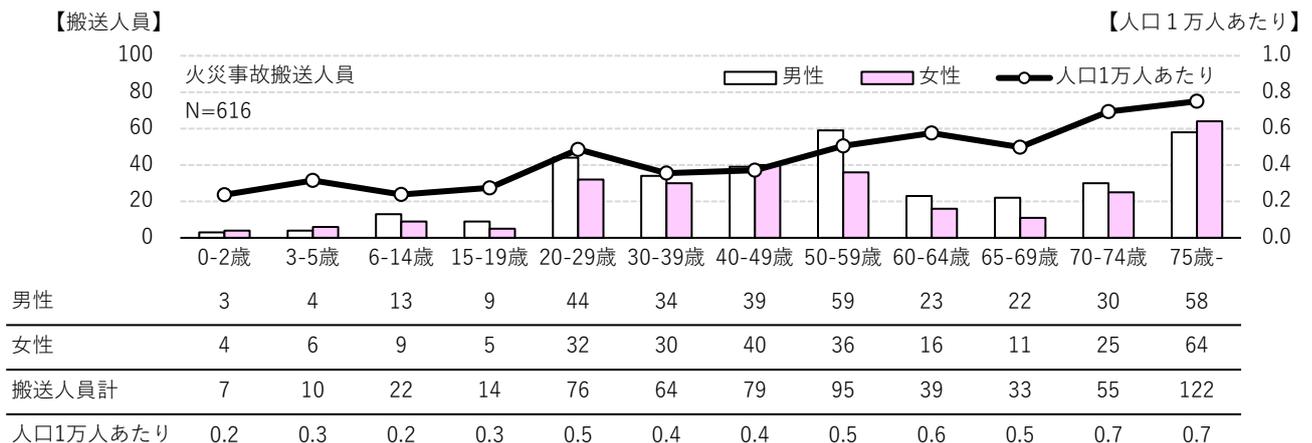
図表 2-4-45 火災事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

火災事故の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の19.8%の割合を占めており、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、及び75歳以上が高い割合を占めています。

図表 2-4-46 火災事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

火災事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「高熱気体・燃焼物」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-47 火災事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層（歳）											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1	3	1	8
	転倒	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	3
	転落・滑落	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	墜落・飛び降り	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	衝突・ぶつかり	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	3
	その他行動・作用	1	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	5
	不明	-	-	-	-	-	2	1	3	1	2	5	9	23
危険物接触作用・ 環境暴露	刃物・鋭利物	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	爆発・破裂物	-	-	-	-	6	2	8	-	1	-	2	7	26
	高熱固体・燃焼物	-	3	7	3	5	8	8	9	4	-	7	15	69
	高熱液体・燃焼物	1	-	-	1	10	2	2	11	-	2	-	6	35
	高熱気体・燃焼物	2	1	10	6	40	40	48	53	27	20	29	67	343
	有毒気体・燃焼物	2	1	1	2	7	2	3	8	3	4	4	5	42
	電流・感電	1	4	3	1	-	3	2	2	-	1	1	1	19
	その他危険物	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2
窒息・誤飲・異物	異物（食道・消化器）	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	その他窒息・異物	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
薬物服用・吸入・ 中毒	その他薬物・中毒	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
自然環境作用	高温環境	-	-	-	-	2	-	1	2	1	1	1	3	11
その他		-	-	-	-	-	3	3	4	-	2	2	4	18

(5) 外傷形態

火災事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「熱傷Ⅱ度以下」が62.0%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-48 火災事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
熱傷Ⅱ度以下	382	62.0%
熱傷Ⅲ度以上	45	7.3%
中毒	36	5.8%
症状・徴候・診断名不明確	35	5.7%
呼吸器系疾患	15	2.4%
打撲・血腫・挫傷	12	1.9%
心・循環器疾患	3	0.5%
開放創・離断	2	0.3%
その他	86	14.0%
合計	616	100.0%

(6) 発生場所

火災事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が78.4%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-49 火災事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	483	78.4%
一般道路（公道・私道・施設内道路）	36	5.8%
一般飲食店	34	5.5%
工場・製造所・作業場	15	2.4%
会社・オフィス	9	1.5%
一般小売・販売店	6	1.0%
建築・工事現場	5	0.8%
デパート・スーパー・量販店	4	0.6%
その他	24	3.9%
合計	616	100.0%

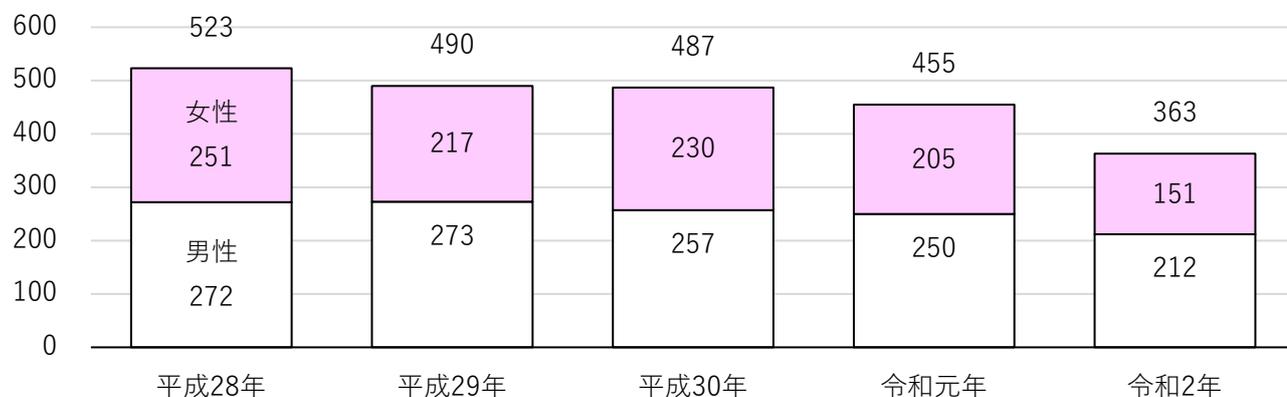
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

10 水難事故

(1) 搬送人員推移

水難事故（海、河川・池、プールなどで水泳中に溺れたり、水中に転落して発生した溺水事故）の搬送人員は363人で、前年に比べ92人（20.2%）減少しています。

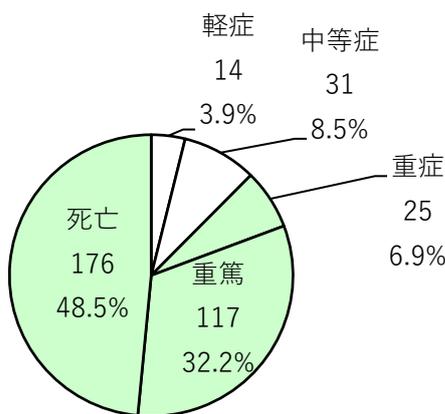
図表 2-4-50 水難事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

水難事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、重症以上が87.6%を占めています。

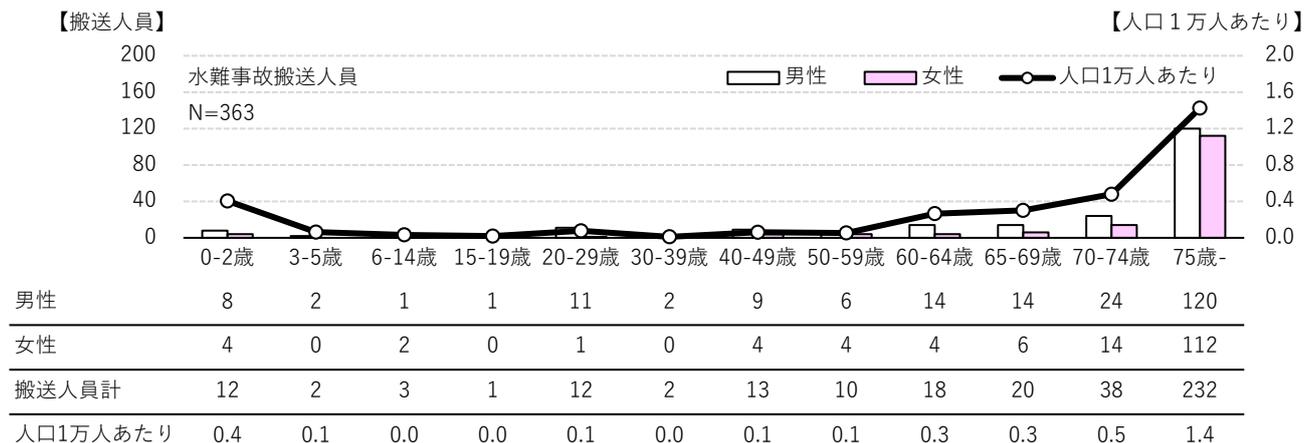
図表 2-4-51 水難事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

水難事故の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の63.9%の割合を占めています。

図表 2-4-52 水難事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

水難事故の搬送人員を事故発症時動作別で見ると、「溺水・入水」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-53 水難事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層（歳）											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	外力作用・接触のない動作	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	墜落・飛び降り	-	-	-	-	3	-	1	1	1	-	-	1	7
	その他行動・作用	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	不明	-	-	-	-	2	-	1	-	8	1	3	6	21
窒息・誤飲・異物	窒息・誤飲（気道）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	溺水・入水	12	2	3	1	6	2	10	9	9	19	34	222	329
自然環境作用	低温環境	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
その他		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2

(5) 外傷形態

水難事故の搬送人員を初診時傷病名別で見ると、「症状・徴候・診断名不明確」が43.5%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-54 水難事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
症状・徴候・診断名不明確	158	43.5%
窒息・異物誤飲	31	8.5%
心・循環器疾患	15	4.1%
打撲・血腫・挫傷	5	1.4%
診断不明	3	0.8%
呼吸器系疾患	3	0.8%
精神系疾患	2	0.6%
筋・骨格系疾患	1	0.3%
その他	145	39.9%
合計	363	100.0%

(6) 発生場所

水難事故の搬送人員を発生場所別で見ると、「住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）」が71.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-55 水難事故の発生場所別搬送人員

発生場所（区分）	搬送人員	割合
住宅（専用・共同・寮・寄宿舍）	258	71.1%
河川・水路	66	18.2%
サウナ・銭湯（単独施設）	14	3.9%
特別養護老人ホーム以外の高齢者施設、グループホーム等	6	1.7%
健康ランド・スーパー銭湯	5	1.4%
海	3	0.8%
ホテル・旅館・簡易宿泊所	3	0.8%
特別養護老人ホーム	2	0.6%
その他	6	1.7%
合計	363	100.0%

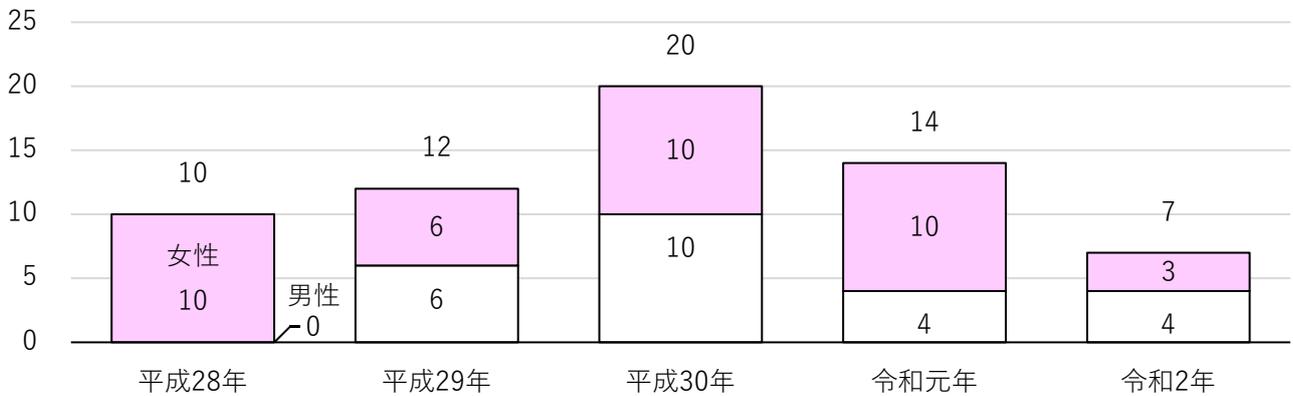
※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

11 自然災害事故

(1) 搬送人員推移

自然災害事故（自然現象に起因する災害による事故）の搬送人員は7人で、前年に比べ7人（50%）減少しています。

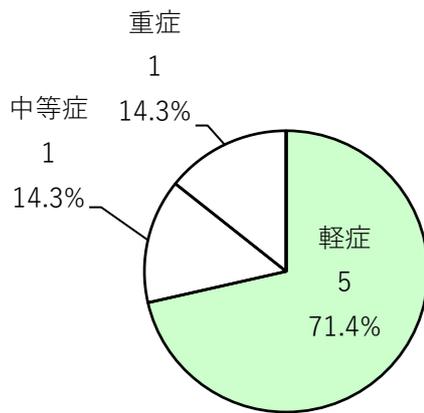
図表 2-4-56 自然災害事故の搬送人員推移



(2) 初診時程度

自然災害事故の搬送人員を初診時程度別で見ると、軽症が71.4%を占めています。

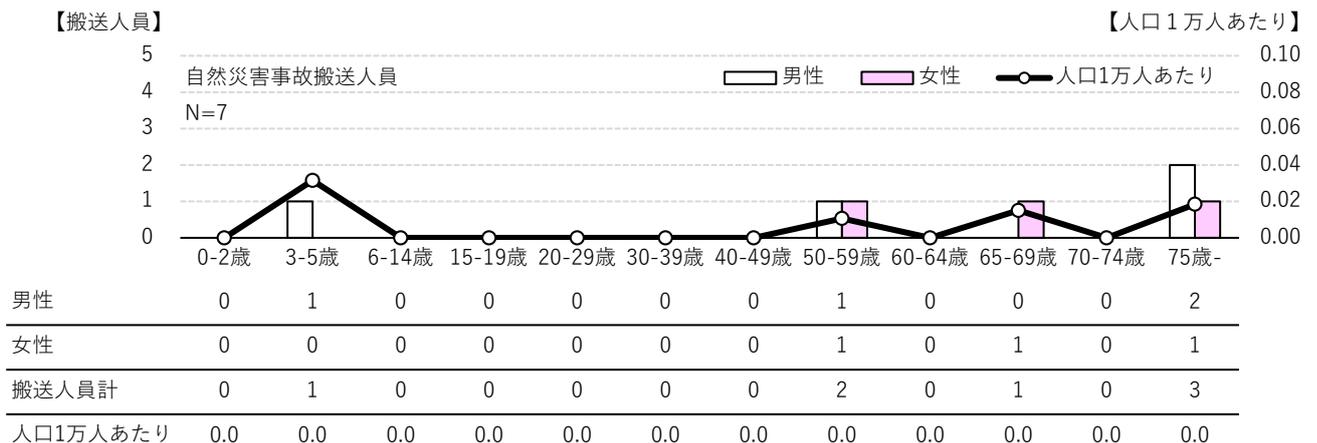
図表 2-4-57 自然災害事故の初診時程度別搬送人員



(3) 年齢層

自然災害事故の搬送人員を年齢層別で見ると、75歳以上が最も多く、全体の42.9%の割合を占めています。

図表 2-4-58 自然災害事故の年齢層別搬送人員



(4) 事故発症時動作

自然災害事故の搬送人員を事故発症時動作別でみると、「転倒」により受傷したものが最も高い割合を占めています。

図表 2-4-59 自然災害事故の事故発症時動作別搬送人員

事故発症時動作		年齢層 (歳)											合計	
		0-2	3-5	6-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-64	65-69	70-74		75-
行動・物体作用	転倒	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	3
自然環境作用	高温環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	低温環境	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
	風水害	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	その他自然環境	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1

(5) 外傷形態

自然災害事故の搬送人員を初診時傷病名別でみると、「打撲・血腫・挫傷」が 28.6%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-60 自然災害事故の初診時傷病名別搬送人員

名称	搬送人員	割合
打撲・血腫・挫傷	2	28.6%
脱臼・捻挫	1	14.3%
開放創・離断	1	14.3%
その他	3	42.9%
合計	7	100.0%

(6) 発生場所

自然災害事故の搬送人員を発生場所別でみると、「一般道路（公道・私道・施設内道路）」が 57.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-4-61 自然災害事故の発生場所別搬送人員

発生場所 (区分)	搬送人員	割合
一般道路 (公道・私道・施設内道路)	4	57.1%
カラオケボックス、漫画喫茶、ゲームセンター、ボーリング場、パチンコ店、競馬、風俗営業店等以外の娯楽・遊戯施設	1	14.3%
ショッピングセンター・モール	1	14.3%
住宅 (専用・共同・寮・寄宿舎)	1	14.3%
合計	7	100.0%

※「発生場所」が不明の場合、救急隊の「接触場所」で集計しています。

12 転院搬送・転送

(1) 「転院搬送」と「転送」の違い

「転院搬送」とは、医療機関からの要請に応じて、当該医療機関の管理下にある傷病者（外来受診又は入院中の患者等）を、医療上の理由により他の医療機関へ搬送するために救急隊が出場するものです。

「転送」とは、救急隊が傷病者を医療機関に搬送し、一旦医師に引継いだ後、当該救急隊が医療機関を引き揚げる前に、当該医療機関の事情等により、引き続き同一救急隊により他の医療機関に搬送するものです。転送の場合、事故種別はその救急事故の主たる事故種別（急病等）に区分し、統計上は出場件数1件、搬送人員1名として処理します。

(2) 搬送人員

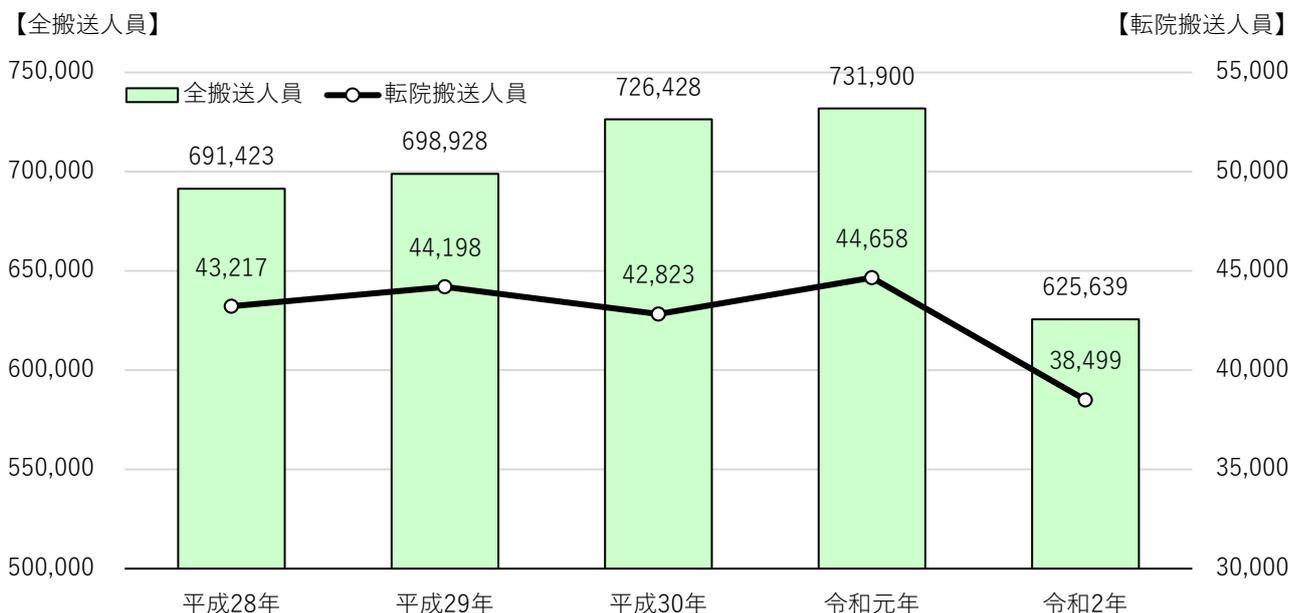
ア 転院搬送推移

転院搬送人員数は、全搬送人員に対して約6%の比率を推移しています。

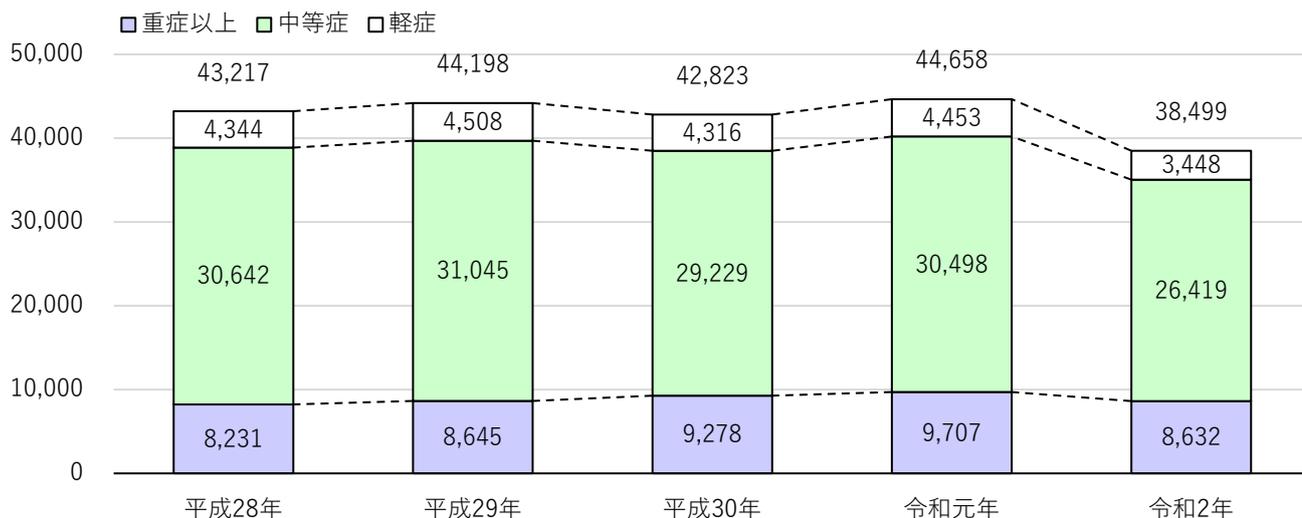
図表 2-4-62 転院搬送人員の対前年比・性別・初診時程度別推移

		平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
全搬送人員		691,423	698,928	726,428	731,900	625,639
転院搬送人員		43,217	44,198	42,823	44,658	38,499
全搬送人員に対する比率		6.3%	6.3%	5.9%	6.1%	6.2%
対前年比		62	981	-1,375	1,835	-6,159
		0.1%	2.3%	-3.1%	4.3%	-13.8%
性別	男性	22,898	22,351	22,699	23,766	20,734
	女性	20,319	20,847	20,124	20,892	17,765
初診時程度構成比 (%)	重症以上	8,231	8,645	9,278	9,707	8,632
		19.0%	19.6%	21.7%	21.7%	22.4%
	中等症	30,642	31,045	29,229	30,498	26,419
		70.9%	70.2%	68.3%	68.3%	68.6%
	軽症	4,344	4,508	4,316	4,453	3,448
		10.1%	10.2%	10.1%	10.0%	9.0%

図表 2-4-63 全搬送人員と転院搬送人員の推移



図表 2-4-64 転院搬送の初診時程度別推移



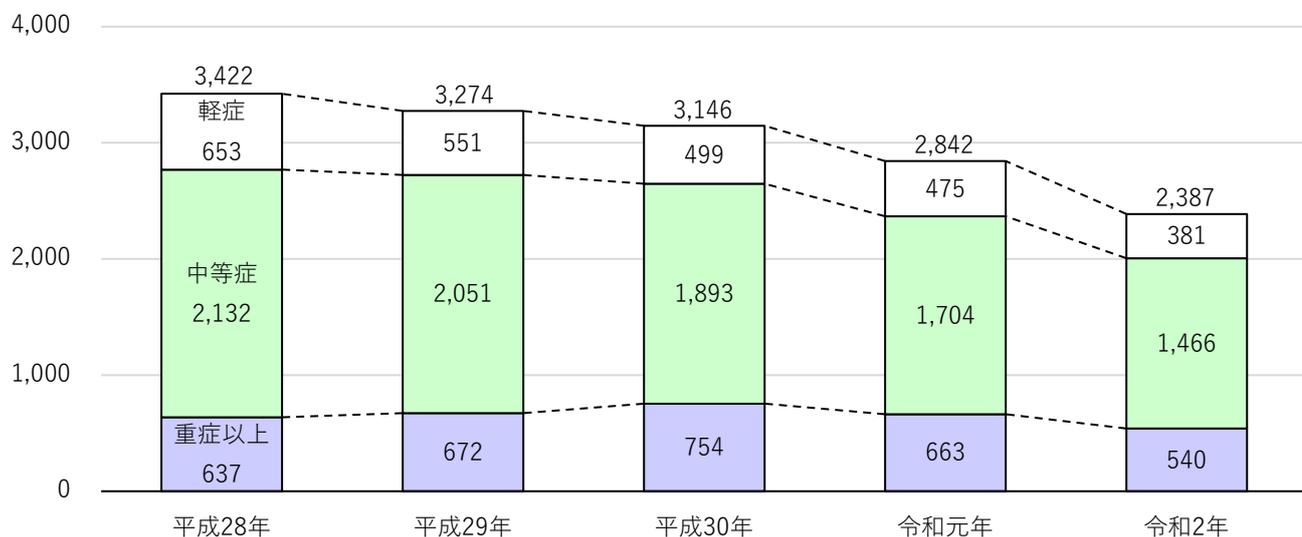
イ 転送推移

転送事案は全搬送人員に対して1%未満の比率を推移しています。

図表 2-4-65 転送人員の対前年比・転送回数・初診時程度別推移

		平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
全搬送人員		691,423	698,928	726,428	731,900	625,639
全転送人員		3,422	3,274	3,146	2,842	2,387
全搬送人員に対する比率		0.5%	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%
対前年比		-258 -7.0%	-148 -4.3%	-128 -3.9%	-304 -9.7%	-455 -16.0%
転送回数	1回	3,402	3,264	3,134	2,826	2,382
	2回	20	10	12	16	5
	3回以上	-	-	-	-	-
初診時程度構成比(%)	重症以上	637	672	754	663	540
		18.6%	20.5%	24.0%	23.3%	22.6%
	中等症	2,132	2,051	1,893	1,704	1,466
		62.3%	62.6%	60.2%	60.0%	61.4%
軽症	653	551	499	475	381	
		19.1%	16.8%	15.9%	16.7%	16.0%

図表 2-4-66 転送人員の初診時程度別推移



(3) 転院搬送及び転送の理由

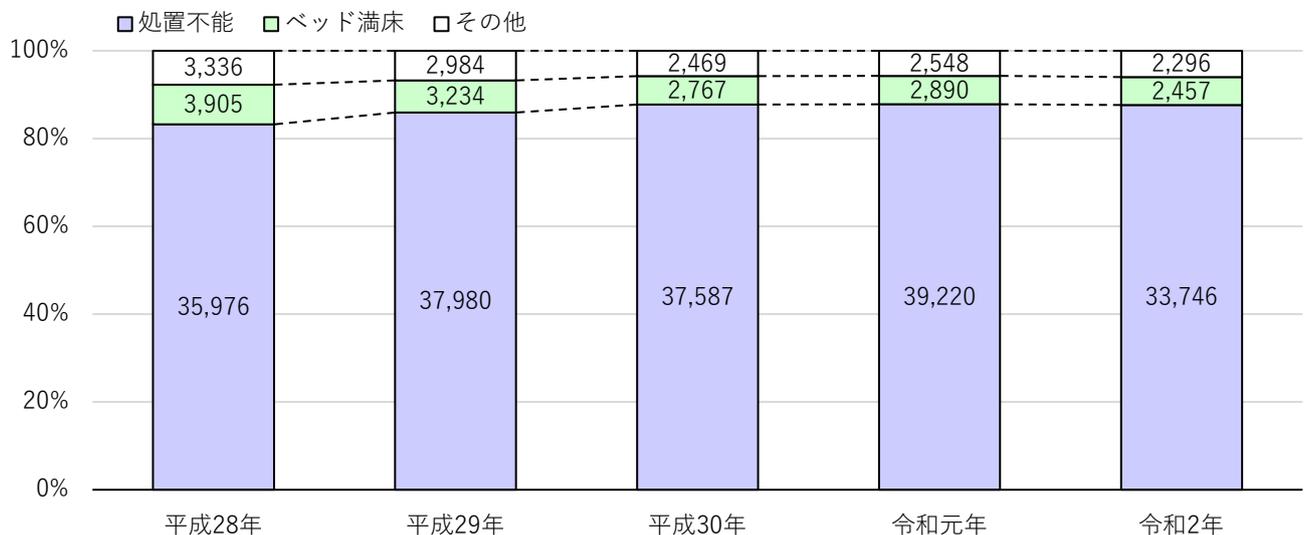
ア 転院搬送

転院搬送要請の理由のうち「処置不能」によるものが毎年8割以上を占めています。

図表 2-4-67 主な転院搬送要請理由別の搬送人員及び対前年比

	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年		
	実数	前年比									
全転院搬送人員	43,217	0.1%	44,198	2.3%	42,823	-3.1%	44,658	4.3%	38,499	-13.8%	
ベッド満床	搬送人員	3,905	-12.2%	3,234	-17.2%	2,767	-14.4%	2,890	4.4%	2,457	-15.0%
	構成比	9.0%	-1.3%	7.3%	-1.7%	6.5%	-0.8%	6.5%	0.0%	6.4%	-0.1%
処置不能	搬送人員	35,976	2.1%	37,980	5.6%	37,587	-1.0%	39,220	4.3%	33,746	-14.0%
	構成比	83.2%	1.6%	85.9%	2.7%	87.8%	1.9%	87.8%	0.1%	87.7%	-0.1%
その他	搬送人員	3,336	-4.1%	2,984	-10.6%	2,469	-17.3%	2,548	3.2%	2,296	-9.9%
	構成比	7.7%	-0.4%	6.8%	-0.9%	5.8%	-1.0%	5.7%	-0.1%	6.0%	-0.3%

図表 2-4-68 主な転院搬送要請理由別搬送人員の推移



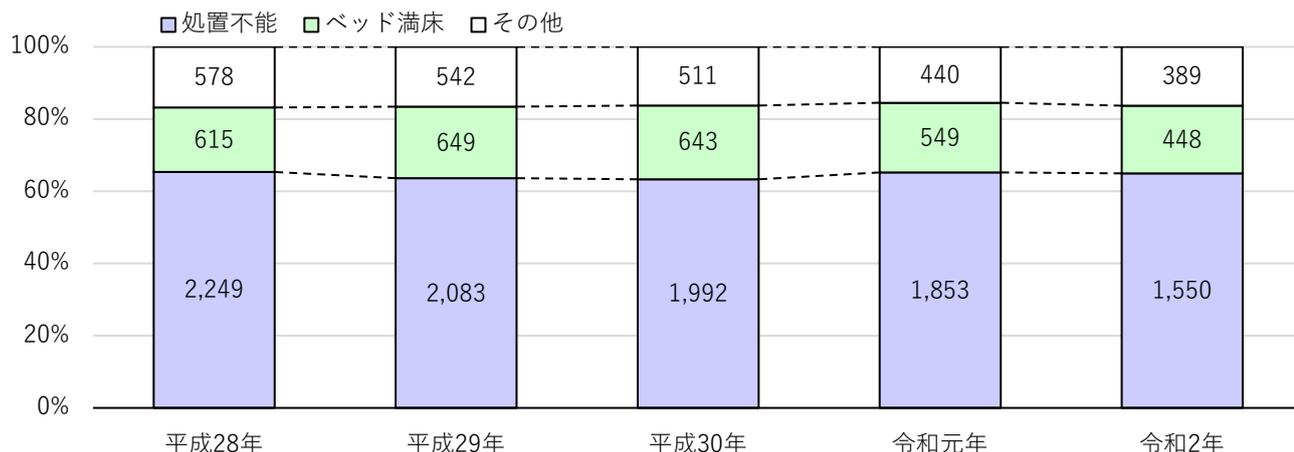
イ 転送

転送の理由のうち「処置不能」によるものが毎年6割以上を占めています。

図表 2-4-69 主な転送理由別の転送回数及び対前年比の推移

	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年		
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	
全転送回数	3,442	-7.3%	3,274	-4.9%	3,146	-3.9%	2,842	-9.7%	2,387	-16.0%	
処置不能	転送回数	2,249	-6.9%	2,083	-7.4%	1,992	-4.4%	1,853	-7.0%	1,550	-16.4%
	構成比	65.3%	0.3%	63.6%	-1.7%	63.3%	-0.3%	65.2%	1.9%	65.0%	-0.2%
ベッド満床	転送回数	615	-7.2%	649	5.5%	643	-0.9%	549	-14.6%	448	-18.4%
	構成比	17.9%	0.0%	19.8%	2.0%	20.4%	0.6%	19.3%	-1.1%	18.8%	-0.5%
医療機関個別事情	転送回数	52	2.0%	43	-17%	39	-9.3%	29	-25.6%	40	37.9%
	構成比	1.5%	0.1%	1.3%	-0.2%	1.2%	-0.1%	1.0%	-0.2%	1.7%	0.7%
医師他院搬送指示	転送回数	464	-8.3%	453	-2.4%	425	-6.2%	378	-11.1%	315	-16.7%
	構成比	13.5%	-0.2%	13.8%	0.4%	13.5%	-0.3%	13.3%	-0.2%	13.2%	-0.1%
傷病者個別事情	転送回数	38	-22.4%	28	-26.3%	37	32.1%	21	-43.2%	23	9.5%
	構成比	1.1%	-0.2%	0.9%	-0.2%	1.2%	0.3%	0.7%	-0.4%	1.0%	0.3%
その他	転送回数	24	-11.1%	18	-25.0%	10	-44.4%	12	20.0%	11	-8.3%
	構成比	0.7%	0.0%	0.5%	-0.1%	0.3%	-0.2%	0.4%	0.1%	0.5%	0.1%

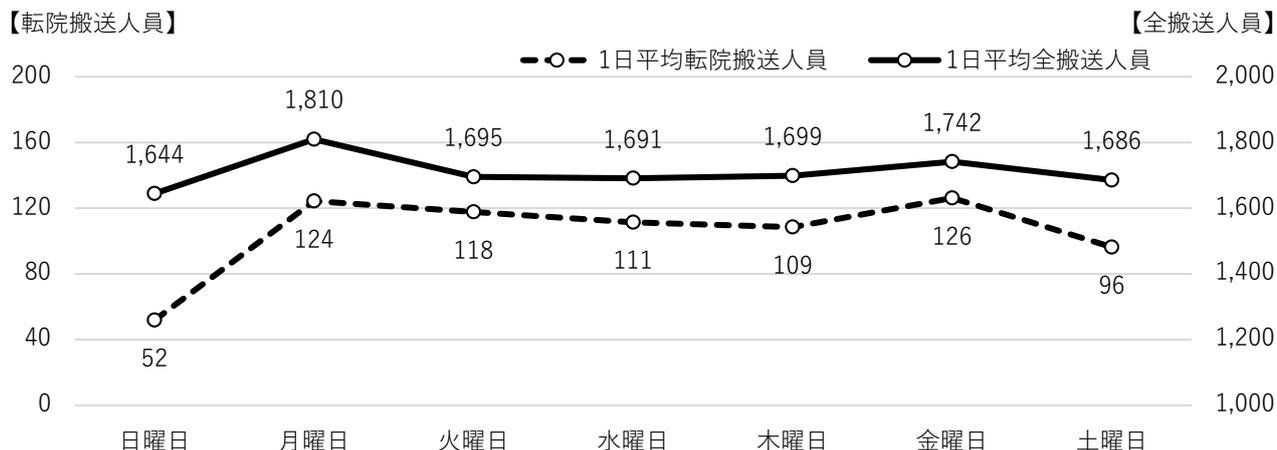
図表 2-4-70 主な転送理由別搬送人員の推移



(4) 曜日別

転院搬送は土曜日、日曜日に要請が少ない傾向となっており、特に日曜日は平日の半数以下となっています。

図表 2-4-71 曜日別 1日平均転院搬送人員

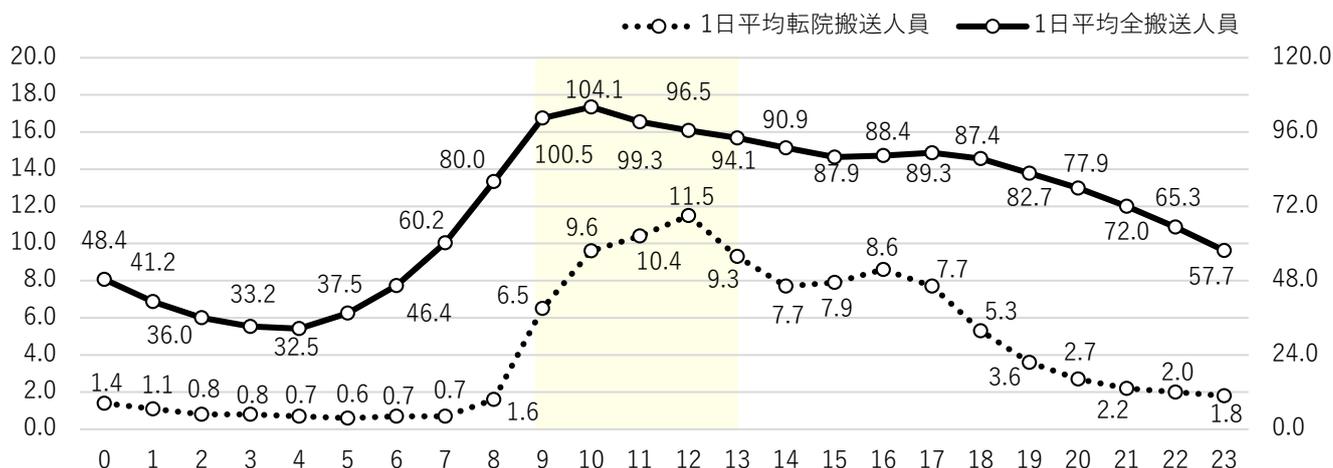


(5) 時間帯別

ア 総数

転院搬送は、9時から13時をピークとして、医療機関の通常の診療時間帯に搬送人員が多いことがわかります。

図表 2-4-72 時間帯別 1日平均転院搬送人員

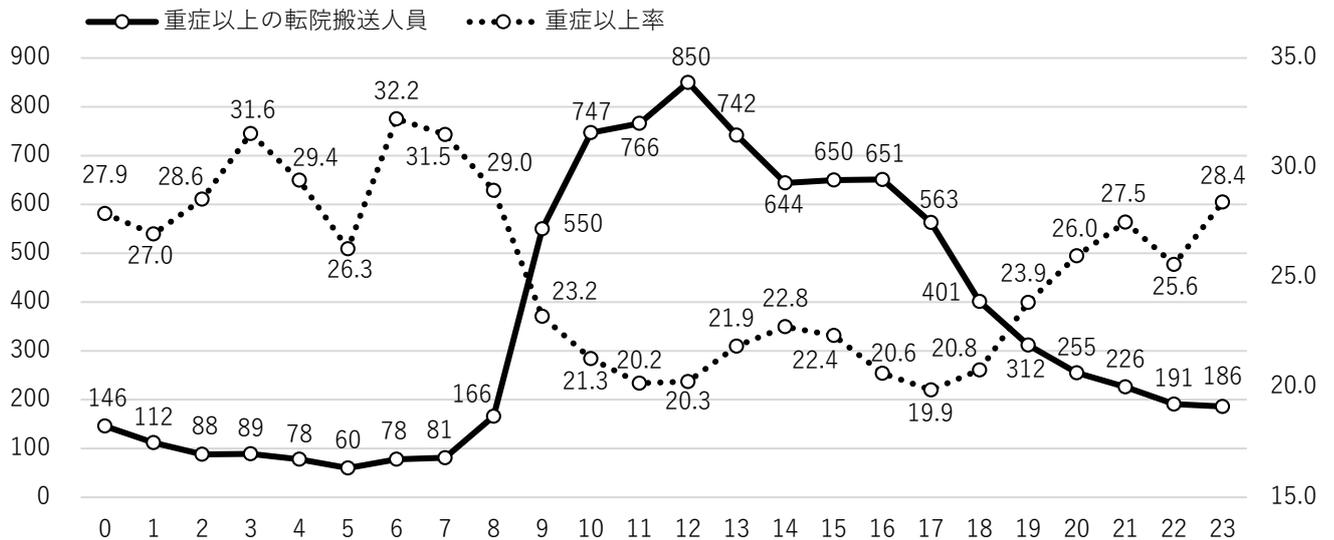


イ 時間帯別、初診時程度別の比率

各時間帯の搬送人員を初診時程度別の構成比で見ると、重症以上の傷病者の比率は、夜遅くから朝にかけて、割合が多くなっていることが伺えます。

これは、全体的に転院搬送は医療機関の通常の診療時間帯に行われているのに対して、重症以上の傷病者は、緊急的な医療上の理由等により、時間帯を問わず転院搬送されていることを示唆していると言えます。

図表 2-4-73 時間帯別転院搬送人員の重症比率

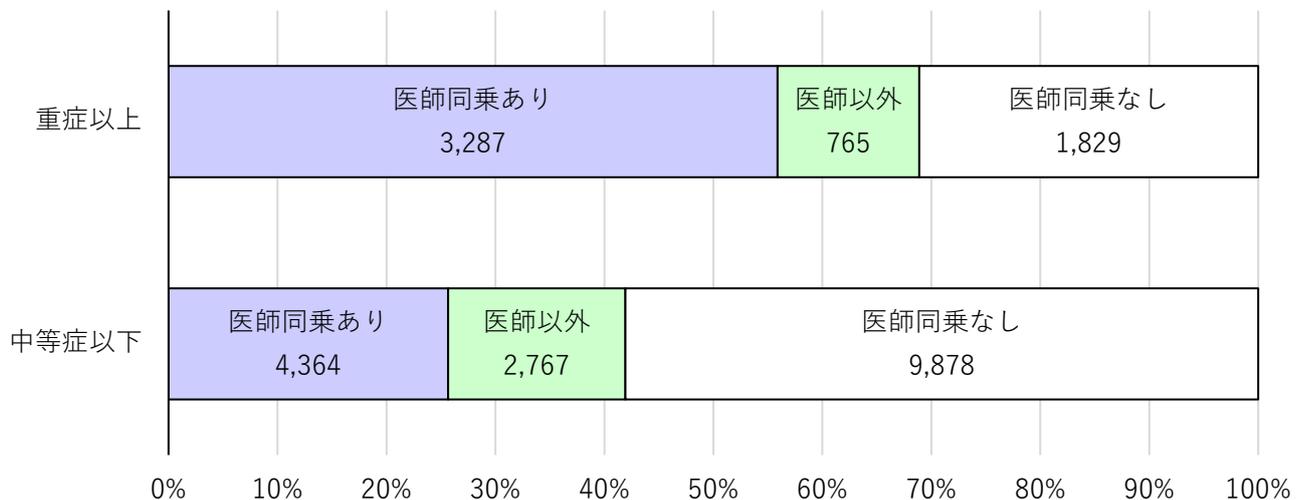


(6) 同乗者等 (医師等)

東京消防庁救急業務等に関する規程第 43 条第 2 項において、「転院搬送を行う場合は、当該医療機関の医師を同乗させるものとする。ただし、医師が同乗による病状管理の必要がないと認め、かつ、搬送途上における相当な措置を講じた場合は、この限りではない。」としています。

病状管理が必要となる目安として、傷病者の初診時程度が重症以上及び中等症以下の場合にデータを区分し、医師の同乗比率を分析した結果は次のとおりで、重症以上の 5 割強に医師が同乗していることがわかります。

図表 2-4-74 転院搬送の医師等同乗比率



13 医師搬送・資器材等輸送

(1) 統計上の処理

ア 医師搬送

医師搬送とは、救急現場において傷病者に医師による医療行為が必要となった場合等に、救急隊により医師を救急現場に搬送することを指します。

イ 資器材等輸送

資器材等輸送とは、医薬品、医療用資器材、救急資器材等を救急隊により医療機関等に搬送することを指します。

資器材等の他に傷病者を搬送している場合は、資器材輸送には該当せず、当該傷病者の救急事故に応じた事故種別の出場件数、救護人員等に計上されます。

また、助産所からの要請により、保育器と同時に周産期医療施設等の医師を搬送する場合は、資器材等輸送（保育器）に計上しています。

(2) 推移

平成28年から令和2年の医師搬送・救急資器材等輸送件数は次のとおりです。

図表 2-4-75 医師搬送・資器材等輸送件数の推移

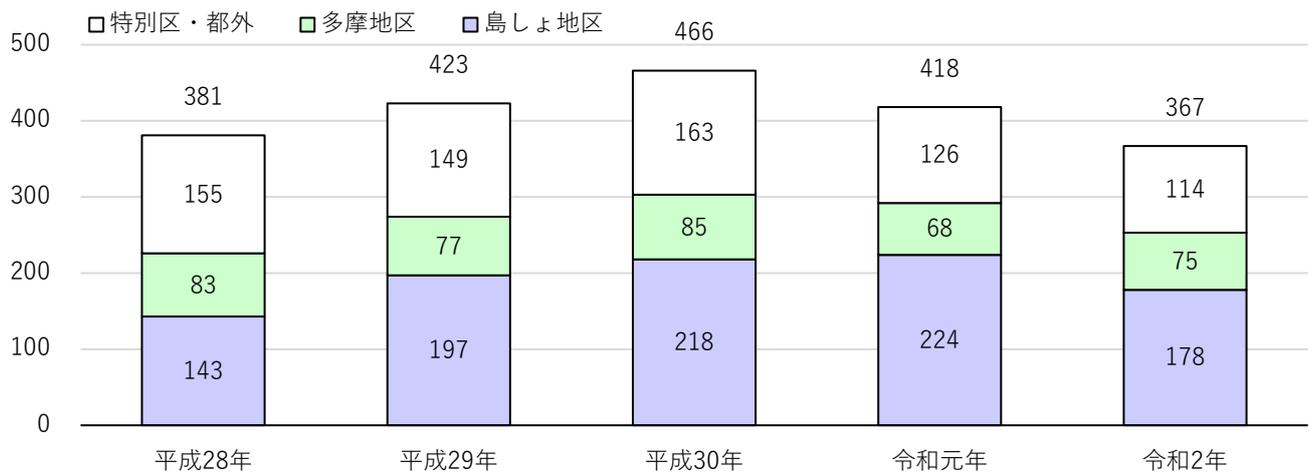
	医師搬送	資器材等輸送							
		資器材計	保育器	救急隊員	切断肢	臓器	医療機器	医薬品等	その他
平成28年	229	504	489	1	5	5	2	-	2
平成29年	190	542	503	21	2	11	3	-	2
平成30年	210	546	495	36	-	10	1	1	3
令和元年	211	556	501	38	2	10	-	-	5
令和2年	160	770	680	78	1	4	2	-	5

14 回転翼航空機による救急活動

回転翼航空機による救急出場件数及び初診時程度別搬送人員の推移は次のとおりです。初診時程度別では重症以上が約63.2%を占めています。

図表 2-4-76 回転翼航空機の救急出場件数の推移

	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
島しょ地区	143	197	218	224	178
多摩地区	83	77	85	68	75
特別区・都外	155	149	163	126	114
合計	381	423	466	418	367



図表 2-4-77 回転翼航空機の初診時程度別搬送人員の推移

初診時程度	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
軽症	3	4	11	1	5
中等症	113	74	77	41	72
重症	123	131	144	124	98
重篤	37	41	30	75	26
死亡	6	3	2	7	8
合計	282	253	264	248	209
最終的に病院へ搬送した人員	111	100	100	86	84

